



令和4年度人生の最終段階における医療・ケアに関する 意識調査の結果について（報告）

「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」について

1. 目的

平成4年度以降約5年ごとに、計6回にわたって、一般国民及び医療・介護従事者の人生の最終段階における医療・ケアに対する意識やその変化を把握するための調査を実施し、我が国の人生の最終段階における医療・ケアを考える際の資料として広く活用してきた。平成29年度調査から5年を経て、社会的ニーズや医療・ケアの提供状況にも変化が生じており、令和4年度改めて、一般国民及び医療・介護従事者に対して意識調査を行い、その結果を、本人の意思を尊重した人生の最終段階における医療・ケアのあり方の検討に活用する。

2. 調査時期

令和4年11月22日～令和5年1月21日（令和4年12月20日の締切以降に届いた調査票についても集計に含めた。）

3. 調査対象

一般国民、医師、看護師、介護支援専門員

- ・一般国民については、20歳以上の者から層化2段階無作為抽出をした。
- ・医師、看護師、介護支援専門員については施設を無作為抽出し、各施設を通じて対象者に配布した。
- ・病院の医師・看護師については、同施設よりそれぞれ2名（計4名）を選定することとし、各2名のうち1名は人生の最終段階における医療・ケアに特に携わっていると考えられる者を回答者とするよう依頼した。

4. 調査方法

郵送で調査票を配布し、郵送またはWebにより回答

（医療・介護従事者は、一般国民票に加え、医療・介護従事者票（医師票、看護師票、介護支援専門員票）に回答。）

5. 前回調査との変更点

調査期間：平成29年度調査は12月5日～12月29日に行われており調査期間が異なる。

調査対象：介護従事者については「介護職員」から「介護支援専門員」へ変更した。居宅介護支援事業所を調査対象施設に追加した。
施設長への調査を廃止した。

調査方法：平成29年度は郵送により回答、令和4年度は郵送に加えWebによる回答も可能とした。

「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」の調査内容及び結果の概要

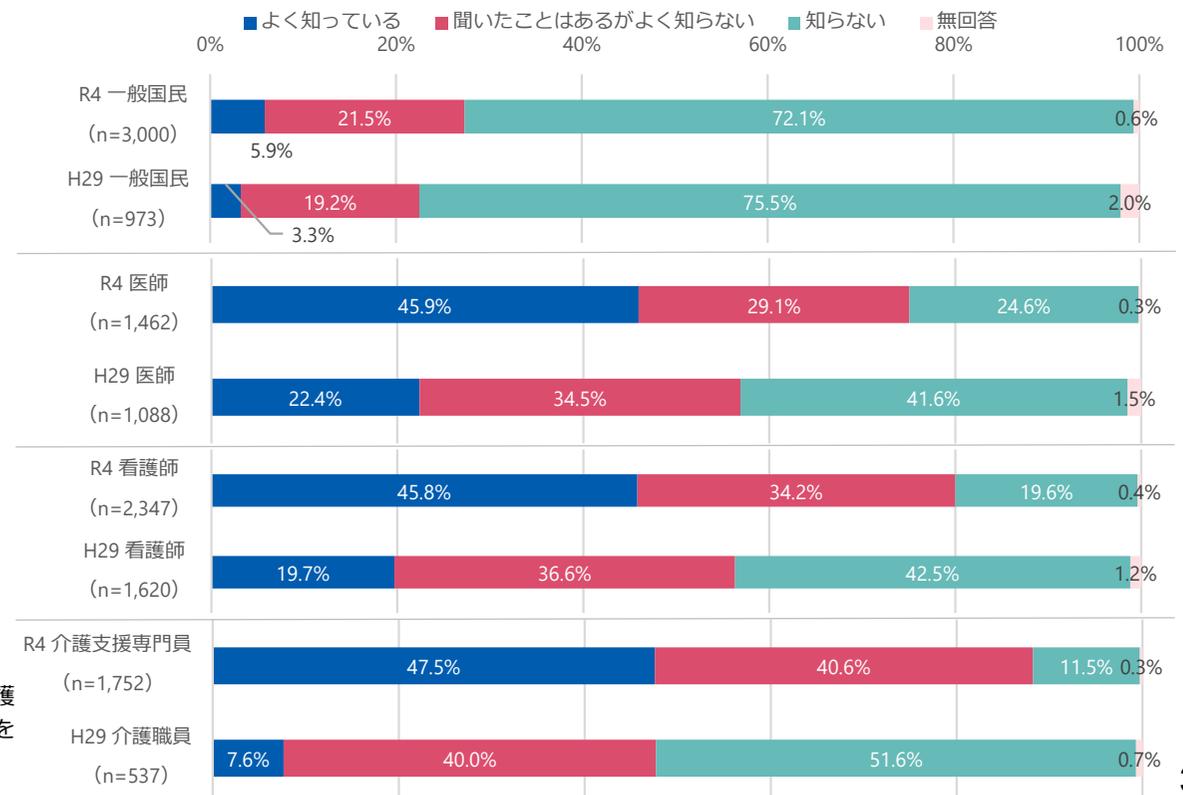
調査の概要

- 一般国民及び医療・介護従事者の人生の最終段階における医療・ケアに対する意識やその変化を把握することを目的として、平成4年度以降、約5年ごとに調査を実施しており、前回の平成29年度調査から5年経過した令和4年度（令和4年11月22日～令和5年1月21日※1）に、一般国民、医師、看護師、介護支援専門員※2を対象に調査※3を行った。
- 全対象者向け調査票（一般国民票）の回収率は、一般国民50.0%（平成29年度：16.2%）、医師32.5%（同：24.2%）、看護師42.7%（同：27.0%）と、平成29年度調査と比べて全体的に上回った。介護支援専門員については、回収率は58.4%であった。

※1 平成29年度調査とは調査期間が異なる ※2 平成29年度調査の対象は介護職員 ※3 令和4年度調査から郵送に加え、Webによる回答も可能とした

結果の概要①（人生会議（アドバンス・ケア・プランニング＜ACP＞）について知っていたか。）

- 人生会議の認知度について、一般国民では平成29年度調査と大きな変化はなく、「よく知っている」と回答した者の割合は5.9%（平成29年度：3.3%）、「聞いたことはあるがよく知らない」と回答した者の割合は21.5%（同：19.2%）、「知らない」と回答した者の割合は72.1%（同：75.5%）であった。
- 医師、看護師で、人生会議について「よく知っている」と回答した者の割合はそれぞれ45.9%（平成29年度：22.4%）、45.8%（同：19.7%）であり、平成29年度調査と変化がみられた。介護支援専門員で「よく知っている」と回答した者の割合は47.5%であった。



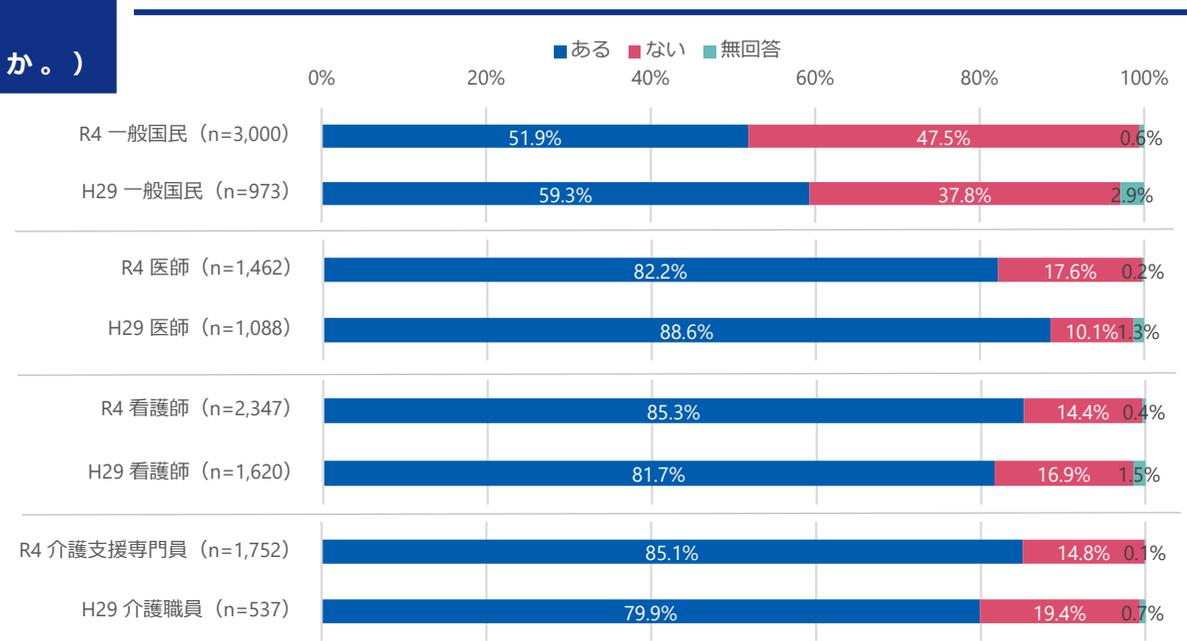
※平成29年度調査とは調査期間や回収率等が異なる点に留意する必要がある。また、介護従事者については、平成29年度調査では介護職員、令和4年度調査では介護支援専門員を対象としている。

「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」の調査内容及び結果の概要

結果の概要②

(人生の最終段階における医療・ケアについて考えたことがあるか。)

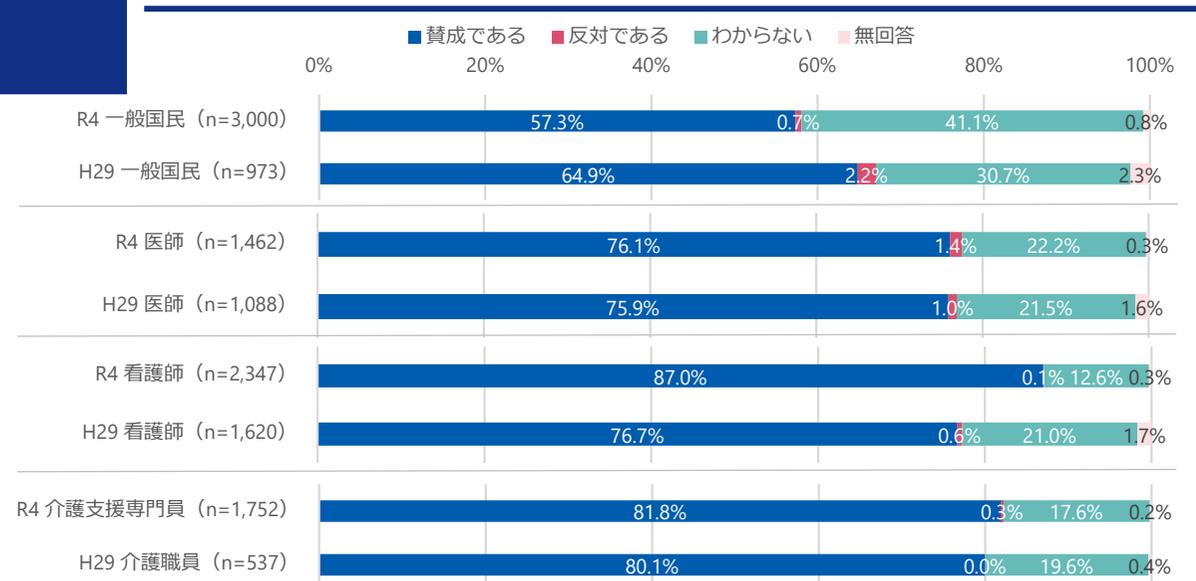
- 人生の最終段階における医療・ケアについて考えたことがあるかとの設問について、一般国民の51.9%（平成29年度：59.3%）が考えたことが「ある」と回答し、47.5%（同：37.8%）が「ない」と回答した。
- 医師、看護師で、考えたことが「ある」と回答した者の割合はそれぞれ82.2%（平成29年度：88.6%）、85.3%（同：81.7%）、介護支援専門員では85.1%であり、いずれも一般国民より高かった。



結果の概要③

(人生会議を進めることについて、どう思うか。)

- 人生会議を進めることについて、「賛成である」と回答した者の割合は、一般国民57.3%（平成29年度：64.9%）、医師76.1%（同：75.9%）、看護師87.0%（同：76.7%）、介護支援専門員81.8%であり、医療・介護従事者において「賛成である」と回答した者の割合は一般国民と比較して高かった。なお、「わからない」と回答した者も一定数おり、一般国民41.1%（同：30.7%）、医師22.2%（同：21.5%）、看護師12.6%（同：21.0%）、介護支援専門員17.6%であった。



「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」の調査内容及び結果の概要

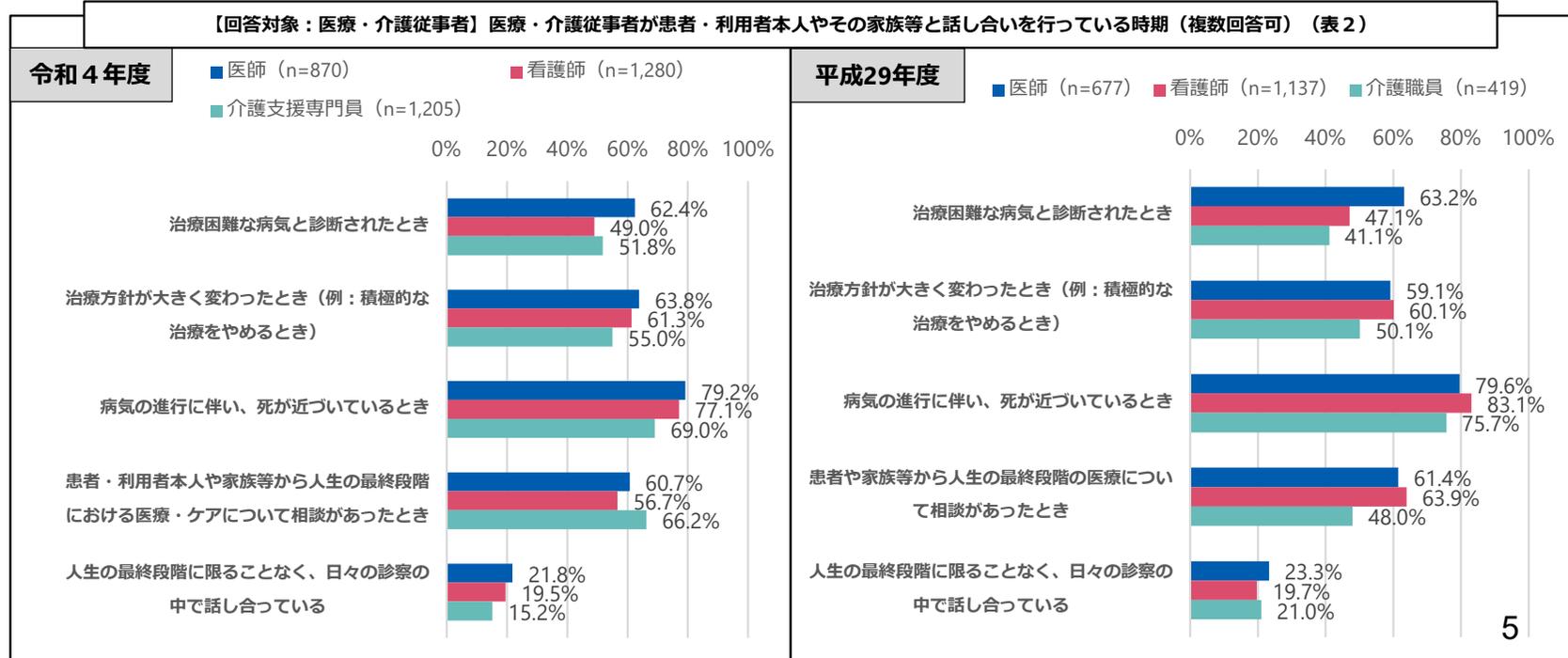
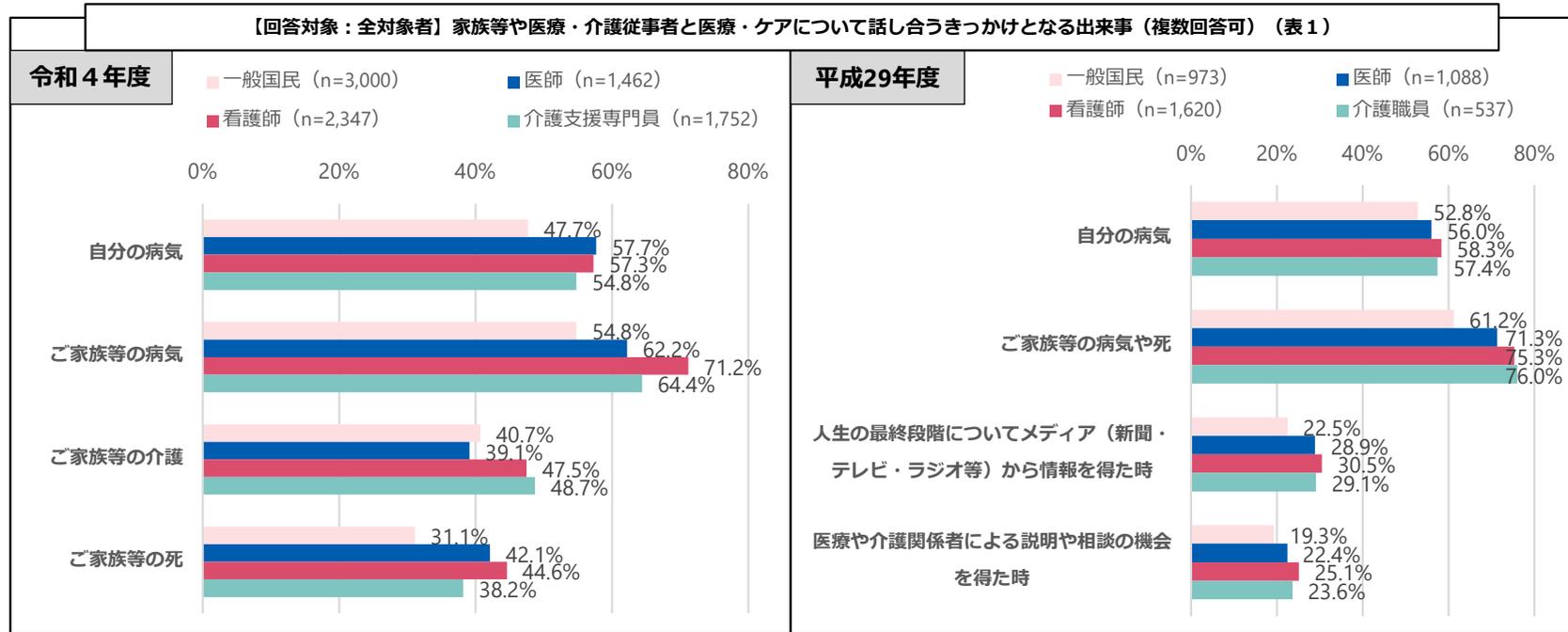
結果の概要④（医療・ケアについて話し合うきっかけ）

- 家族等や医療・介護従事者と医療・ケアについて話し合うきっかけとなる出来事について、令和4年度調査では一般国民、医師、看護師、介護支援専門員ともに「家族等の病気」や「自分の病気」と回答した者が多かった。平成29年度調査では一般国民、医師、看護師、介護職員いずれも「家族等の病気や死」「自分の病気」と回答した者が多かった。（表1）
- 医療・介護従事者が患者・利用者本人やその家族等と人生の最終段階における医療・ケアについて話し合いを行っている時期について、令和4年度調査では医師、看護師、介護支援専門員いずれも「病気の進行に伴い、死が近づいているとき」と回答した者が多く、平成29年度調査でも同様であった。また、令和4年度調査、平成29年度調査ともに、「人生の最終段階に限ることなく、日々の診察の中で話し合っている」と回答した者が一定数いた。（表2）

※表1と表2は、複数の選択肢の中から特に回答した者が多かった選択肢を抽出している。また、令和4年度調査と平成29年度調査の選択肢は同一ではない。

※表2については、担当する患者・利用者本人と、人生の最終段階における医療・ケアについて話し合いを「十分行っている」「一応行っている」と回答した医療・介護従事者を対象としている。

※平成29年度調査とは調査期間や回収率等が異なる点に留意する必要がある。また、介護従事者については、平成29年度調査では介護職員、令和4年度調査では介護支援専門員を対象としている。



「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」の調査内容及び結果の概要

結果の概要⑤（医療・ケアの充実のための医療・介護従事者の役割）

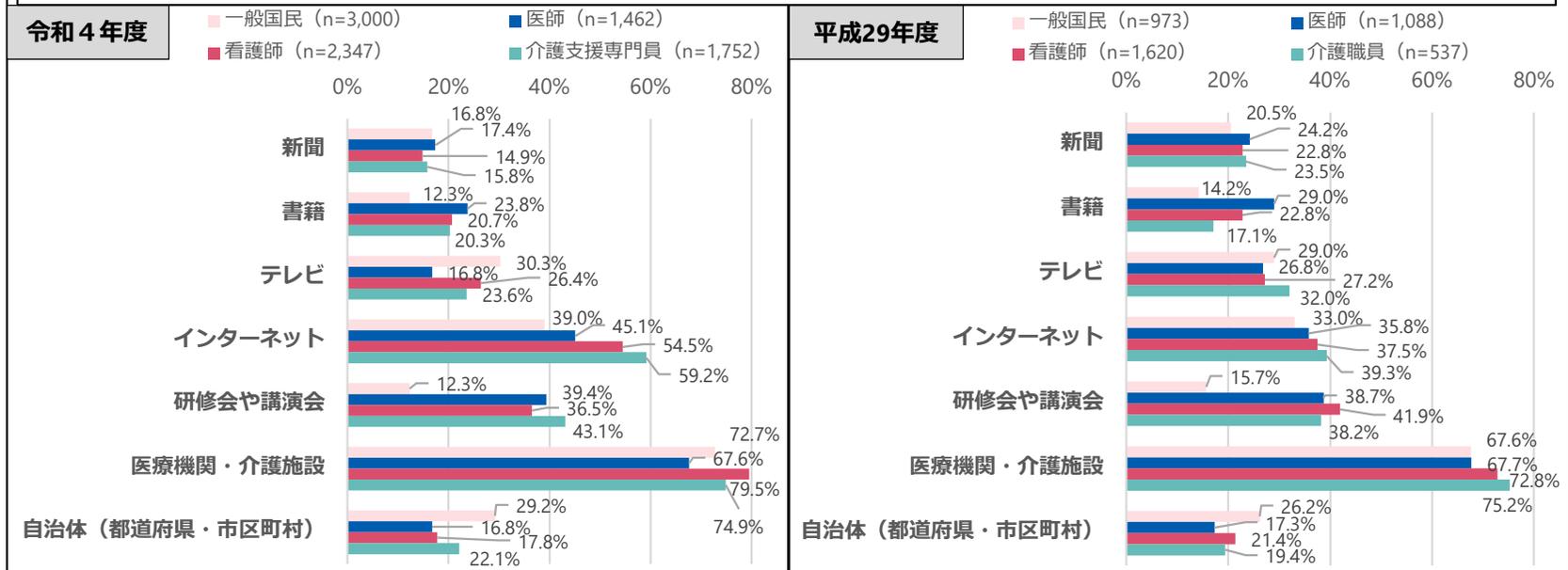
死が近い場合の、受けないもしくは受けたくない医療・ケアについて、どのような情報源から情報を得たいかという設問に対し、令和4年度調査では一般国民、医療・介護従事者ともに「医療機関・介護施設」と回答した者が最も多く、平成29年度調査でも同様であった。（表3）

人生の最終段階における医療・ケアの充実のために必要なことについて、令和4年度調査では医師、看護師、介護支援専門員のいずれにおいても「患者・利用者本人や家族等への相談体制の充実」との回答が最も多かったが、それ以外の選択肢についても必要との回答が50%以上みられた。なお、平成29年度調査では「人生の最終段階について話し合った内容について、本人・家族等や医療・介護従事者等の看取りに携わる関係者との共有の仕方」と回答した者が最も多かった。（表4）

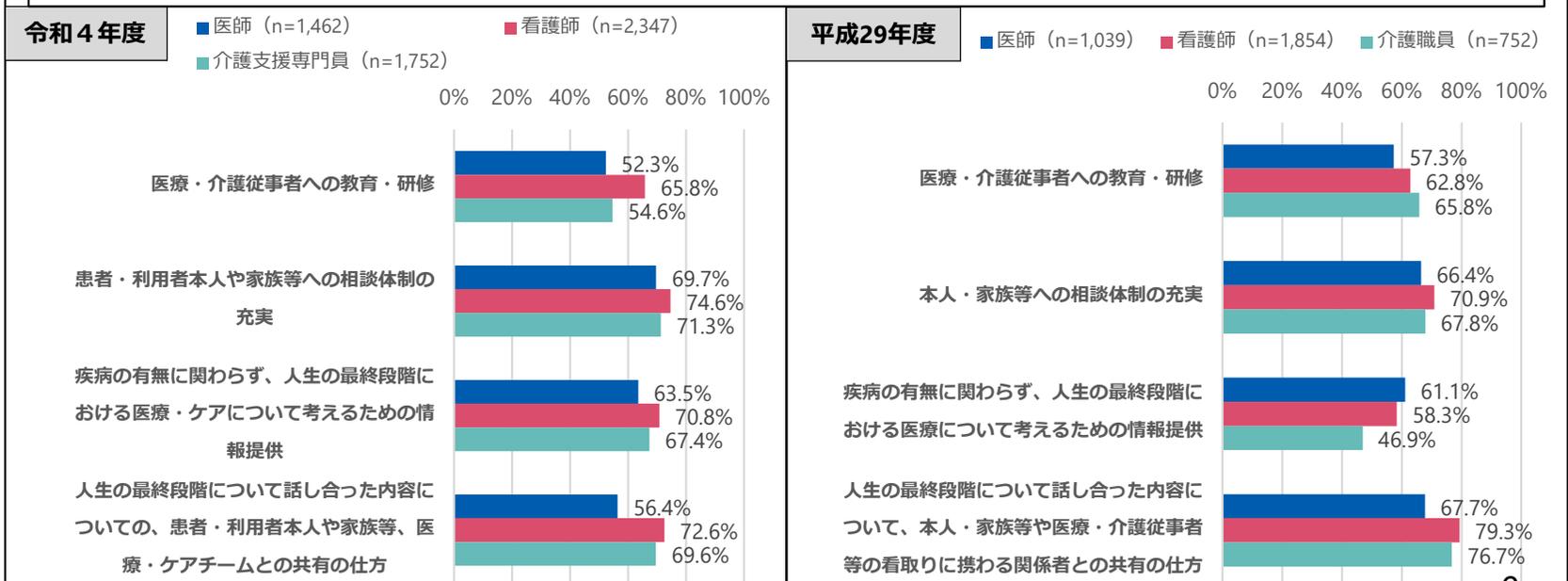
※表3と表4は、複数の選択肢の中から特に回答した者が多かった選択肢を抽出している。また、表4について、令和4年度調査と平成29年度調査の選択肢は同一ではない。

※平成29年度調査とは調査期間や回収率等が異なる点に留意する必要がある。また、介護従事者については、平成29年度調査では介護職員、令和4年度調査では介護支援専門員を対象としている。

【回答対象：全対象者】死が近い場合の、受けないもしくは受けたくない医療・ケアについて、どのような情報源から情報を得たいか（複数回答可）（表3）



【回答対象：医療・介護従事者】人生の最終段階における医療・ケアの充実のために必要なこと（複数回答可）（表4）



調査対象及び調査方法について

「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」について

調査対象と回収率

対象者		抽出方法	対象者数	回収数	回収率	<参考> 前回回収率
一般国民票	一般国民	20歳以上の者から 層化2段階 無作為抽出	6,000	3,000	50.0%	16.2%
	医師(※1)	無作為抽出(※2)	4,500	1,462	32.5%	24.2%
	看護師(※1)	無作為抽出(※2)	5,500	2,347	42.7%	27.0%
	介護支援専門員(※1)	無作為抽出(※2)	3,000	1,752	58.4%	26.9% (※3)

※1：医療・介護従事者は、一般国民票に加え、医療・介護従事者票（医師票、看護師票、介護支援専門員票）に回答。

※2：対象施設を無作為抽出している。なお、詳細は次ページ参照。

※3：H29年度の調査対象は介護職員となっている。

「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」について

調査対象と回収率

対象者		対象施設	対象施設の抽出方法	施設数	1施設あたりの対象者数	<再掲>対象者数(合計)	回収数	回収率	<参考>前回回収率(※1)
医師票	医師	病院	無作為抽出	1,500	2	4,500	1,462	32.5%	23.1%
		診療所	無作為抽出	1,500	1				
看護師票	看護師	病院	上記と同一施設	1,500	2	5,500	2,347	42.7%	30.9%
		診療所	上記と同一施設	1,500	1				
		訪問看護ステーション	無作為抽出	500	1				
		介護老人福祉施設 介護老人保健施設	無作為抽出(※2)	500	1				
介護支援専門員票	介護支援専門員	介護老人福祉施設 介護老人保健施設	無作為抽出	700	1	3,000	1,752	58.4%	37.6%(※3)
		居宅介護支援事業所	無作為抽出	2,300	1				

※1：医療・介護従事者は、一般国民票に加え、医療・介護従事者票を回答するところ、前回調査では、いずれかの調査票にのみ回答した医療・介護従事者がいたため、医療・介護従事者の回収率は、一般国民票、医療・介護従事者票で異なる。

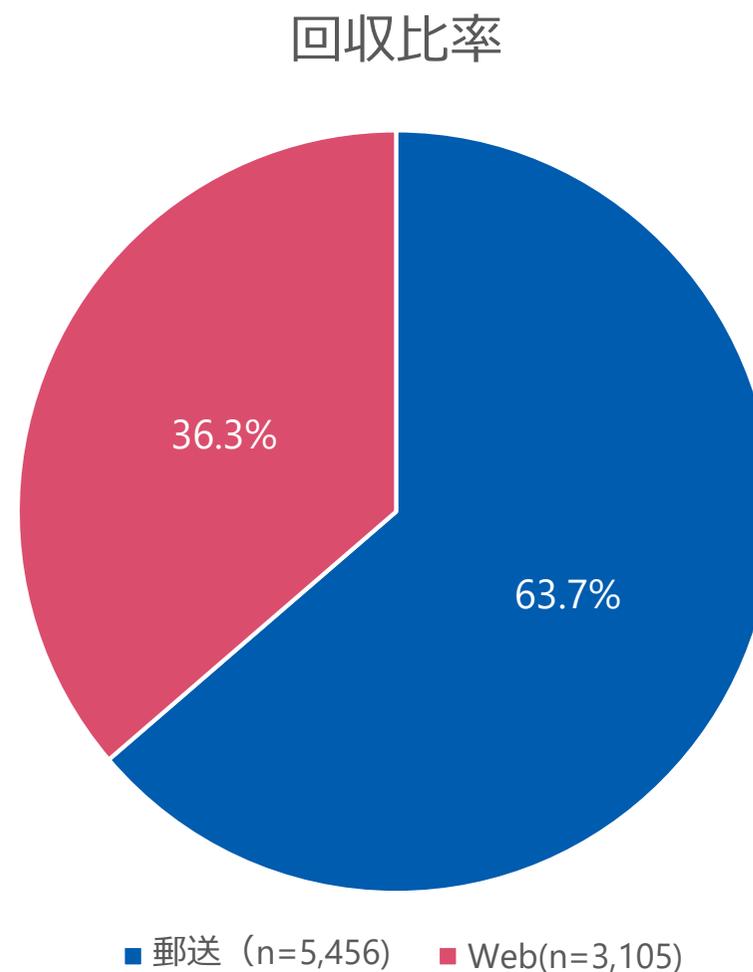
※2：介護支援専門員票の配布先として無作為抽出された「介護老人福祉施設・介護老人保健施設」700施設から500施設を無作為抽出した。

※3：H29年度調査の対象は介護職員となっている。

「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」について

郵送による回答とWebによる回答の回収比率

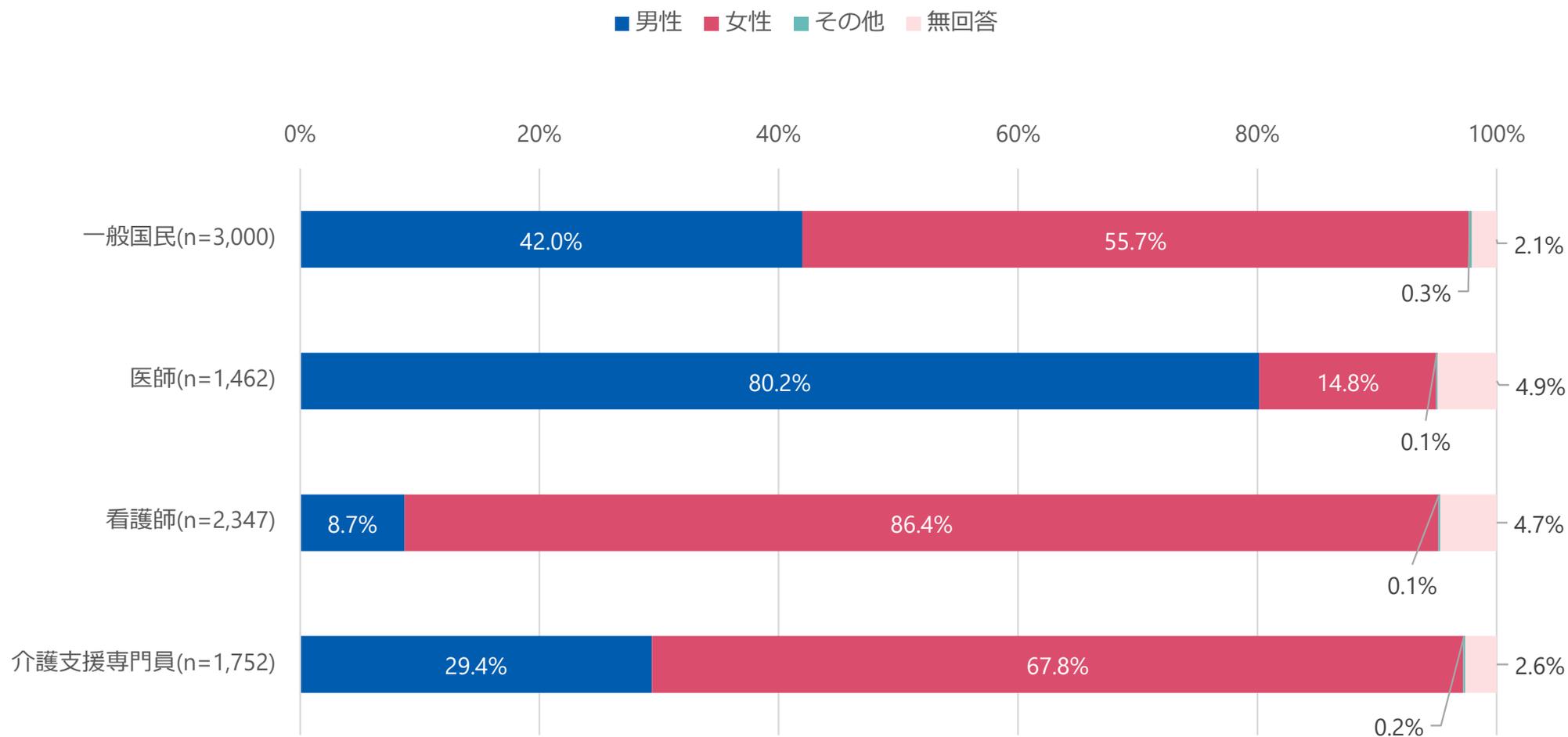
対象者	調査人数	回収数	
		回収方法	
一般国民	6,000	3,000	
		郵送	1,942
		Web	1,058
医師	4,500	1,462	
		郵送	847
		Web	615
看護師	5,500	2,347	
		郵送	1,562
		Web	785
介護支援 専門員	3,000	1,752	
		郵送	1,105
		Web	647



調査回答者の属性

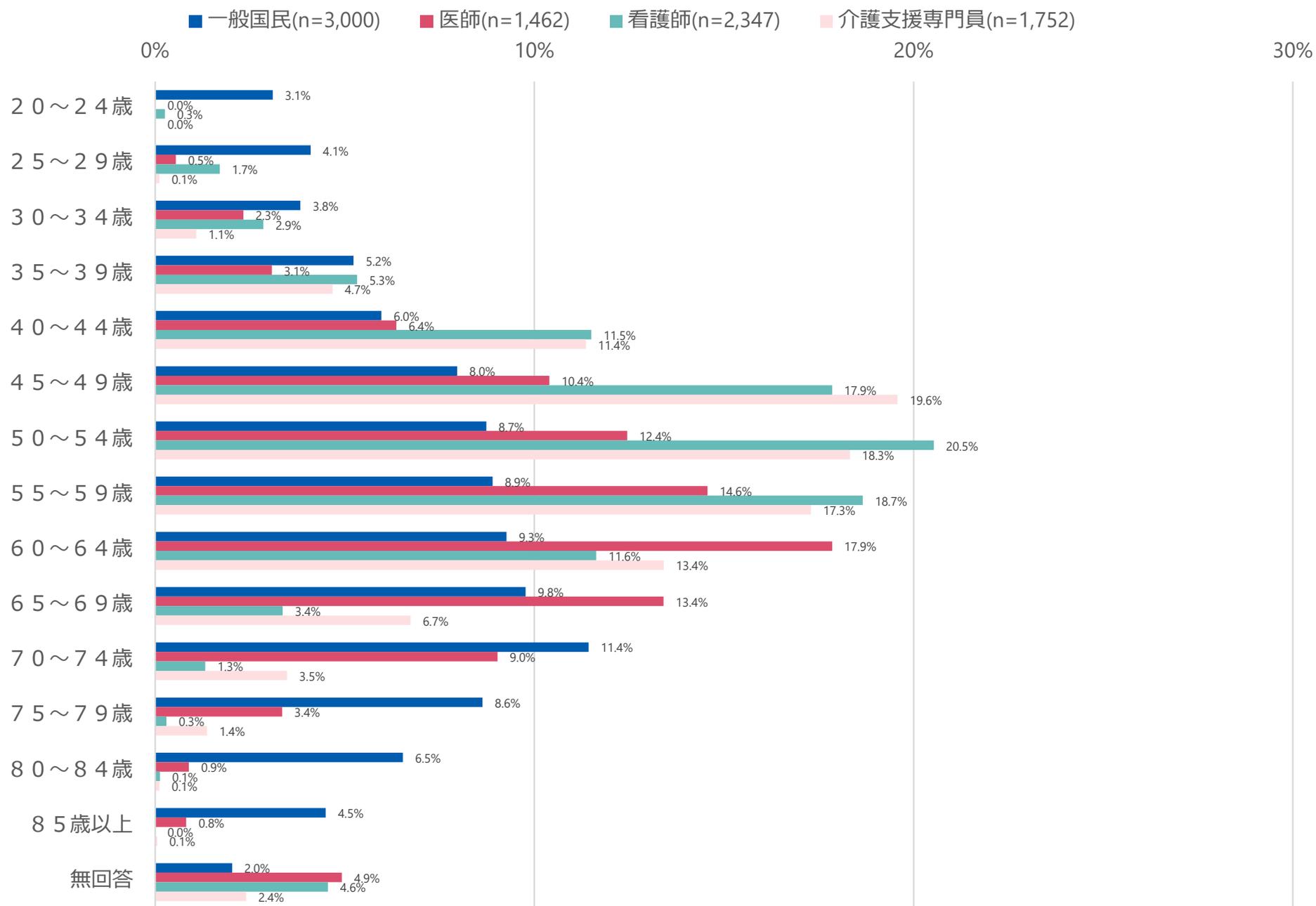
調査回答者の属性（一般国民、医師、看護師、介護支援専門員）

（1）性別



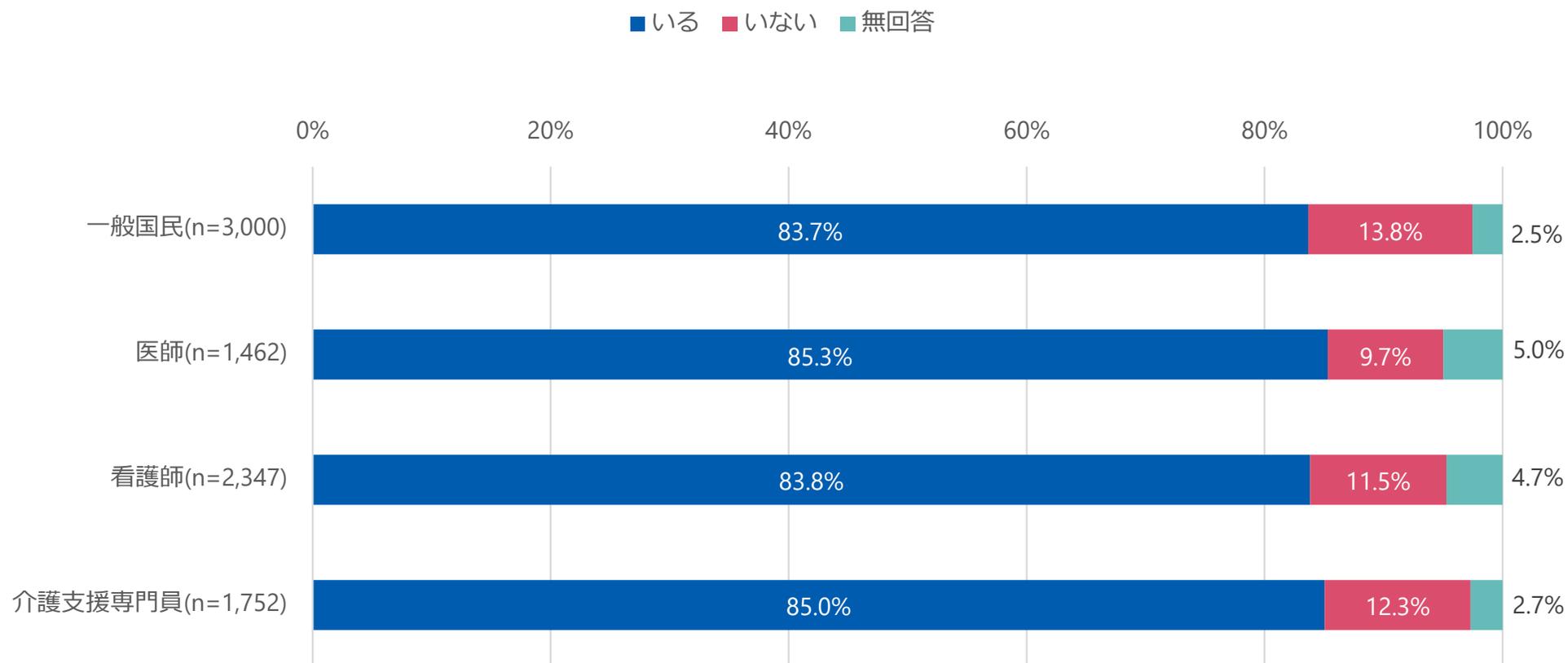
調査回答者の属性（一般国民、医師、看護師、介護支援専門員）

（2）満年齢



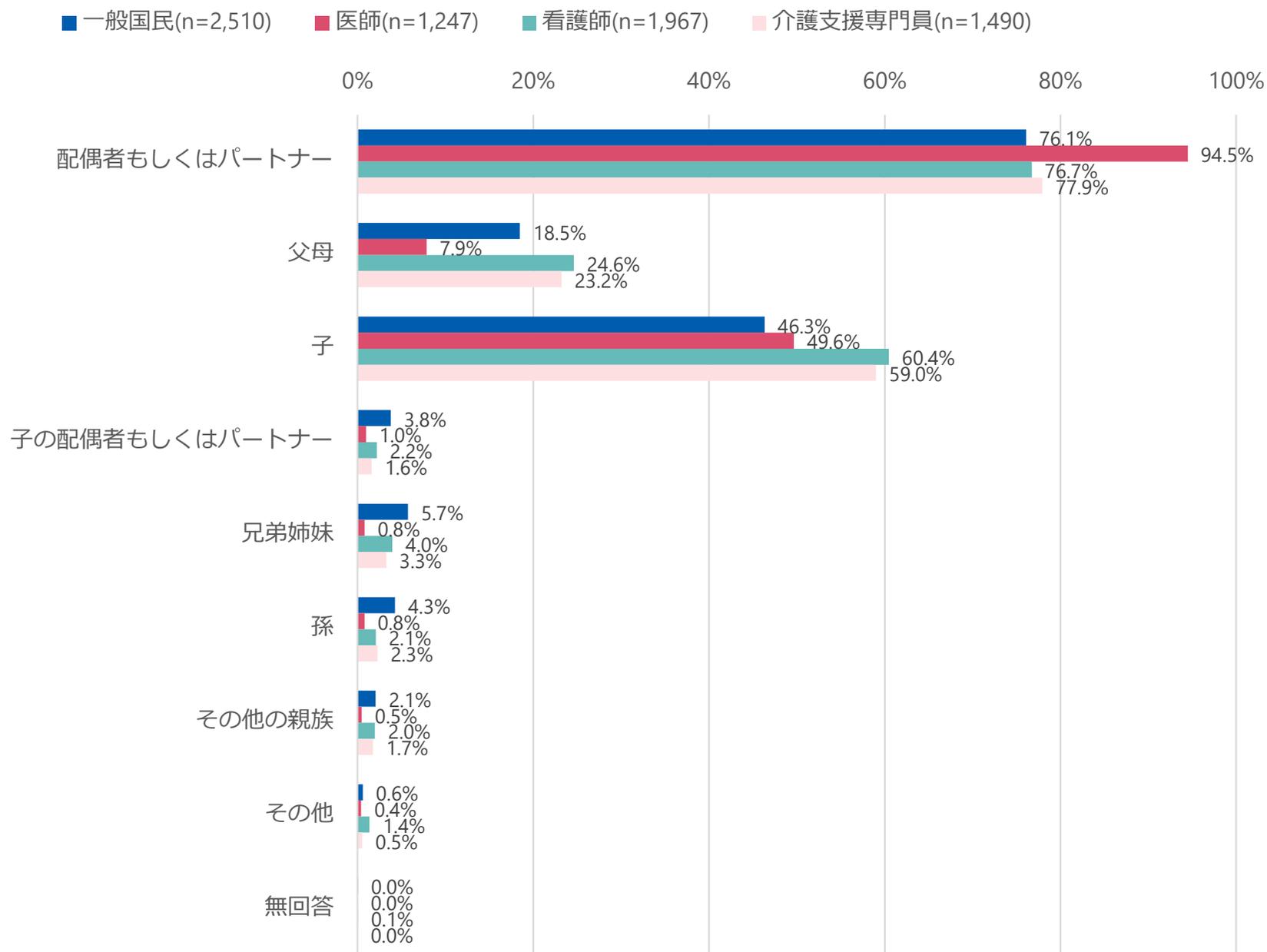
調査回答者の属性（一般国民、医師、看護師、介護支援専門員）

（3-1）同居人の有無



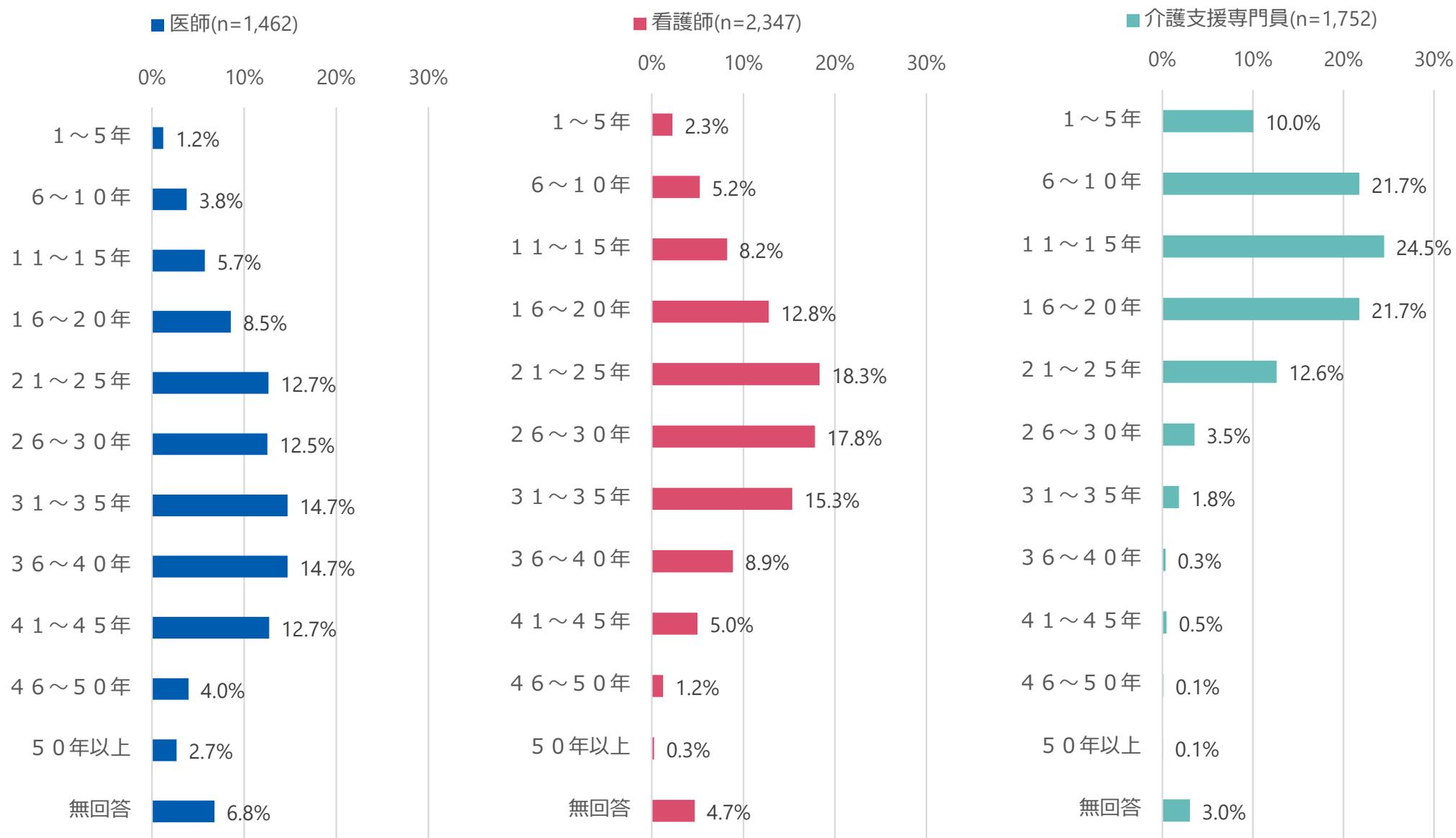
調査回答者の属性（一般国民、医師、看護師、介護支援専門員）

（3-2）同居している人（同居人が「いる」と回答した方が対象）（複数回答可）



調査回答者の属性（医師、看護師、介護支援専門員）

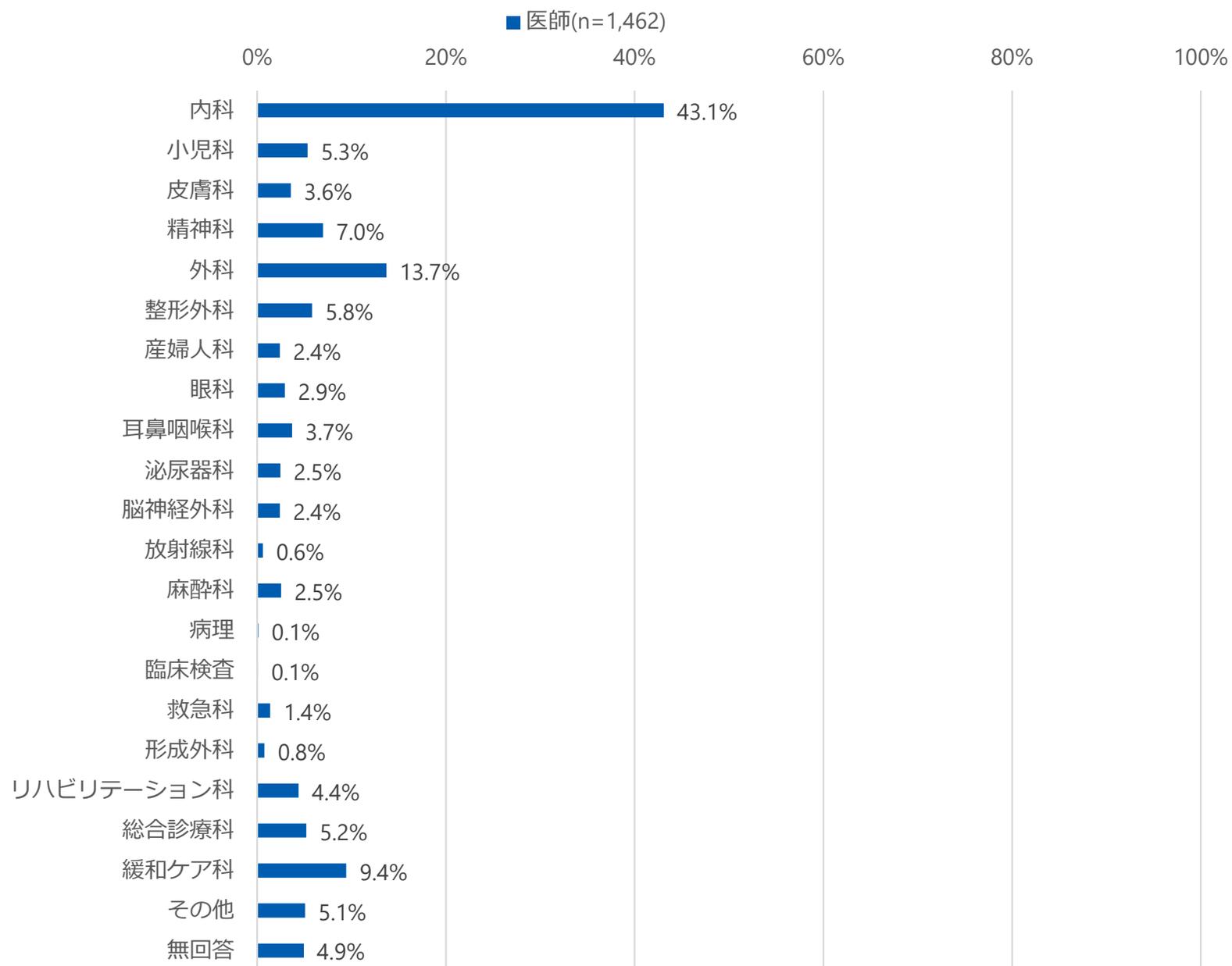
（1）実務経験年数



※介護支援専門員は介護保険法（平成九年法律第二百二十三号）に基づく資格であり、一部の回答が資格創設からの経過年数を超過しているが、実務経験年数の回答は自己申告によるものであり、そのまま掲載している。

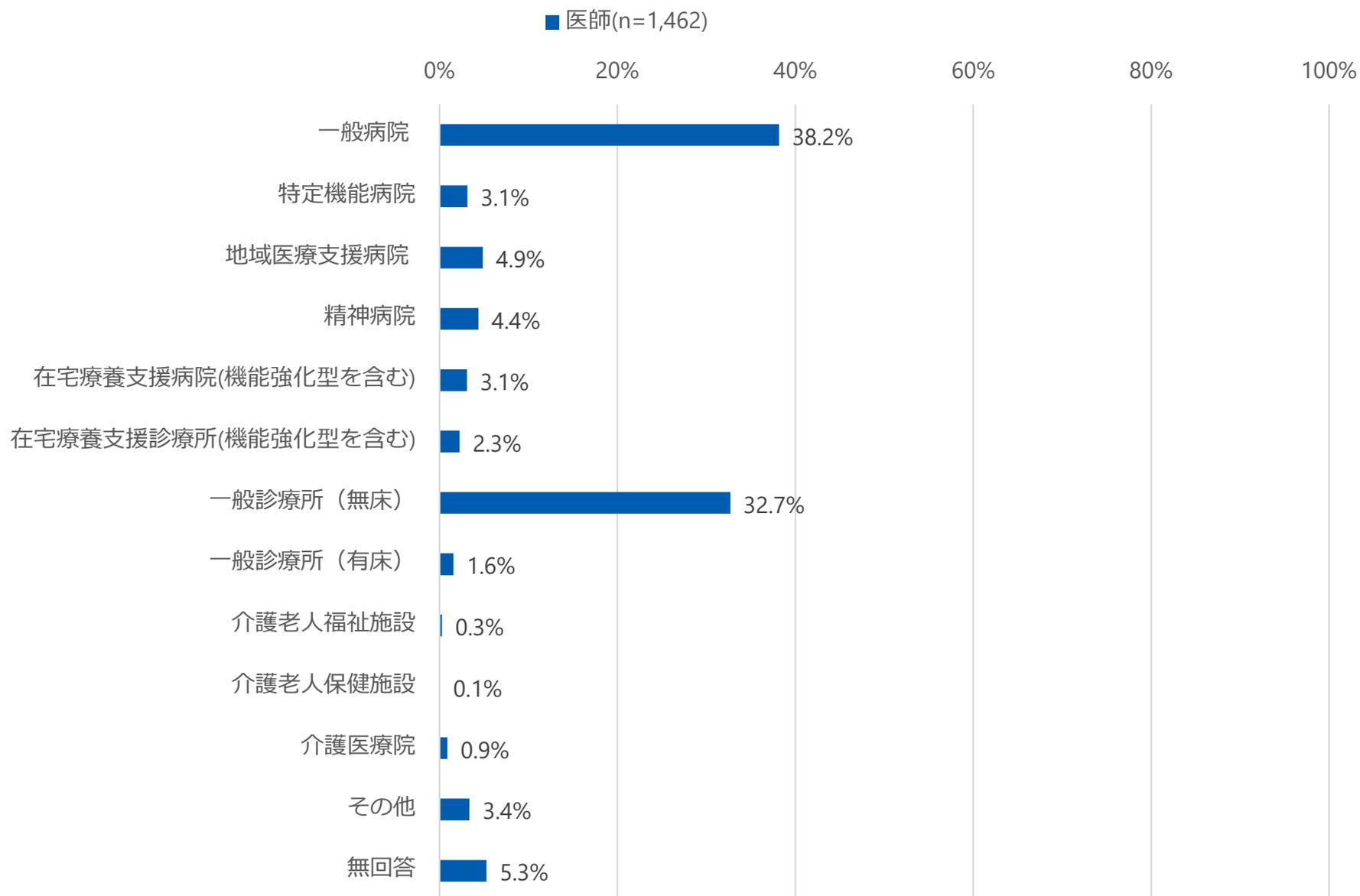
調査回答者の属性（医師、看護師、介護支援専門員）

（2）専門領域（医師のみに調査）（複数回答可）



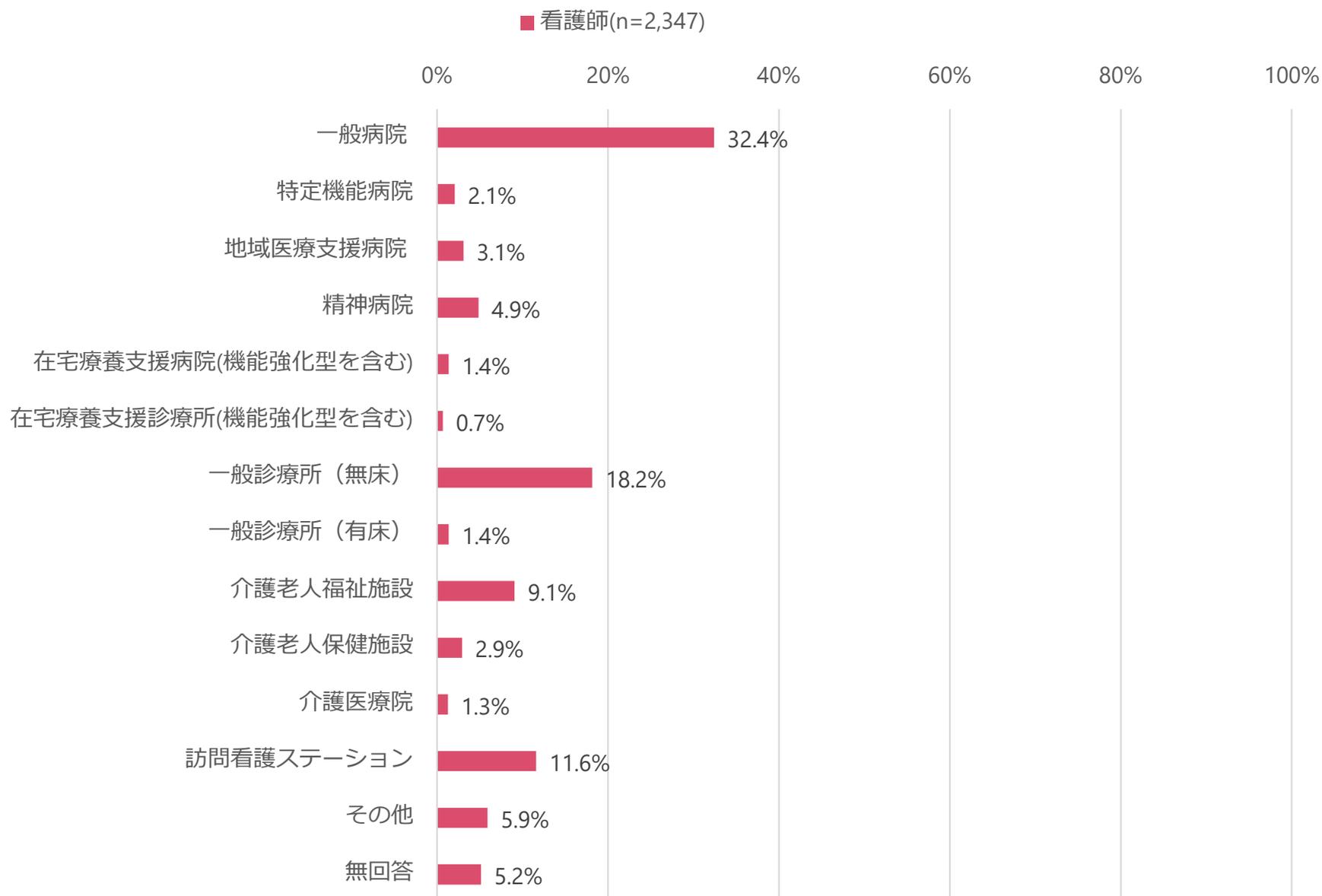
調査回答者の属性（医師、看護師、介護支援専門員）

（3）勤務施設（医師）（単一回答）



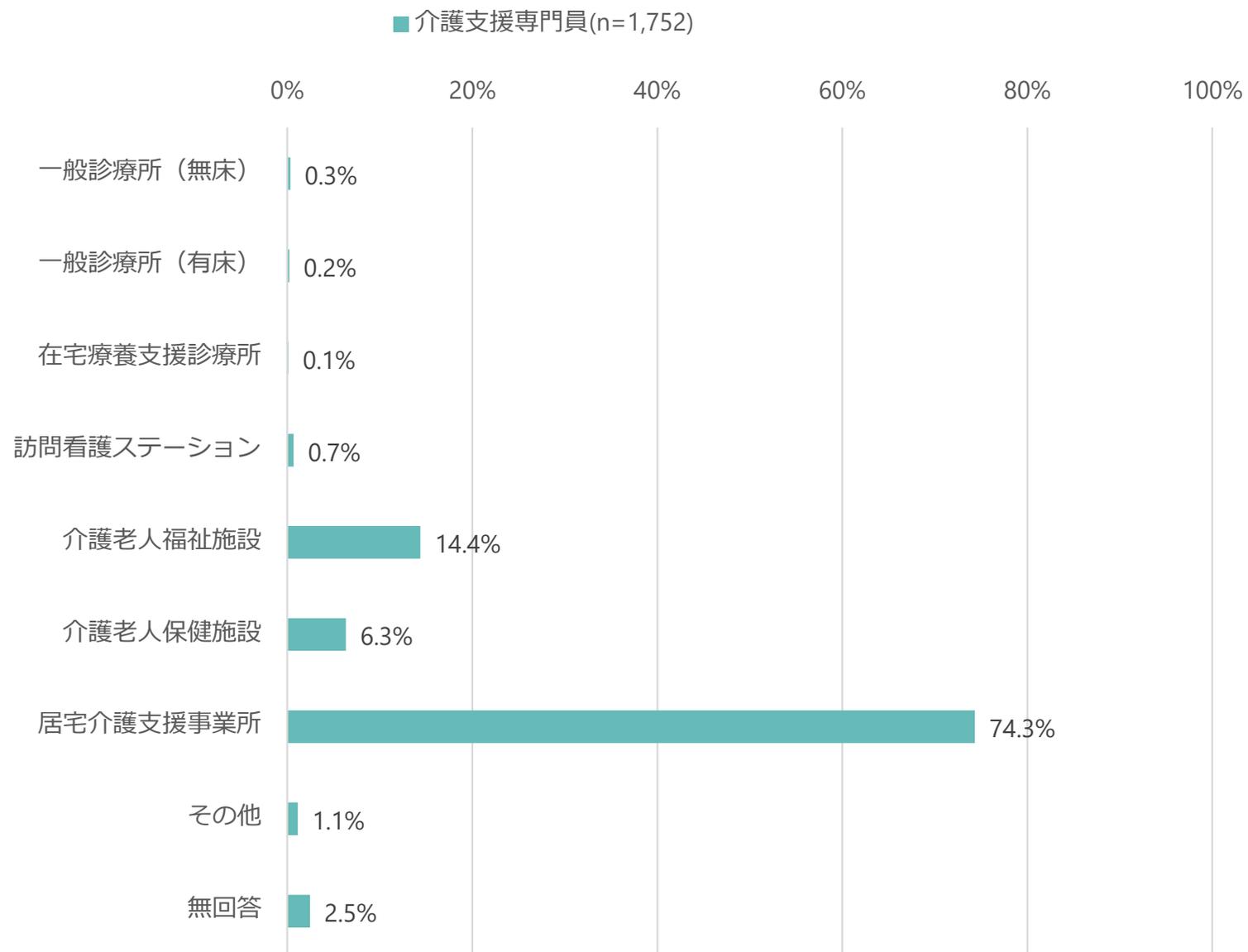
調査回答者の属性（医師、看護師、介護支援専門員）

（3）勤務施設（看護師）（単一回答）



調査回答者の属性（医師、看護師、介護支援専門員）

（3）勤務施設（介護支援専門員）（単一回答）



調査票及び設問一覧

調査票及び設問一覧①

<一般国民票>

問1：あなたは、人生会議（アドバンス・ケア・プランニング〈ACP〉）について、これまで知っていましたか。

問2：あなたは、人生会議を進めることについて、どう思いますか。

問3：あなたは、人生の最終段階における医療・ケアに関する希望について、これまでに考えたことがありますか。

問4：あなたが人生の最終段階で受たいもしくは受たくない医療・ケアについて、ご家族等や医療・介護従事者と詳しく話し合っていると思いますか。

問4-1：どなたと話し合いましたか。

問4-2：話し合った内容を医療・介護従事者と共有していますか。

問4-3：これまで話し合ったことはない理由は、何ですか。

問5：もし、ご家族等や医療・介護従事者と医療・ケアについて話し合う時期があるとすると、いつ頃が良い年齢だと思いますか。（問4で「1. 詳しく話し合っている」「2. 一応話し合っている」と回答した方は、いつ頃でしたか。）

問6：もし、ご家族等や医療・介護従事者と医療・ケアについて話し合うきっかけがあるとすると、どのような出来事だと思いますか。（問4で「1. 詳しく話し合っている」「2. 一応話し合っている」と回答した方は、何がきっかけでしたか。）

問7：今般の新型コロナウイルス感染症の流行により、人生の最終段階における医療・ケアについて、話し合う機会がどのように変わりましたか。

問8：あなたの死が近い場合の、受たいもしくは受たくない医療・ケアについて、どのような情報源から情報を得たいと思いますか。

問9：あなたの死が近い場合の、受たいもしくは受たくない医療・ケアを考えるために、どのような情報を得たいと思いますか。

問10：あなたは、自分が意思決定できなくなったときに備えて、どのような医療・ケアを受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか。

問11：あなたは、意思決定できなくなったときに備えて、どのような医療・ケアを受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面に従って治療方針を決定することを法律に定めてほしいと思いますか。

問12：自分が意思決定できなくなったときに備えて、自分が信頼して自分の医療・ケアに関する方針を決めてほしいと思う人、もしくは人々を決めておくことについてどう思いますか。

問13：自分が意思決定できなくなったときに、自分の医療・ケアに関する方針を決めてほしいと思う人、もしくは決めることができると思う人は誰だと思いますか。

問14：どこで最期を迎えたいかを考える際に、重要だと思うことはなんですか。

問15：「あなたが病気で治る見込みがなく、およそ1年以内に徐々にあるいは急に死に至ると考えたとき。」

問15-1：最期をどこで迎えたいですか。

問15-1-1：なぜ、自宅以外を選択したのか、お考えに近いものをお選びください。

問15-1-2：なぜ自宅を選択されたのか、お考えに近いものをお選びください。

問15-2：それまでの医療・ケアはどこで受けたいですか。

問15-2-1：なぜ、自宅以外を選択したのか、お考えに近いものをお選びください。

問15-2-2：なぜ自宅を選択されたのか、お考えに近いものをお選びください。

問15-3：下記のア～キの医療を望みますか。

(ア) 他の病気にもかかった場合、抗生剤を飲んだり点滴したりすること

(イ) 口から水を飲めなくなった場合の点滴

(ウ) 口から十分な栄養をとれなくなった場合、首などから太い血管に栄養剤を点滴すること（中心静脈栄養）

(エ) 口から十分な栄養をとれなくなった場合、鼻から管を入れて流動食を入れること（経鼻栄養）

(オ) 口から十分な栄養をとれなくなった場合、手術で胃に穴を開けて直接管を取り付け、流動食を入れること（胃ろう）

(カ) 呼吸ができにくくなった場合、気管に管を入れて人工呼吸器につなげること（言葉を発声できなくなる場合もあります）

(キ) 心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置（心臓マッサージ、心臓への電気ショック、人工呼吸などを行うこと）

調査票及び設問一覧②

問16：「末期がんと診断され、状態は悪化し、痛みはなく、呼吸が苦しいといった状態です。今は食事や着替え、トイレなどの身の回りのことに手助けが必要です。意識や判断力は健康な時と同様に保たれています。」

問16-1：最期をどこで迎えたいですか。

問16-2：それまでの医療・ケアはどこで受けたいですか。

問16-3：副作用はあるものの、多少なりとも悪化を遅らせることを期待して、抗がん剤や放射線による治療を希望しますか。

問17：「慢性の重い心臓病と診断され、状態は悪化し、痛みはなく、呼吸が苦しいといった状態です。今は食事や着替え、トイレなど身の回りのことに手助けが必要です。意識や判断力は健康な時と同様に保たれています。」

問17-1：最期をどこで迎えたいですか。

問17-2：それまでの医療・ケアはどこで受けたいですか。

問18：「認知症と診断され、状態は悪化し、自分の居場所や家族の顔が分からない状態です。今は、食事や着替え、トイレなど身の回りのことに手助けが必要です。」

問18-1：最期をどこで迎えたいですか。

問18-2：それまでの医療・ケアはどこで受けたいですか。

<医師、看護師、介護支援専門員票>

問19：あなたが、担当する患者・利用者本人に対し、人生の最終段階における医療・ケアについて話し合うにあたり、難しいと感じることは何ですか。

問20：医療・ケアを受ける患者・利用者本人の意向を尊重した人生の最終段階における医療・ケアの充実のために、何が重要だと思いますか。

問21：あなたは、担当する患者・利用者本人と人生の最終段階の医療・ケアについて、十分な話し合いを行っていると思いますか。

問21-1：どのような内容を話し合っていますか。

問21-2：あなたは患者・利用者本人やその家族等と人生の最終段階の医療・ケアについての話し合いをいつ行っていますか。

問21-3：あなたは、担当する患者・利用者本人の人生の最終段階の医療・ケアについて、患者・利用者本人（もしくは家族等）と話し合った内容を、医療・ケアチームに情報共有していますか。

問21-4：ほとんど行っていない理由は何ですか。

問22：人生の最終段階における医療・ケアの方針について、医療・ケアチームの中で意見の相違を感じることがありますか。

問22-1：倫理委員会等（医療従事者等が助言を求めることができる複数の専門家からなるチーム等）に相談しましたか。

問23：あなたは患者・利用者本人が医療・ケアの選択について意思決定できなくなった場合に備えて、どのような医療・ケアを受けたいかあるいは受けたくないか、代わりに誰に意思決定してもらいたいか、あらかじめ記載する書面（事前指示書）を用いる方法があることを伝えるべきだと思いますか。

問24：あなたは、上記解説の人生会議（アドバンス・ケア・プランニング〈ACP〉）に医療・介護従事者が介入することについてどう思いますか。

問24-1：医療・介護従事者の介入が必要な理由についてどう考えますか。

問25：今般の新型コロナウイルス感染症の拡大により、人生会議に医療・介護従事者が介入することについて考え方が変化しましたか。

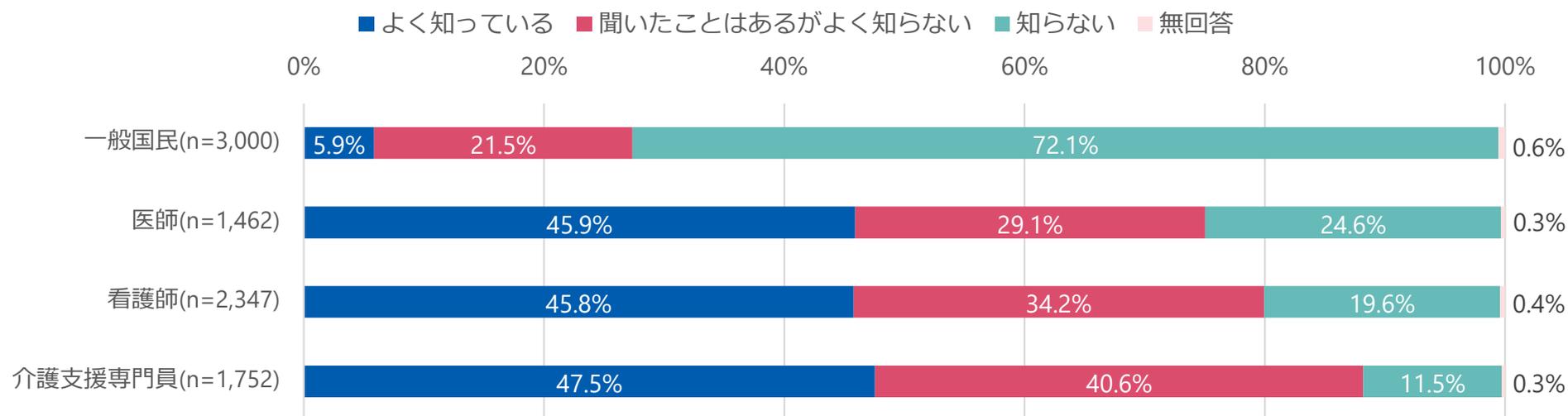
問26：あなたは人生の最終段階における患者・利用者本人の医療・ケアについて、退院先へどのような情報を引き継ぐべきと考えますか。

問27：あなたは、人生の最終段階の定義や、延命治療の不開始、中止等を行う場合の判断基準について、どう考えますか。

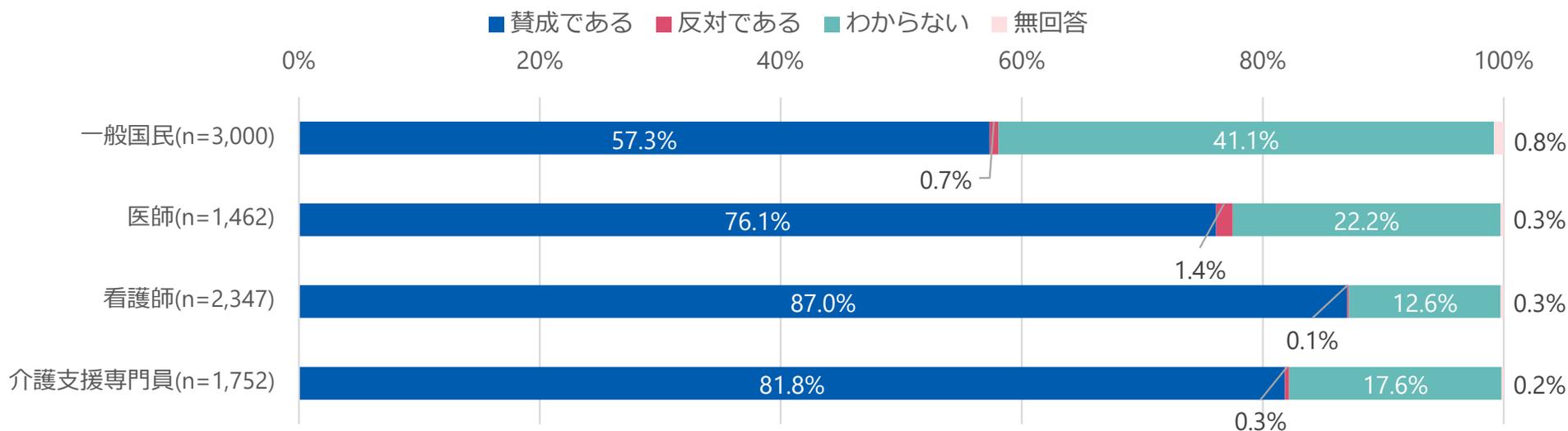
一般国民票の結果 (対象者:一般国民、医師、看護師、介護支援専門員)

自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問1：あなたは、人生会議（アドバンス・ケア・プランニング＜ACP＞）について、これまで知っていましたか。（○は1つ）

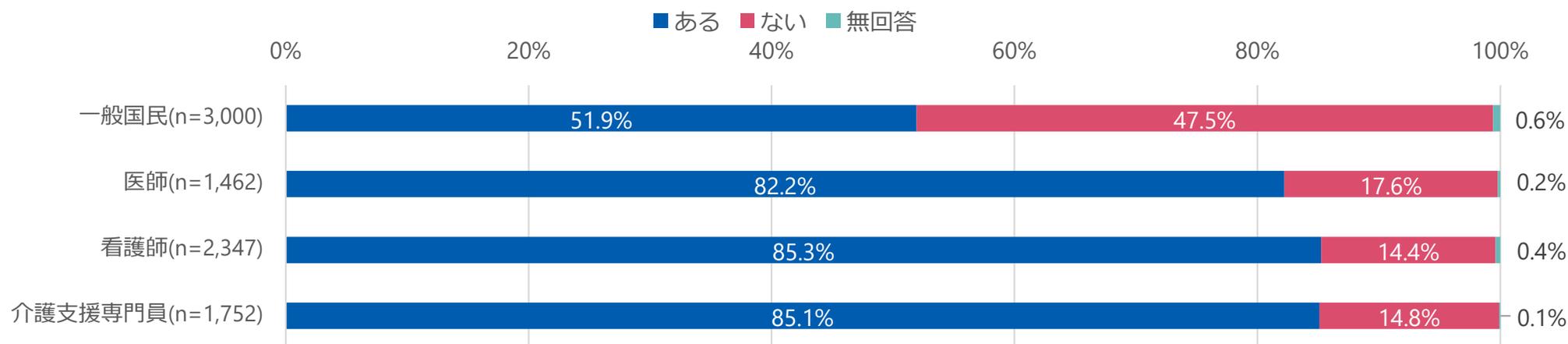


問2：あなたは、人生会議を進めることについて、どう思いますか。（○は1つ）



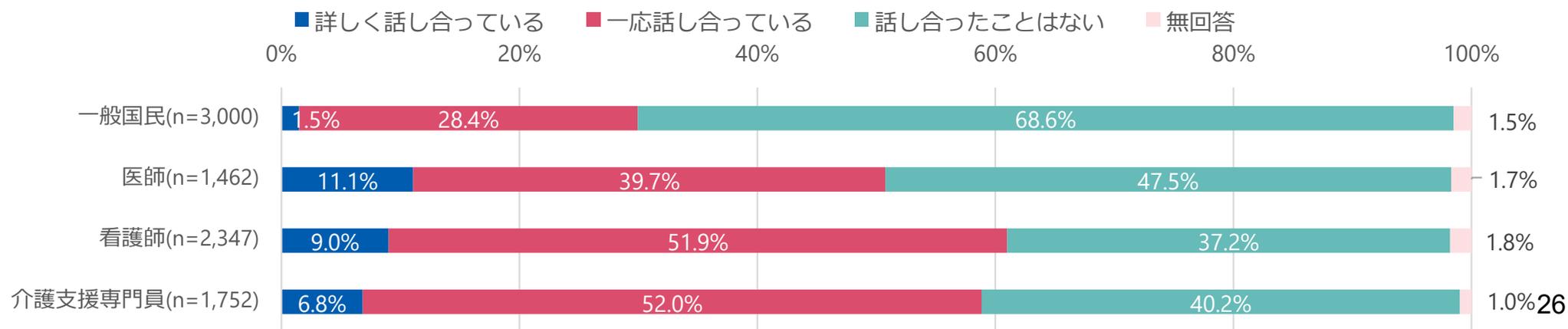
自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問3：あなたは、人生の最終段階における医療・ケアに関する希望について、これまでに考えたことがありますか。（○は1つ）



問4：あなたが人生の最終段階で受たいもしくは受けたくない医療・ケアについて、ご家族等や医療・介護従事者と詳しく話し合っていると思いますか。（○は1つ）

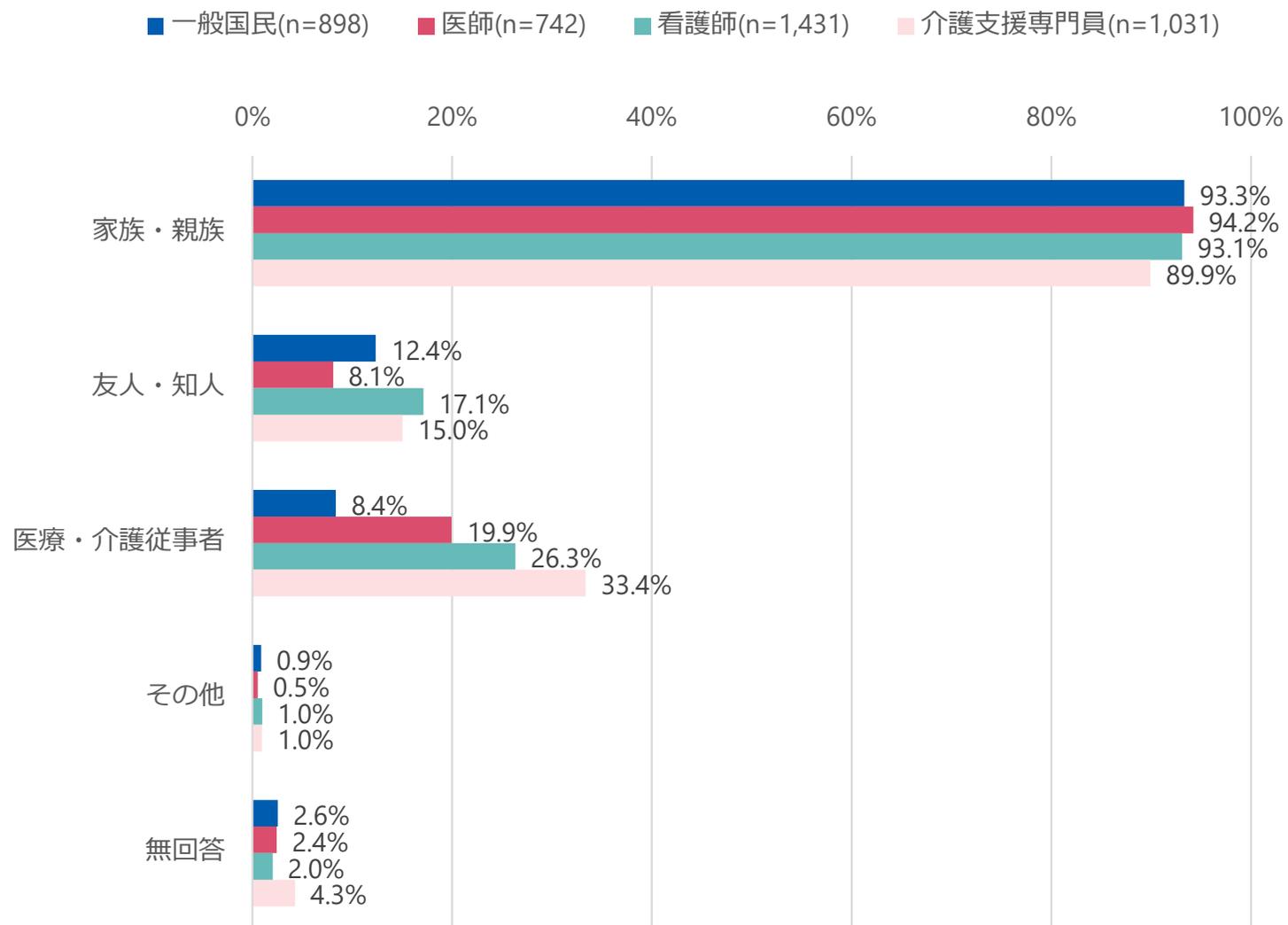
※ 「ご家族等」の中には、家族以外でも、自分が信頼して自分の医療・ケアに関する方針を決めてほしいと思う人（友人、知人）を含みます。



自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

(問4で「1. 詳しく話し合っている」「2. 一応話し合っている」と回答した方)

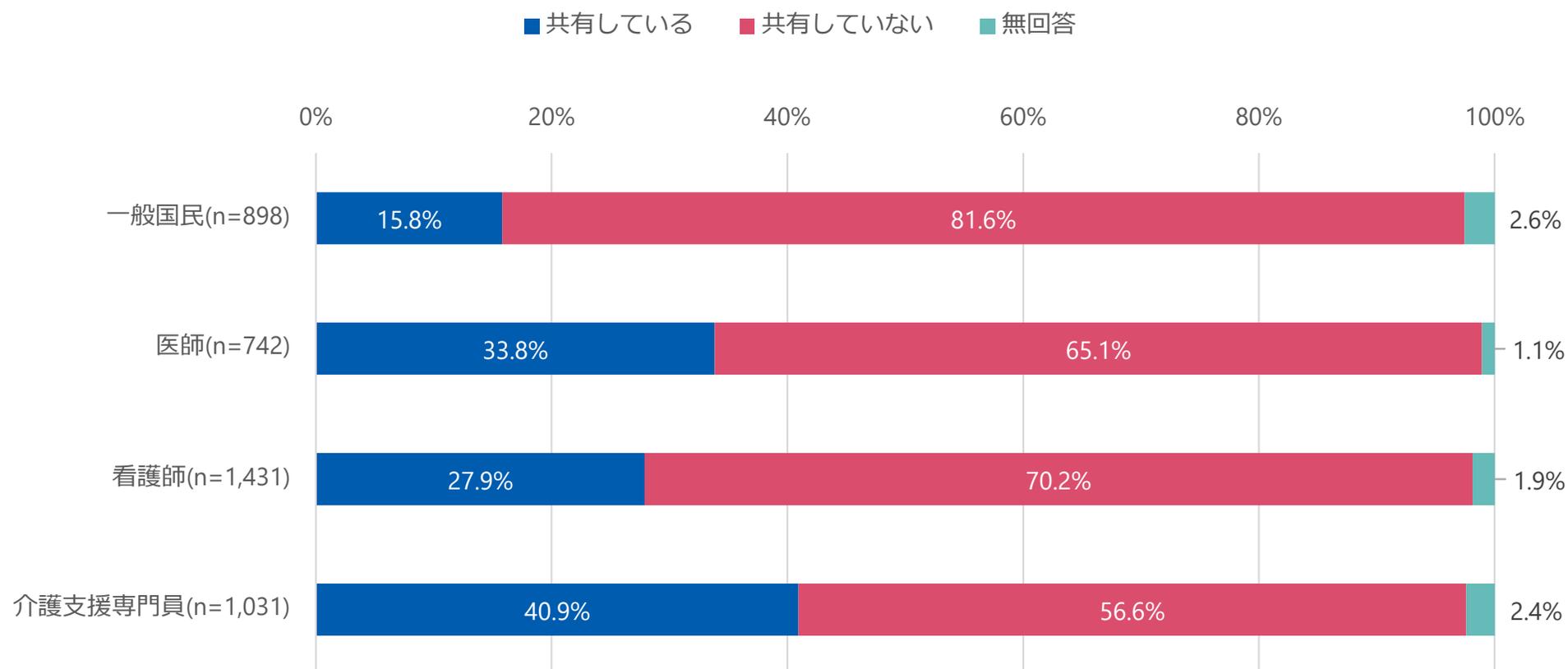
問4-1: どなたと話し合いましたか。(複数回答可)



自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

(問4で「1. 詳しく話し合っている」「2. 一応話し合っている」と回答した方)

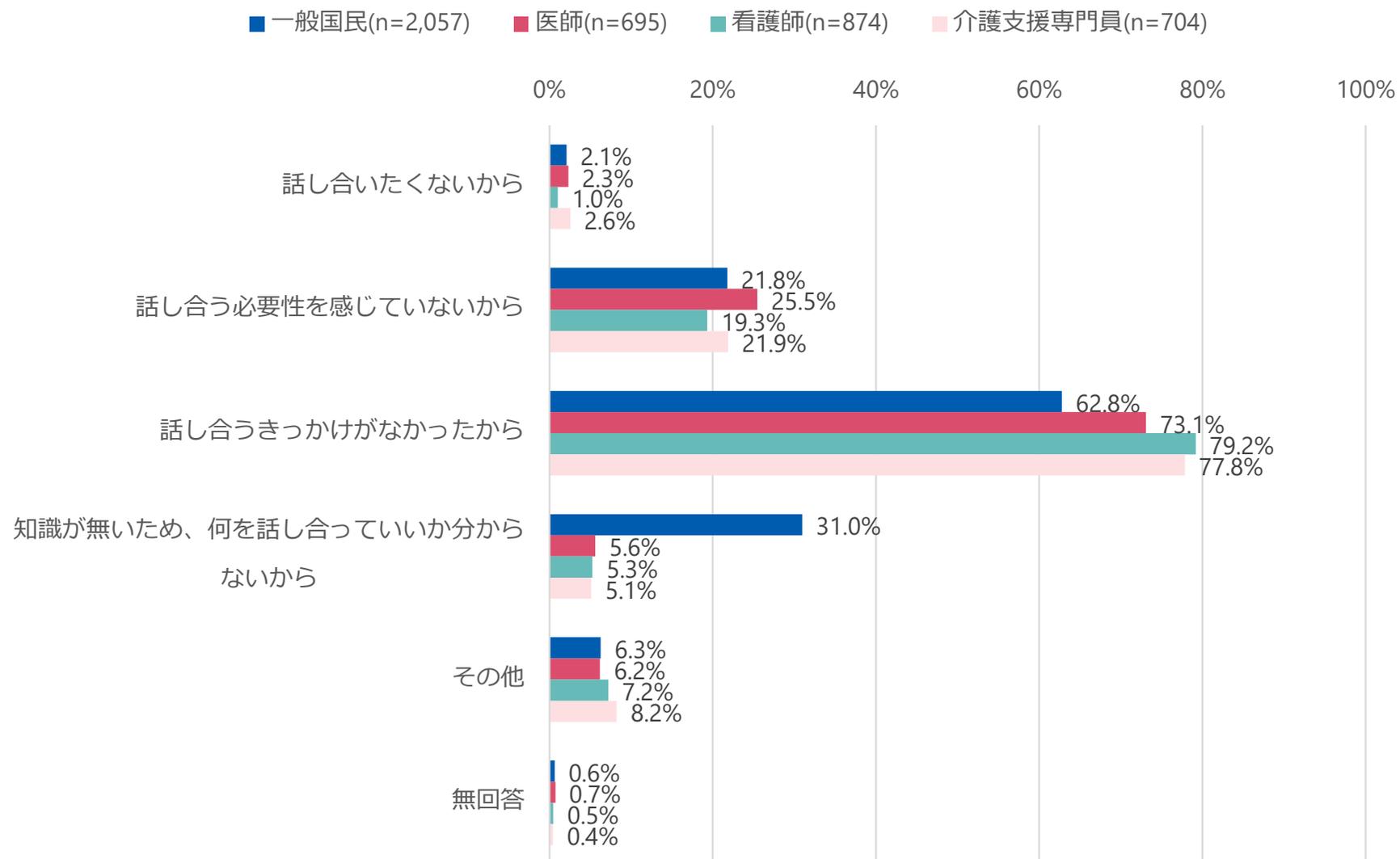
問4-2: 話し合った内容を医療・介護従事者と共有していますか。(○は1つ)



自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

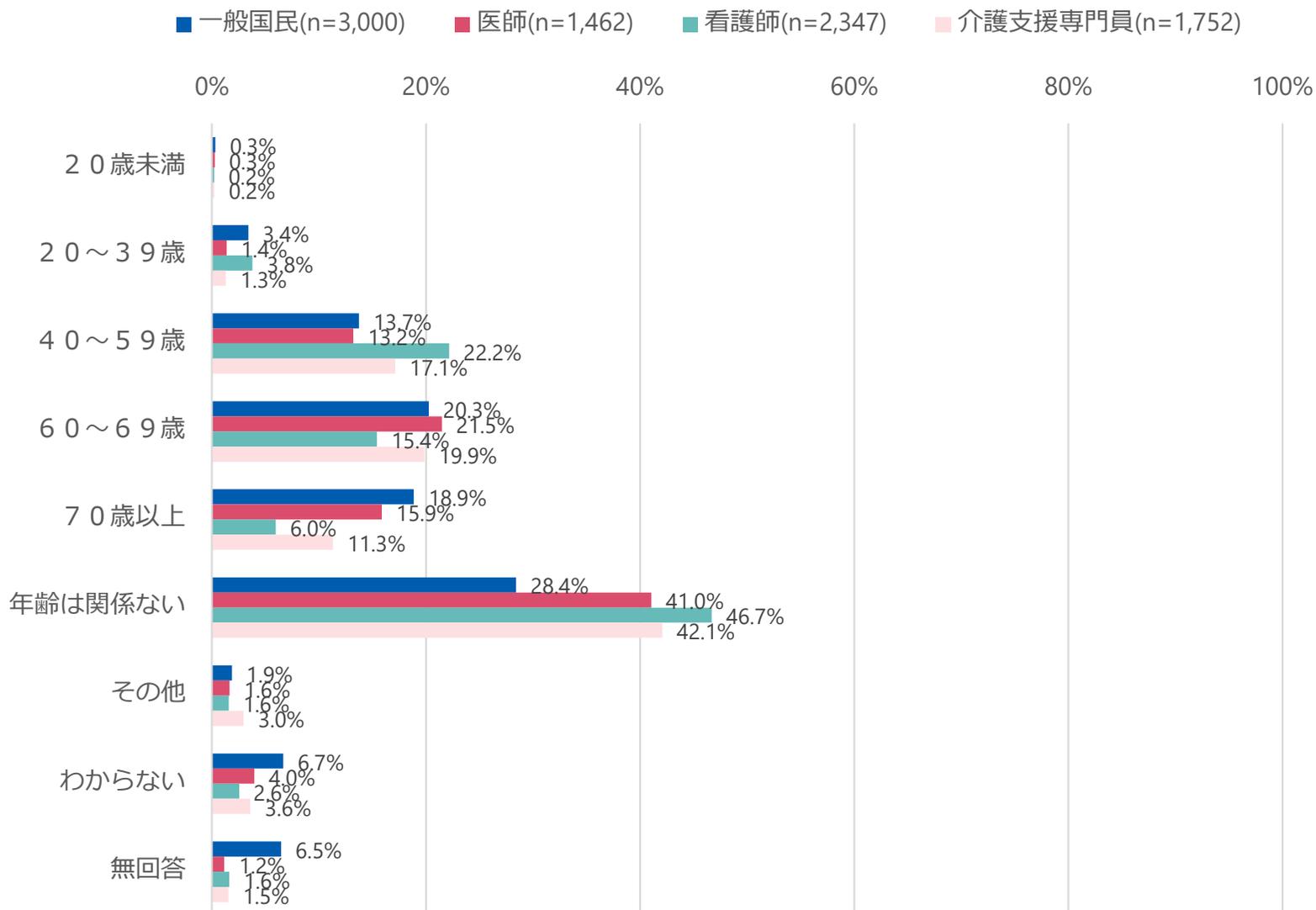
(問4で「3. 話し合ったことはない」と回答した方)

問4-3: これまで話し合ったことはない理由は、何ですか。(複数回答可)



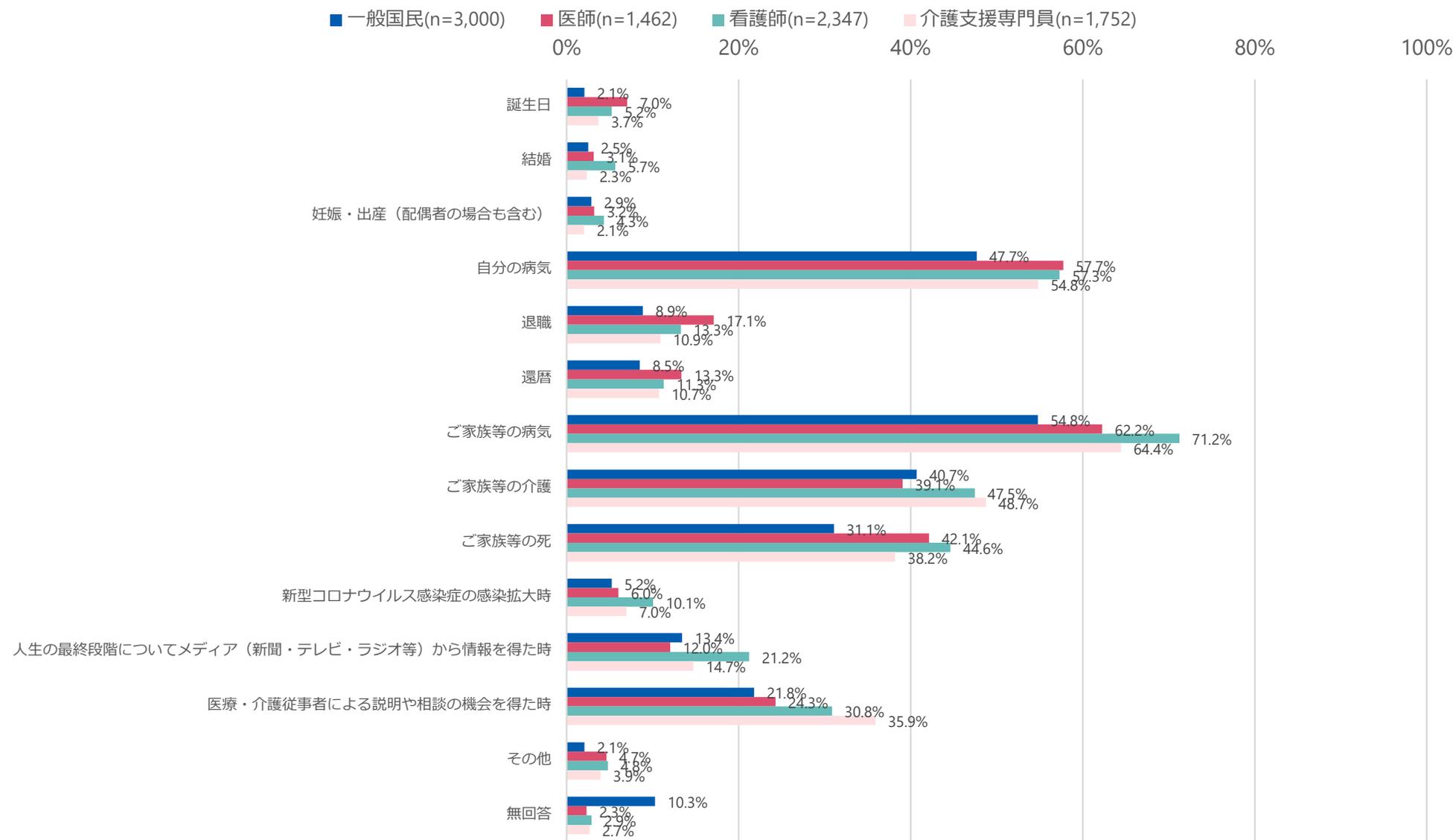
自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問5：もし、ご家族等や医療・介護従事者と医療・ケアについて話し合う時期があるとする、いつ頃が良い年齢だと思いますか。（問4で「1. 詳しく話し合っている」「2. 一応話し合っている」と回答した方は、いつ頃でしたか。）（○は1つ）



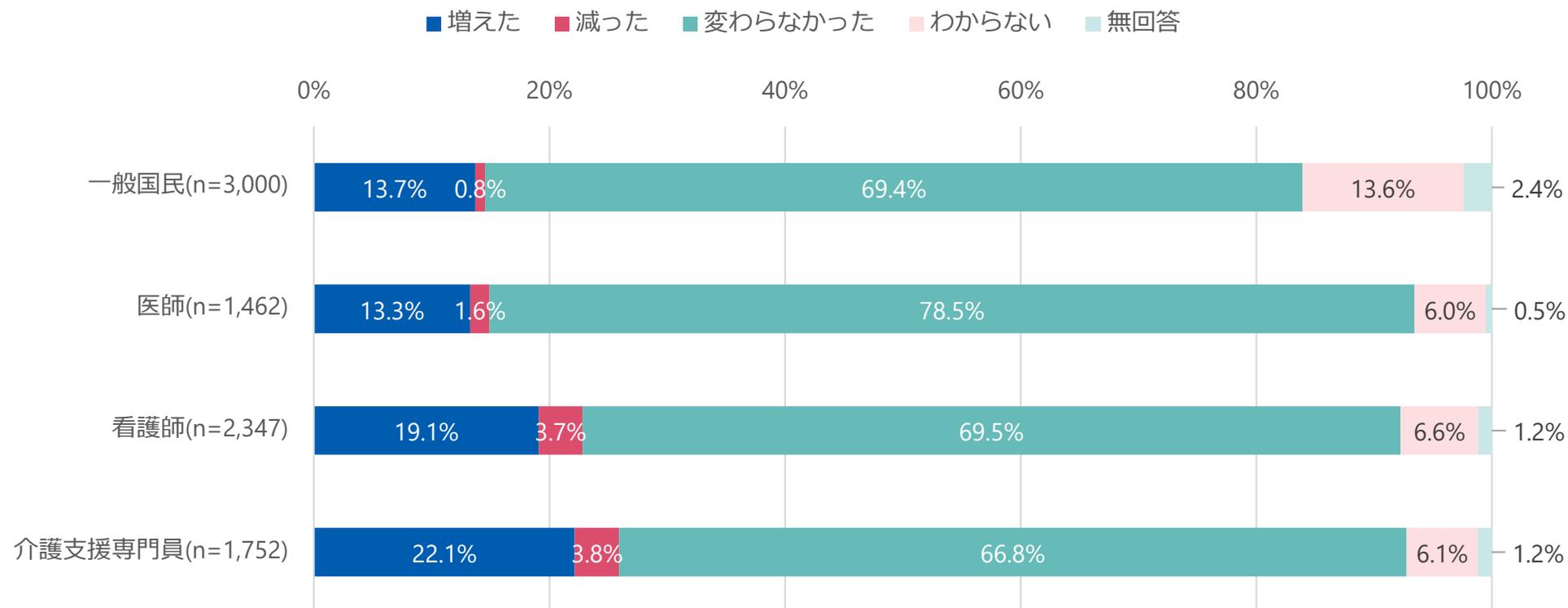
自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問6：もし、ご家族等や医療・介護従事者と医療・ケアについて話し合うきっかけがあるとすると、どのような出来事だと思いますか。（問4で「1. 詳しく話し合っている」「2. 一応話し合っている」と回答した方は、何がきっかけでしたか。）（複数回答可）



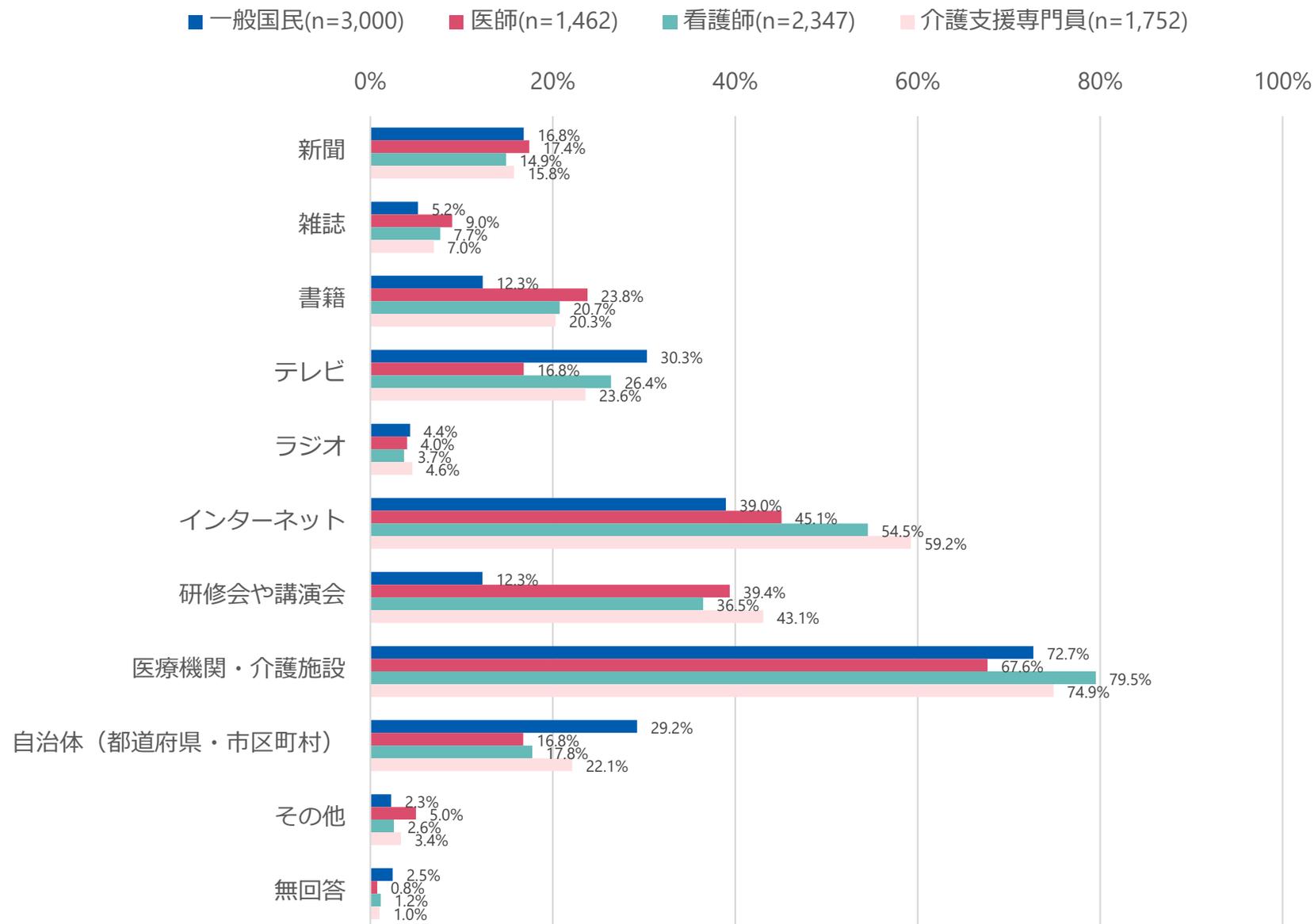
自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問7：今般の新型コロナウイルス感染症の流行により、人生の最終段階における医療・ケアについて、話し合う機会がどのように変わりましたか。（〇は1つ）



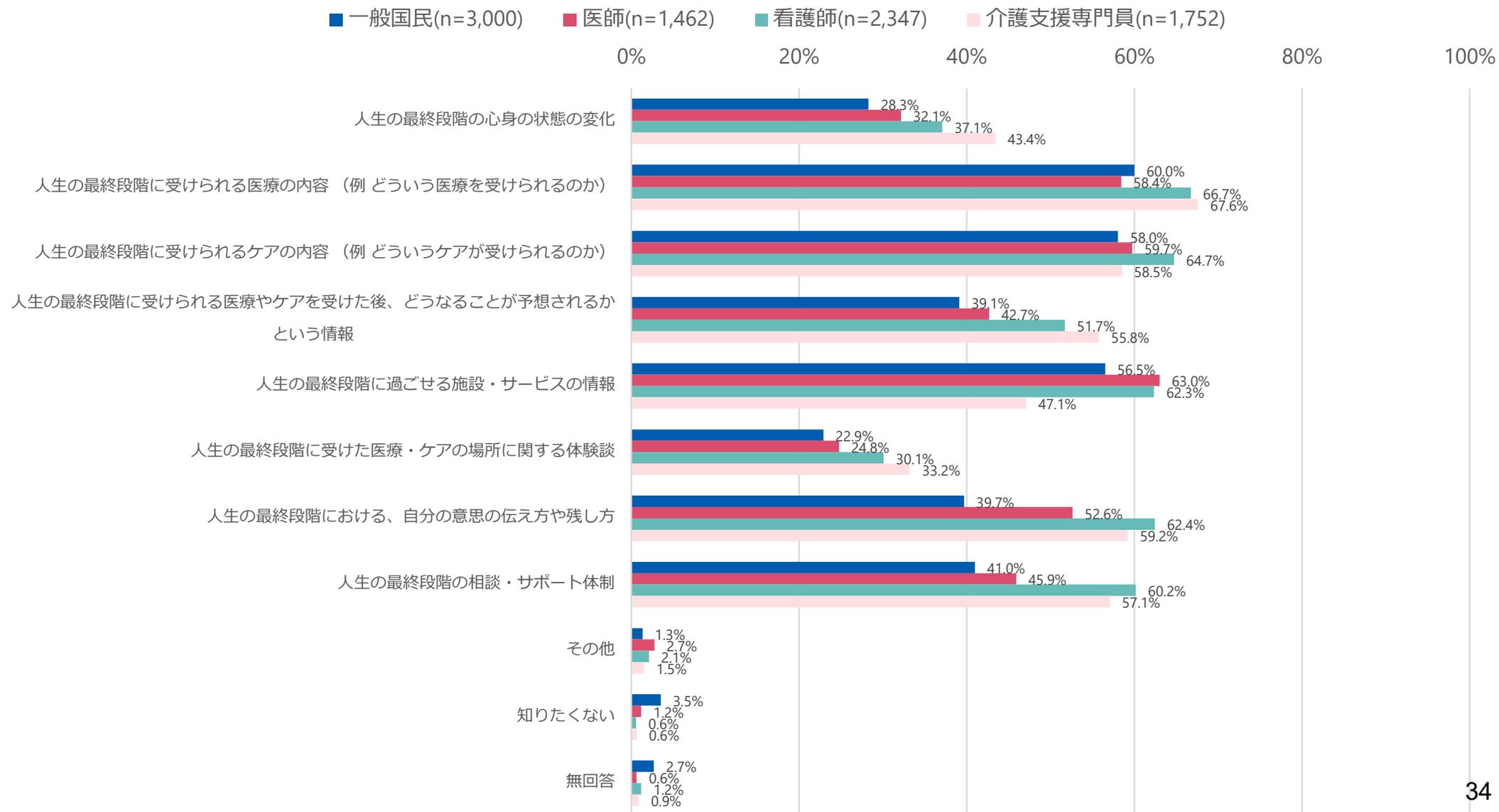
自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問8：あなたの死が近い場合の、受けたいもしくは受けたくない医療・ケアについて、どのような情報源から情報を得たいと思いますか。（複数回答可）



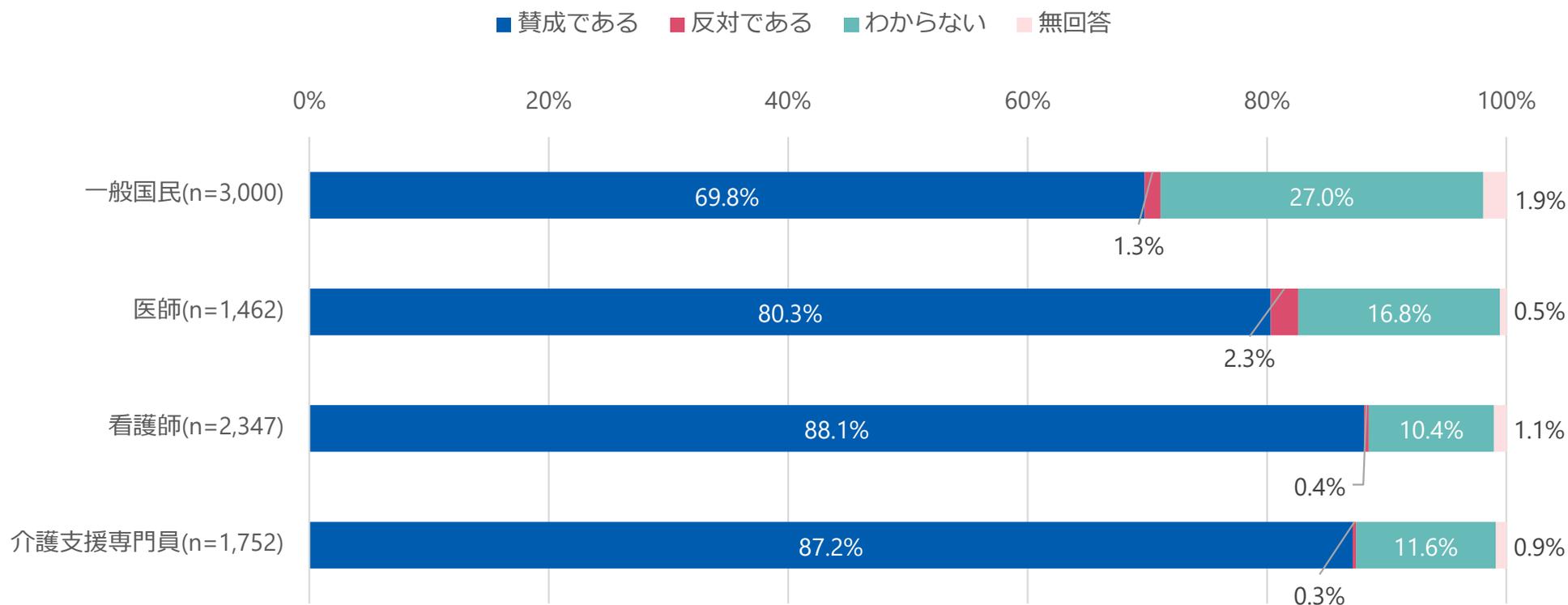
自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問9：あなたの死が近い場合の、受たいもしくは受たくない医療・ケアを考えるために、どのような情報を得たいと思いますか。（複数回答可）



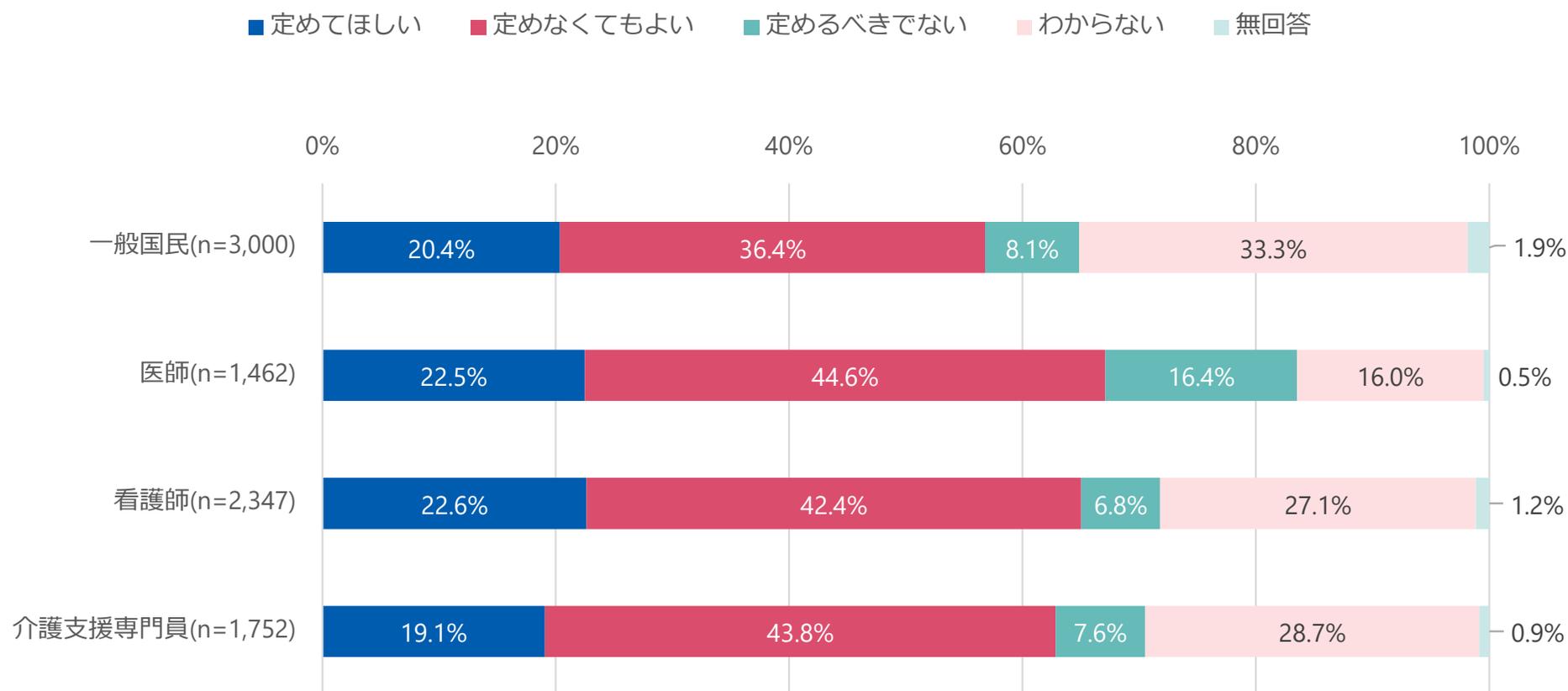
自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問10：あなたは、自分が意思決定できなくなったときに備えて、どのような医療・ケアを受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか。（○は1つ）



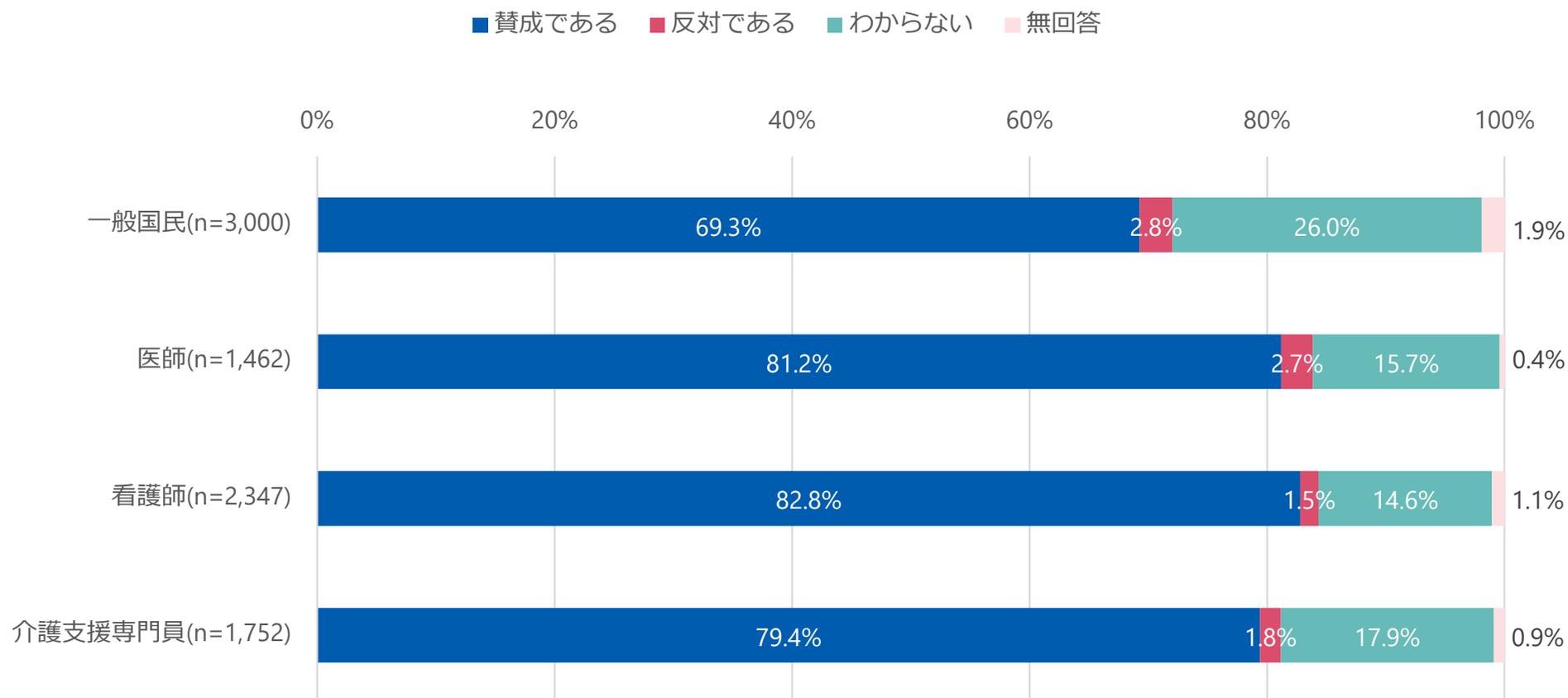
自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問11：あなたは、意思決定できなくなったときに備えて、どのような医療・ケアを受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面に従って治療方針を決定することを法律に定めてほしいと思いますか。（○は1つ）



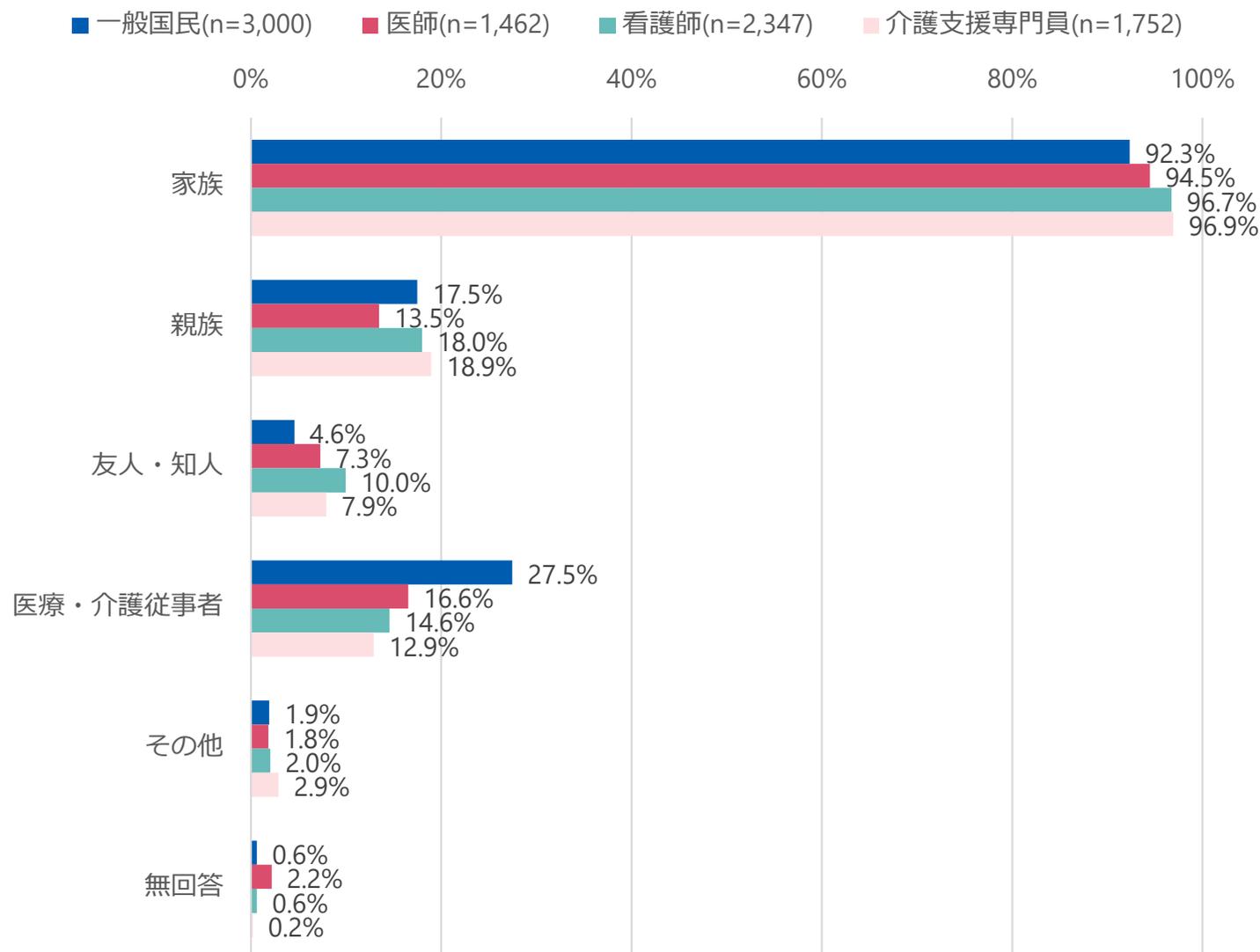
自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問12：自分が意思決定できなくなったときに備えて、自分が信頼して自分の医療・ケアに関する方針を決めてほしいと思う人、もしくは人々を決めておくことについてどう思いますか。（○は1つ）



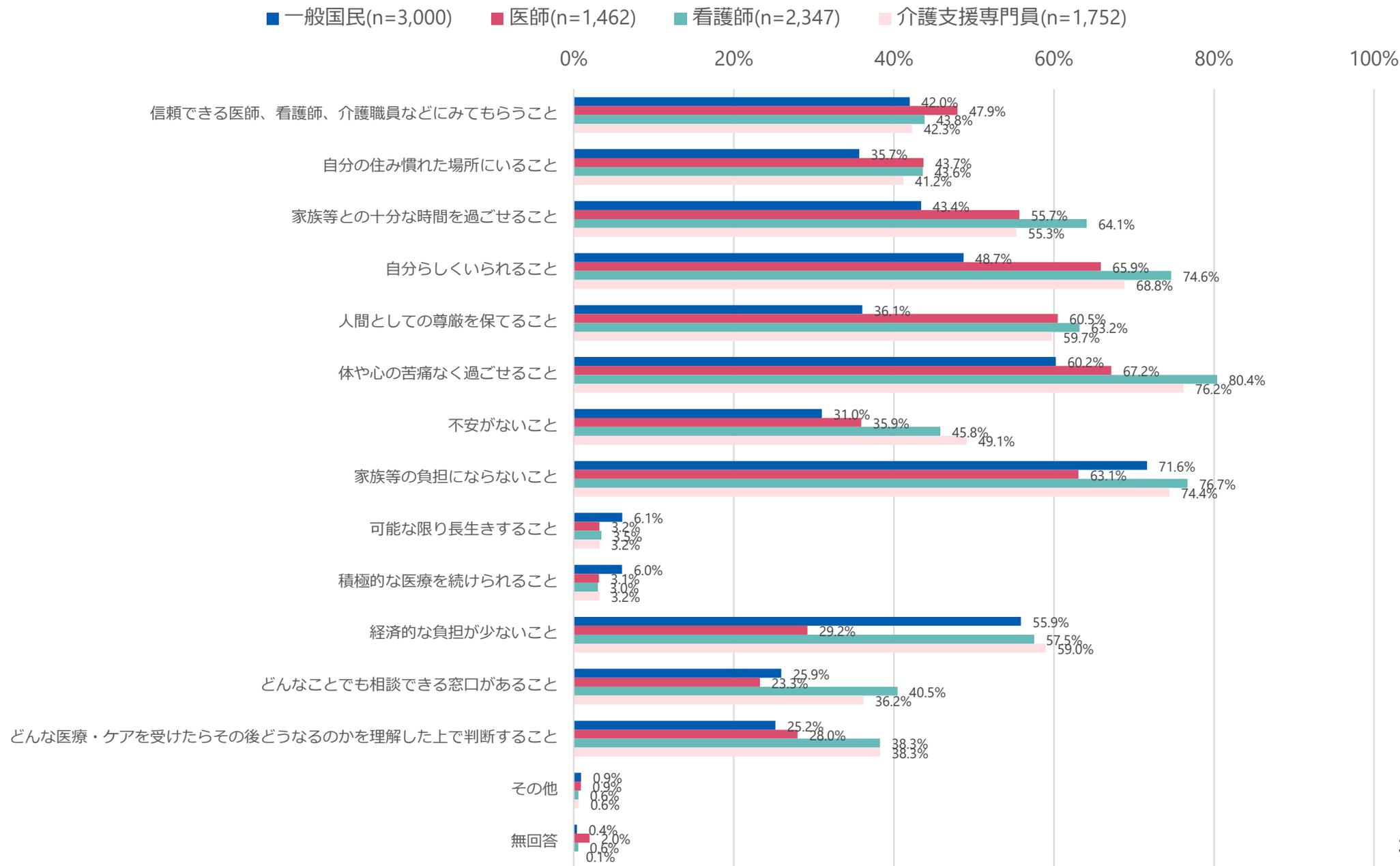
自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問13：自分が意思決定できなくなったときに、自分の医療・ケアに関する方針を決めてほしいと思う人、もしくは決めることができると思う人は誰だと思いませんか。（複数回答可）



自身の人生の最終段階における医療・ケアについて

問14：どこで最期を迎えたいかを考える際に、重要だと思うことはなんですか。（複数回答可）



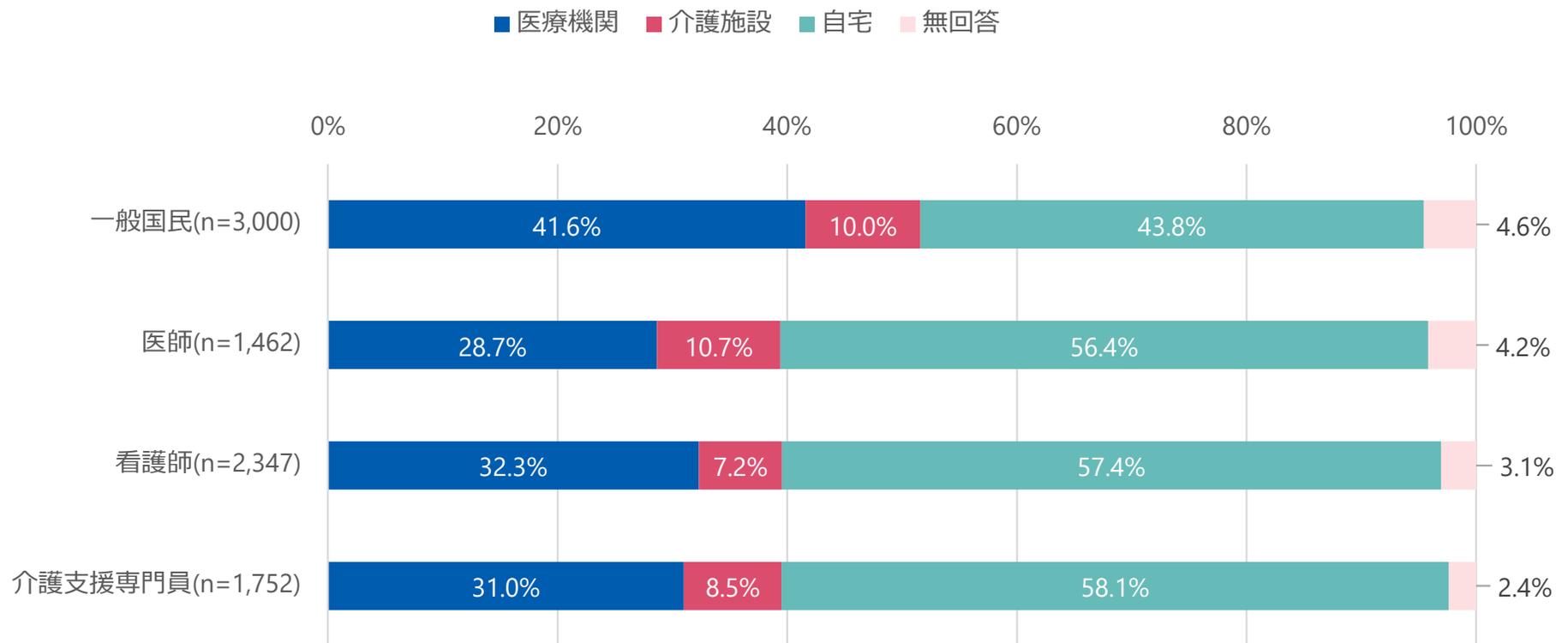
様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

問15：もしあなたが以下のような病状になった場合、どのような医療・ケアを希望しますか。

－あなたの病状－

あなたが病気で治る見込みがなく、およそ1年以内に徐々にあるいは急に死に至ると考えたとき。

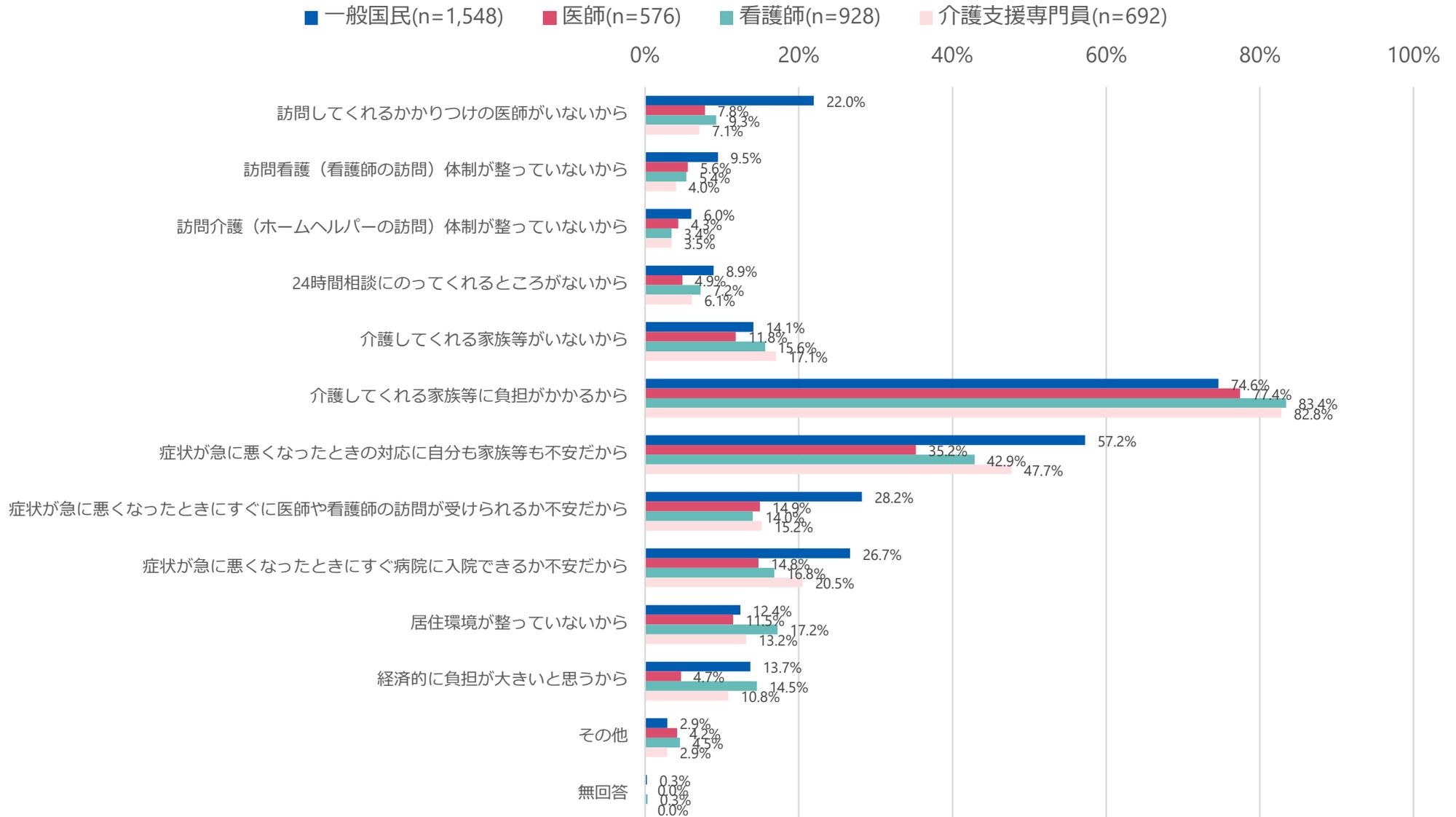
問15－1：最期をどこで迎えたいですか。（○は1つ）



様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

(問15-1で「1. 医療機関」「2. 介護施設」を選択した方)

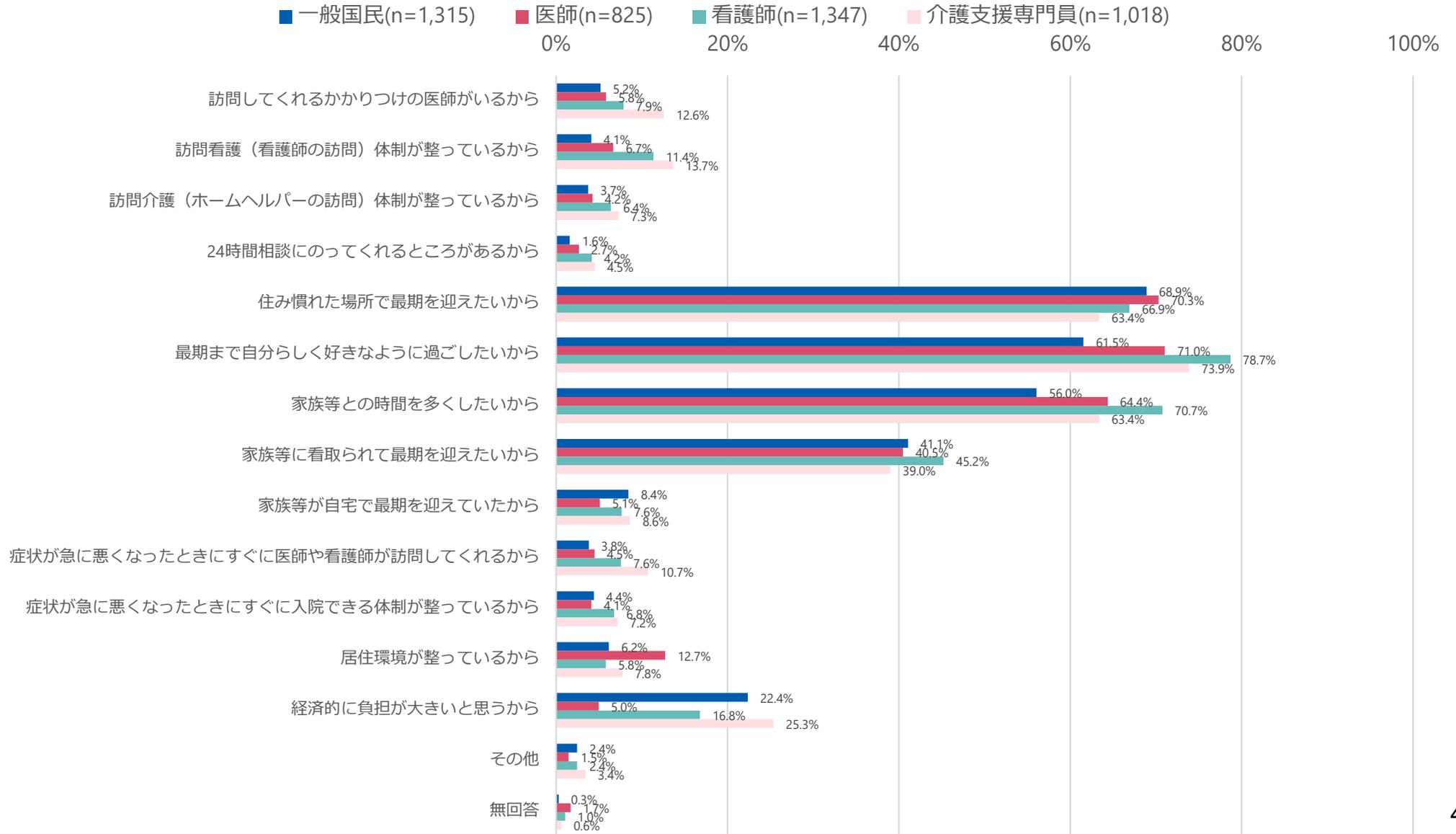
問15-1-1: なぜ、自宅以外を選択したのか、お考えに近いものをお選びください。(複数回答可)



様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

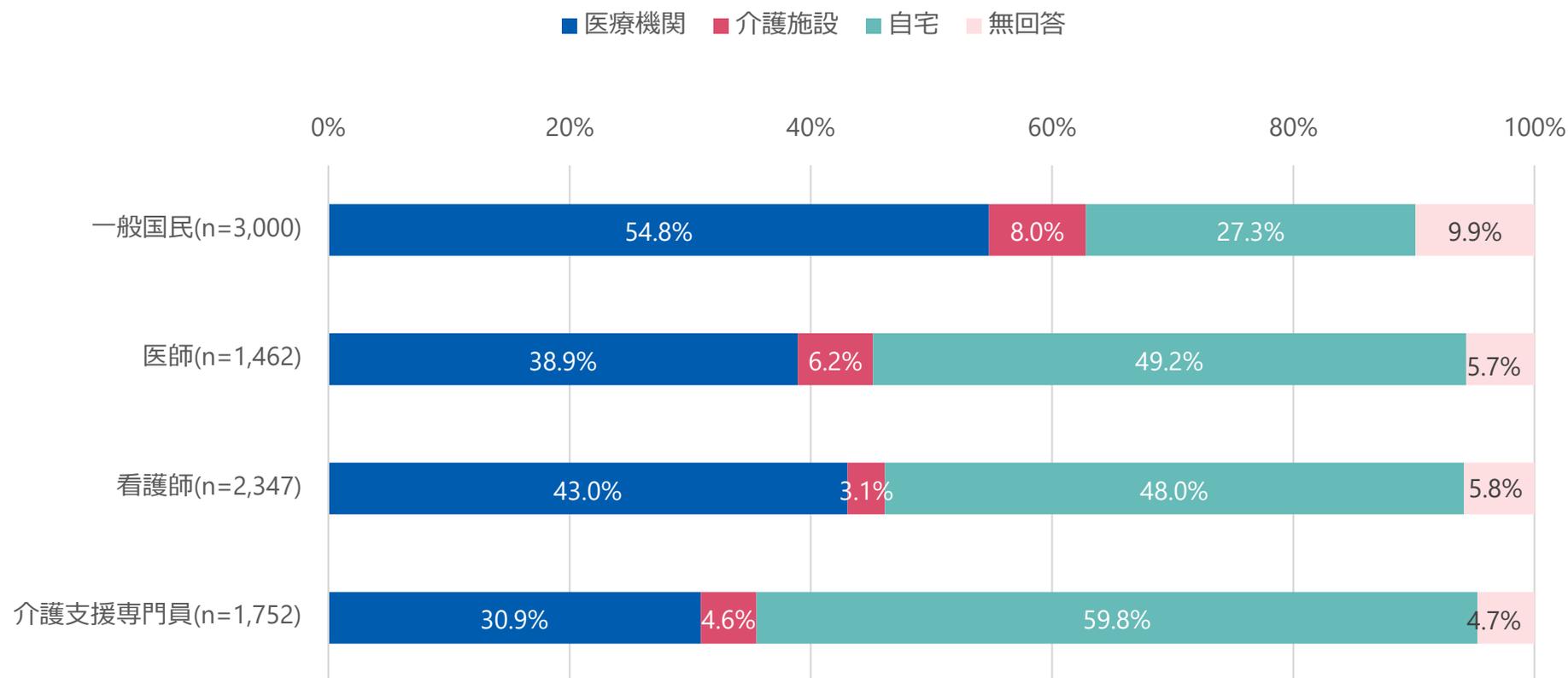
(問15-1で「3. 自宅」を選択した方)

問15-1-2: なぜ自宅を選択されたのか、お考えに近いものをお選びください。(複数回答可)



様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

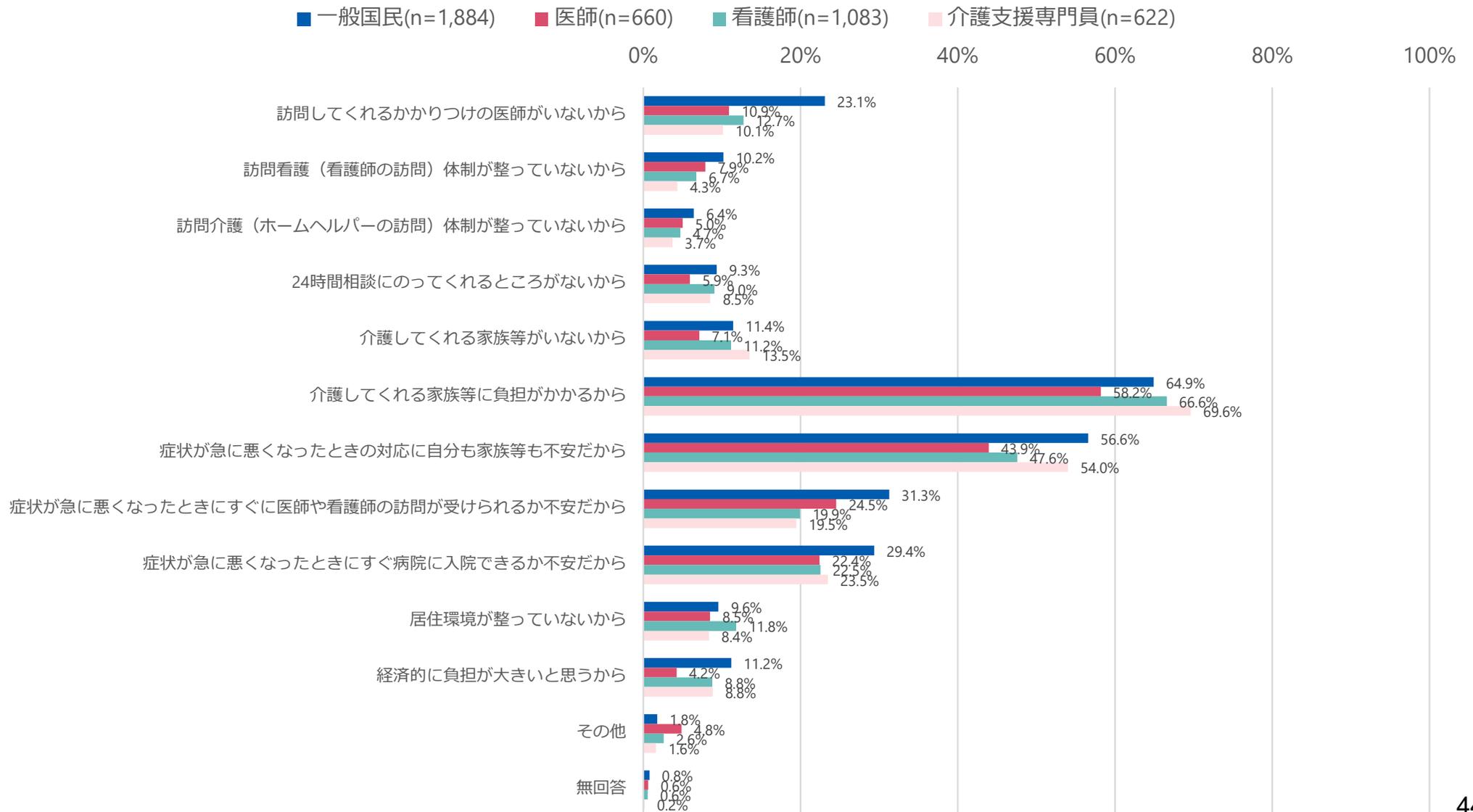
問15-2：それまでの医療・ケアはどこで受けてたいですか。（○は1つ）



様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

(問15-2で「1. 医療機関」「2. 介護施設」を選択した方)

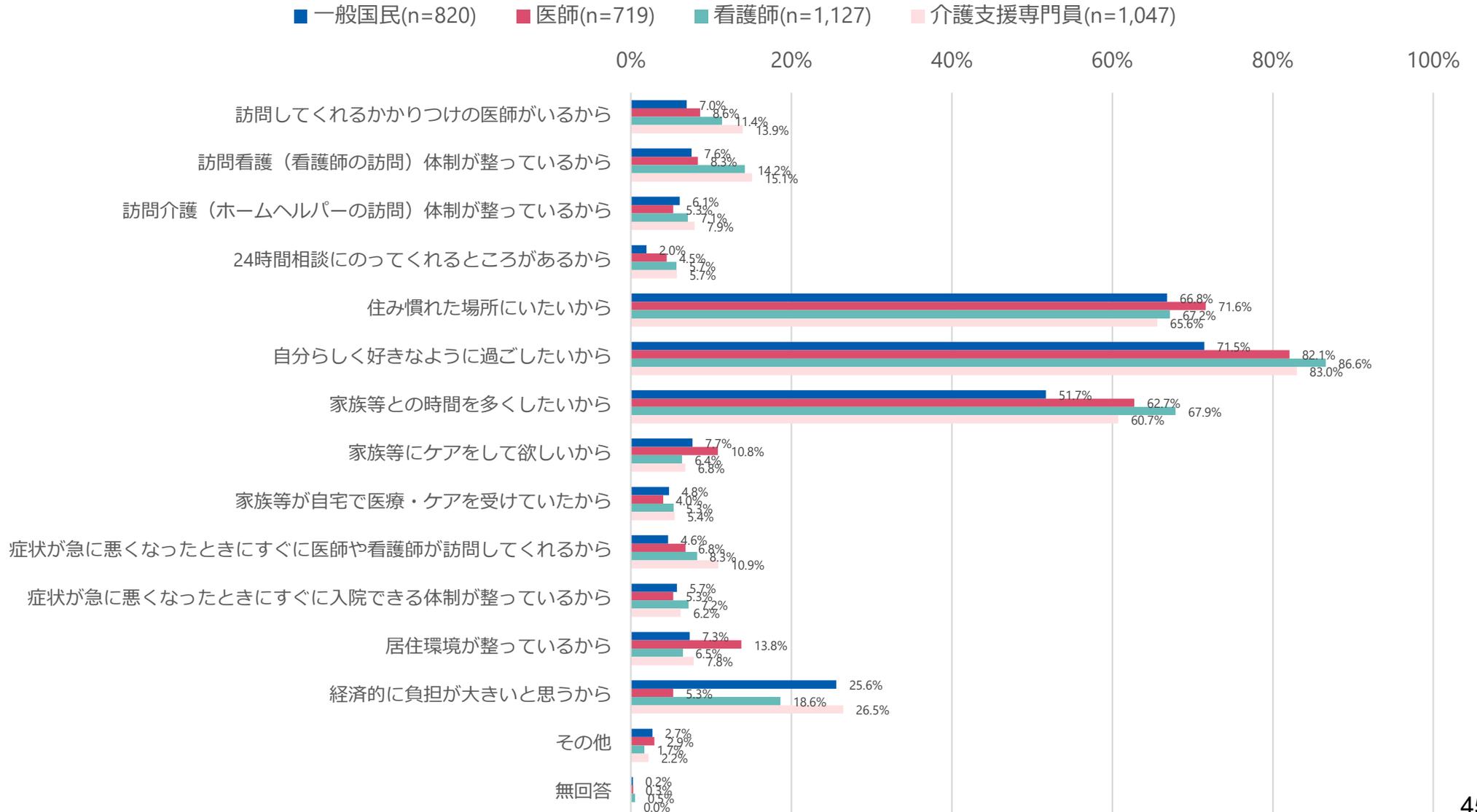
問15-2-1: なぜ、自宅以外を選択したのか、お考えに近いものをお選びください。(複数回答可)



様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

(問15-2で「3. 自宅」を選択した方)

問15-2-2：なぜ自宅を選択されたのか、お考えに近いものをお選びください。(複数回答可)

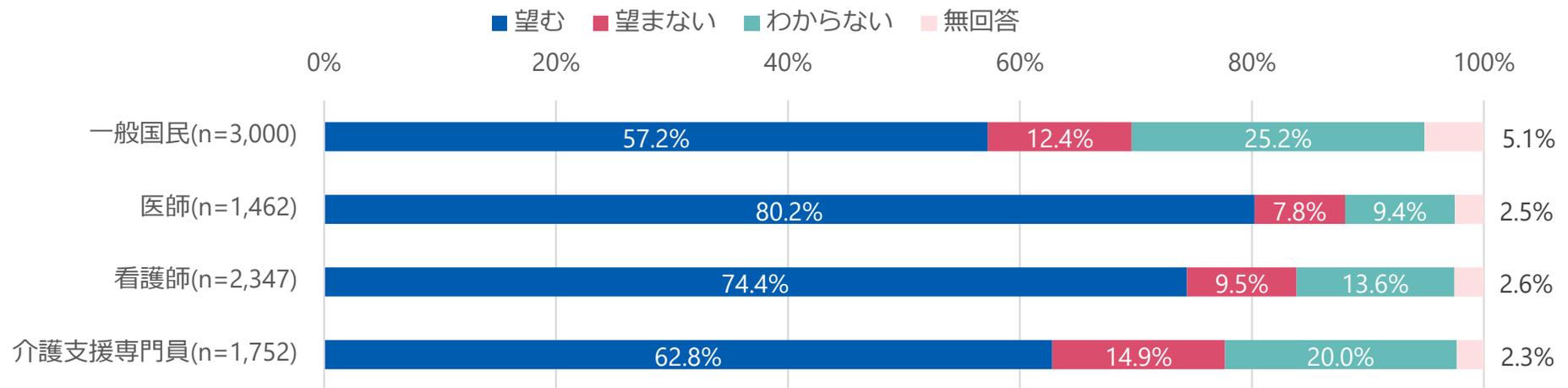


様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

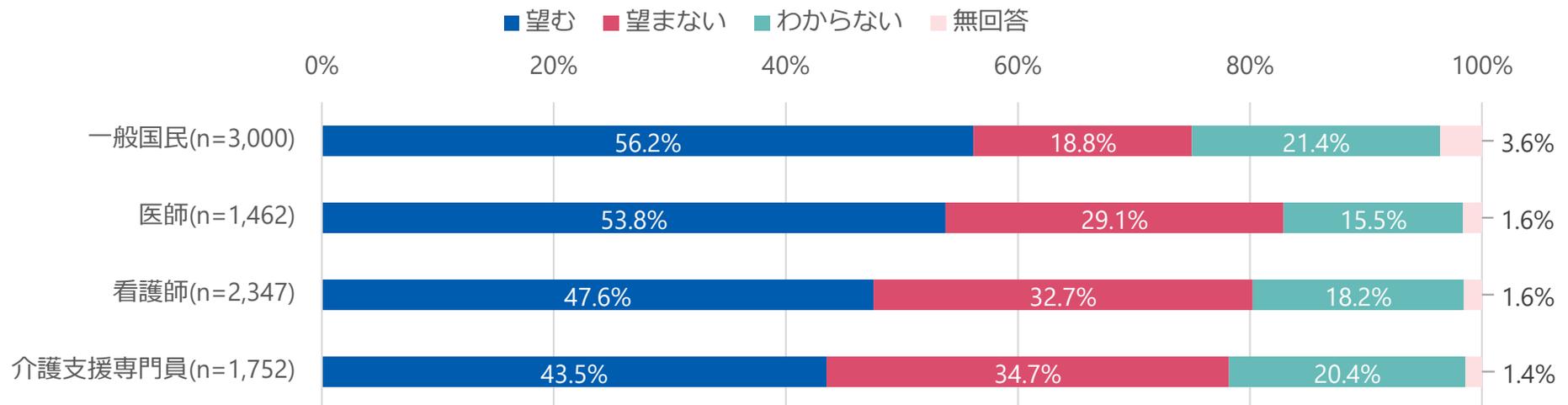
問15-3：下記のア～キの医療を望みますか。（○はそれぞれ1つ）

あなたが病気で治る見込みがなく、およそ1年以内に徐々にあるいは急に死に至ると考えたとき。

(ア) 他の病気にもかかった場合、抗生剤を飲んだり点滴したりすること

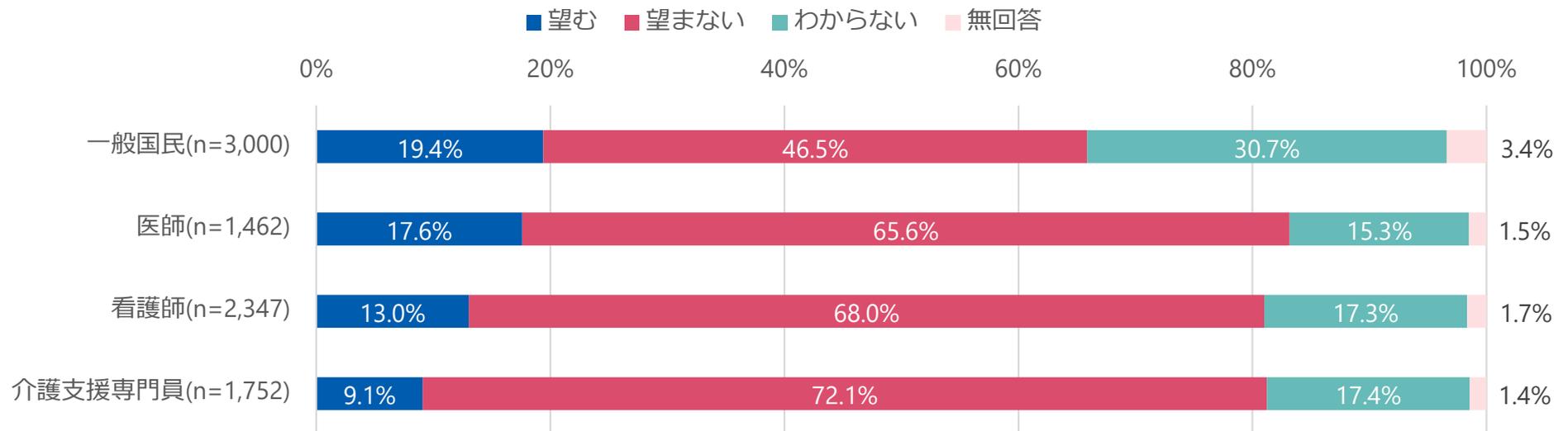


(イ) 口から水を飲めなくなった場合の点滴

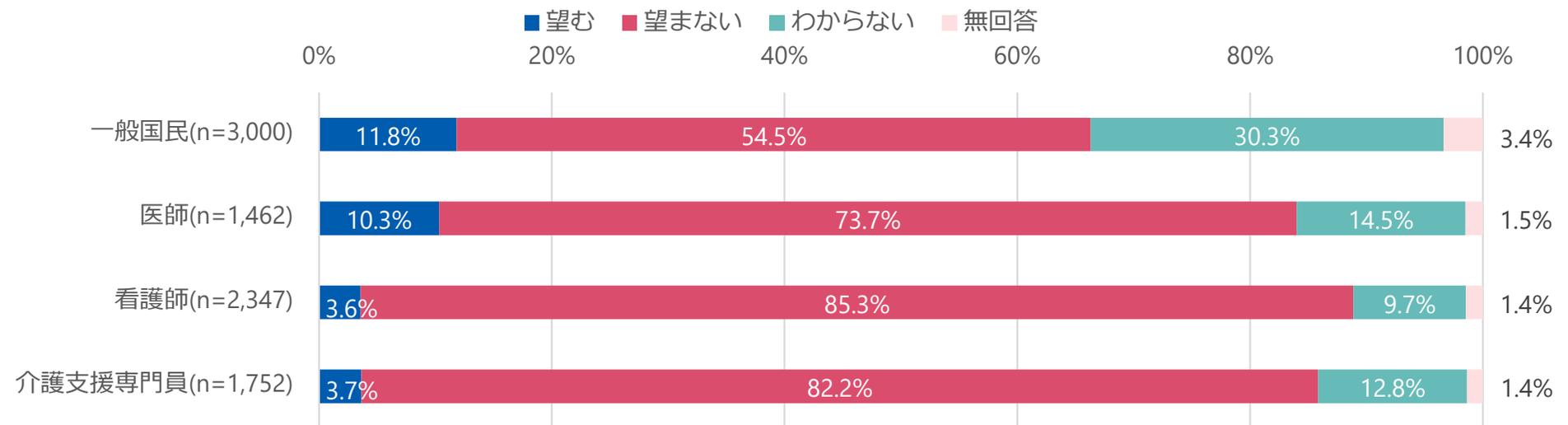


様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

(ウ) 口から十分な栄養をとれなくなった場合、首などから太い血管に栄養剤を点滴すること（中心静脈栄養）

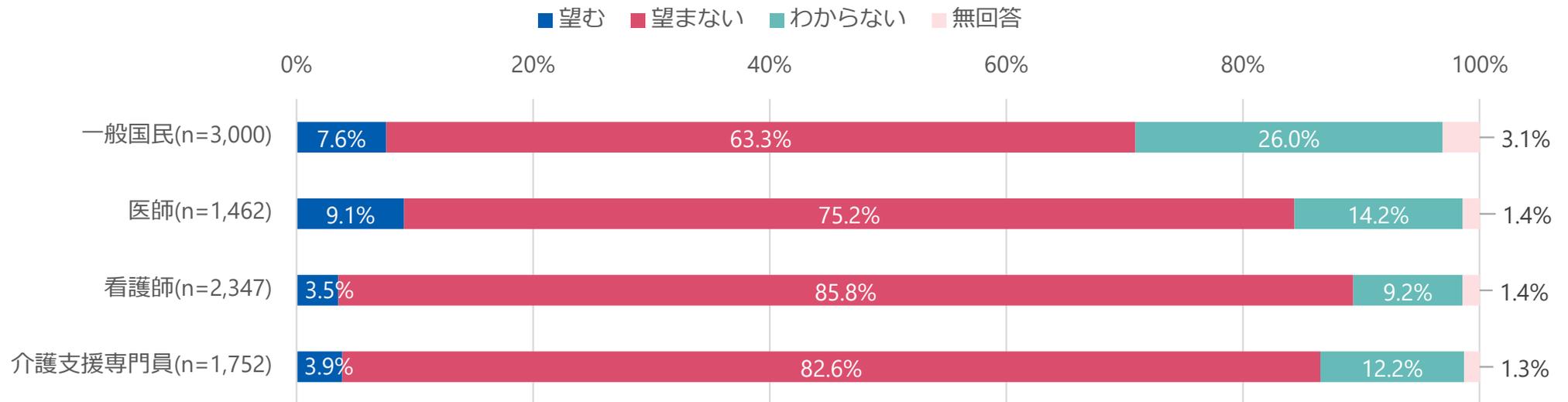


(エ) 口から十分な栄養をとれなくなった場合、鼻から管を入れて流動食を入れること（経鼻栄養）

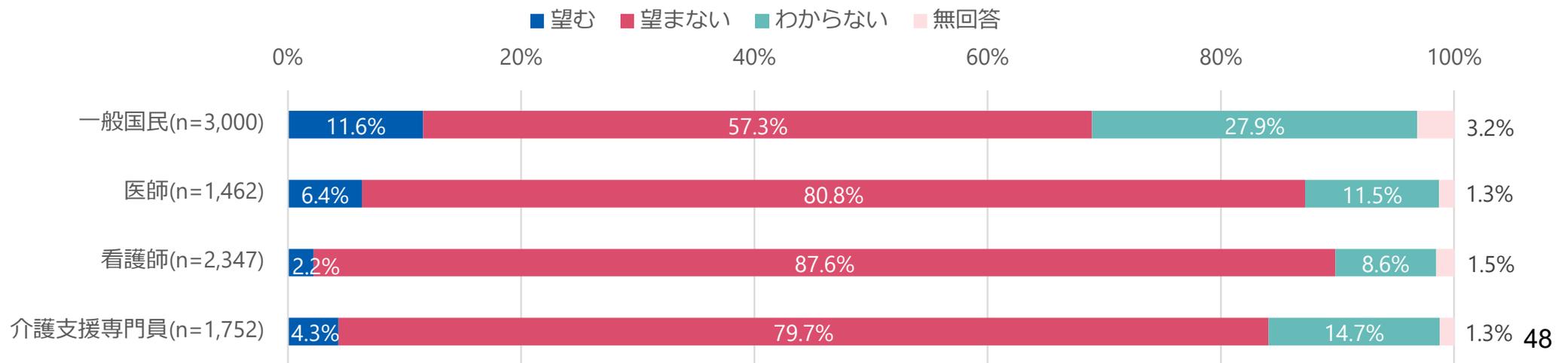


様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

(オ) 口から十分な栄養をとれなくなった場合、手術で胃に穴を開けて直接管を取り付け、流動食を入れること（胃ろう）

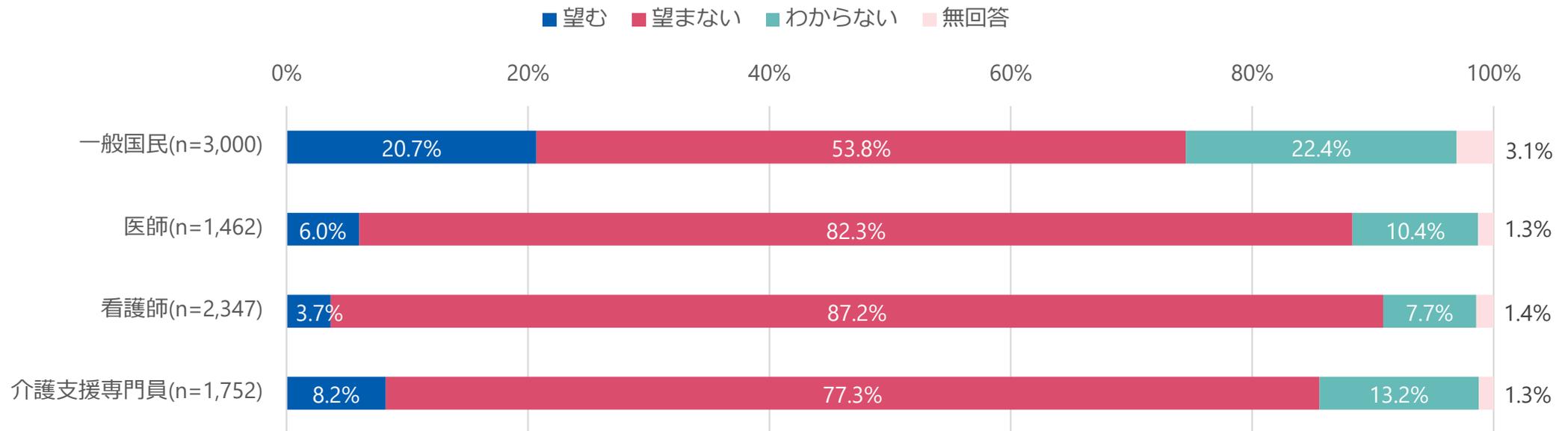


(カ) 呼吸ができにくくなった場合、気管に管を入れて人工呼吸器につなげること（言葉を発声できなくなる場合もあります）



様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

(キ) 心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置（心臓マッサージ、心臓への電気ショック、人工呼吸などを行うこと）



様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

問16：もしあなたが以下のような病状になった場合、どのような医療・ケアを希望しますか。

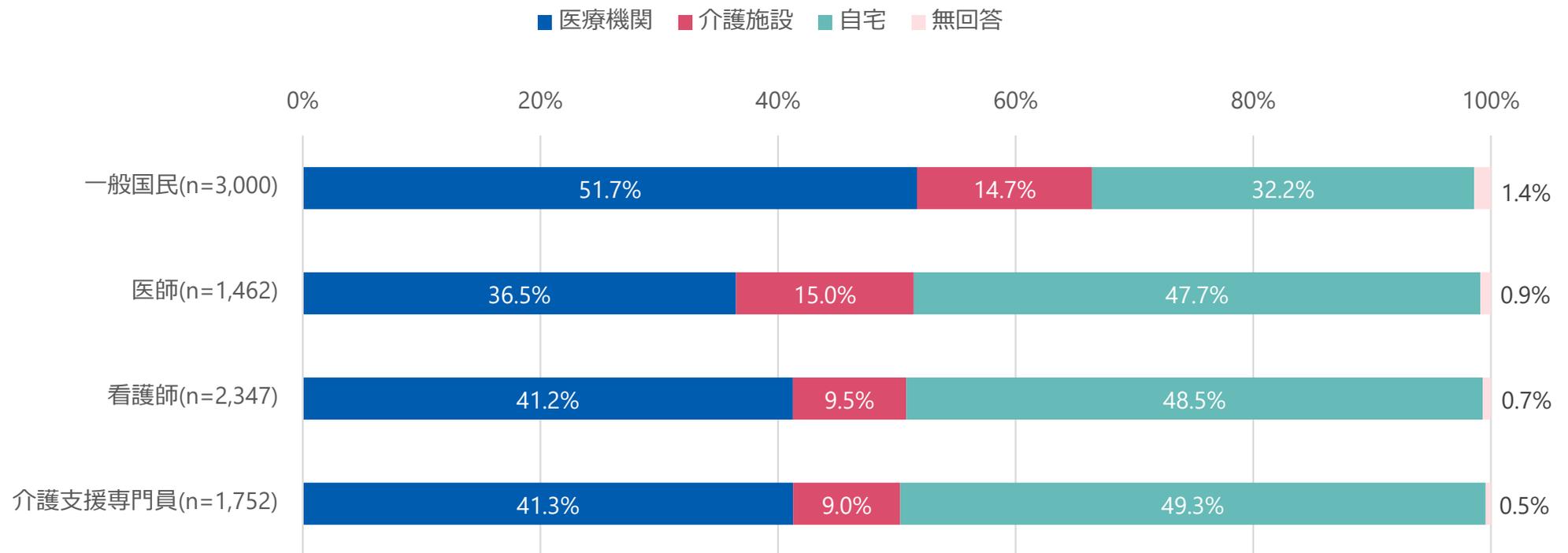
－あなたの病状－

末期がんと診断され、状態は悪化し、痛みはなく、呼吸が苦しいといった状態です。

今は食事や着替え、トイレなどの身の回りのことに手助けが必要です。

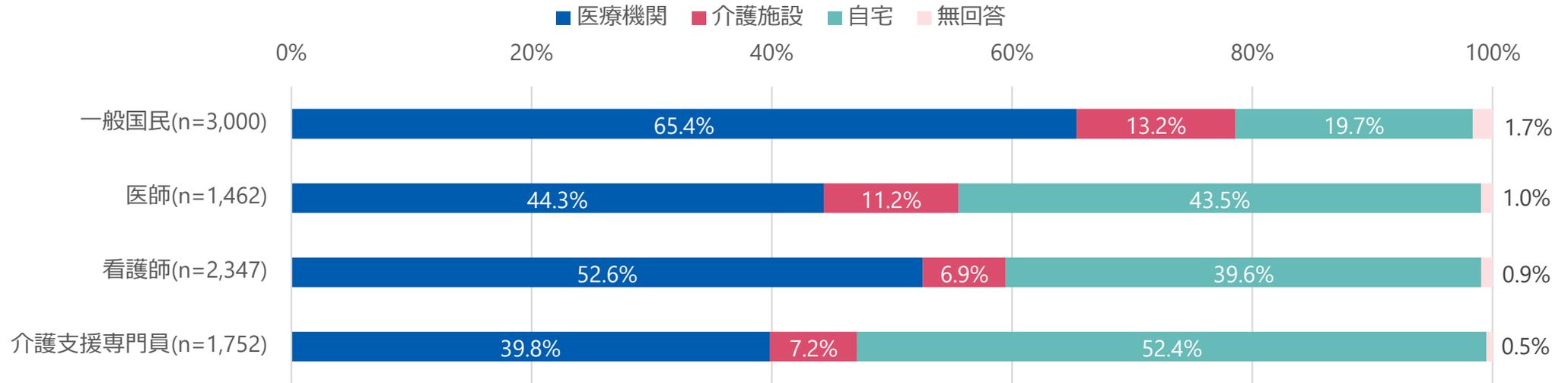
意識や判断力は健康な時と同様に保たれています。

問16-1：最期をどこで迎えたいですか。（○は1つ）

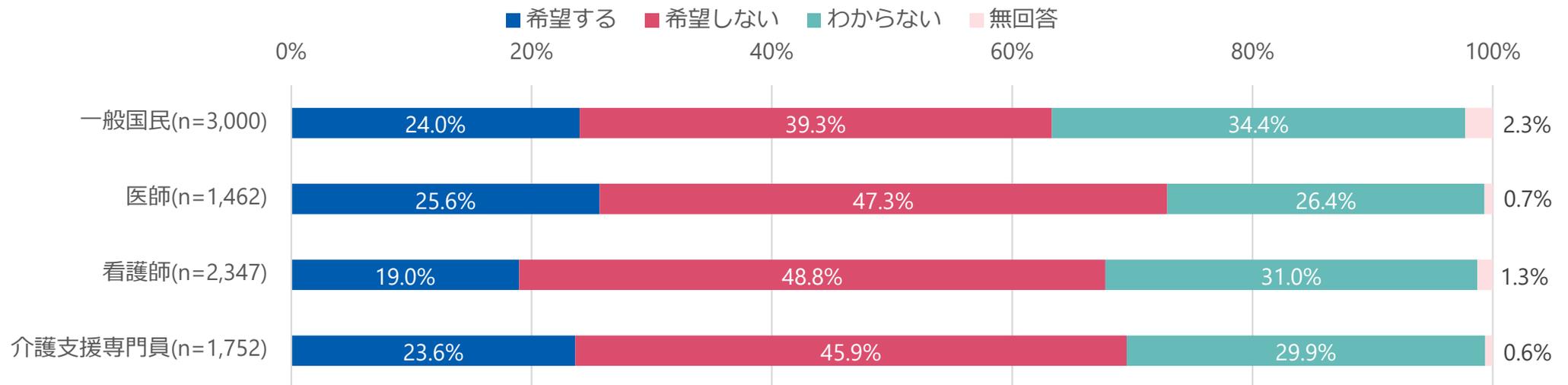


様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

問16-2：それまでの医療・ケアはどこで受けてたいですか。（○は1つ）



問16-3：副作用はあるものの、多少なりとも悪化を遅らせることを期待して、抗がん剤や放射線による治療を希望しますか。（○は1つ）



様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

問17：もしあなたが以下のような病状になった場合、どのような医療・ケアを希望しますか。

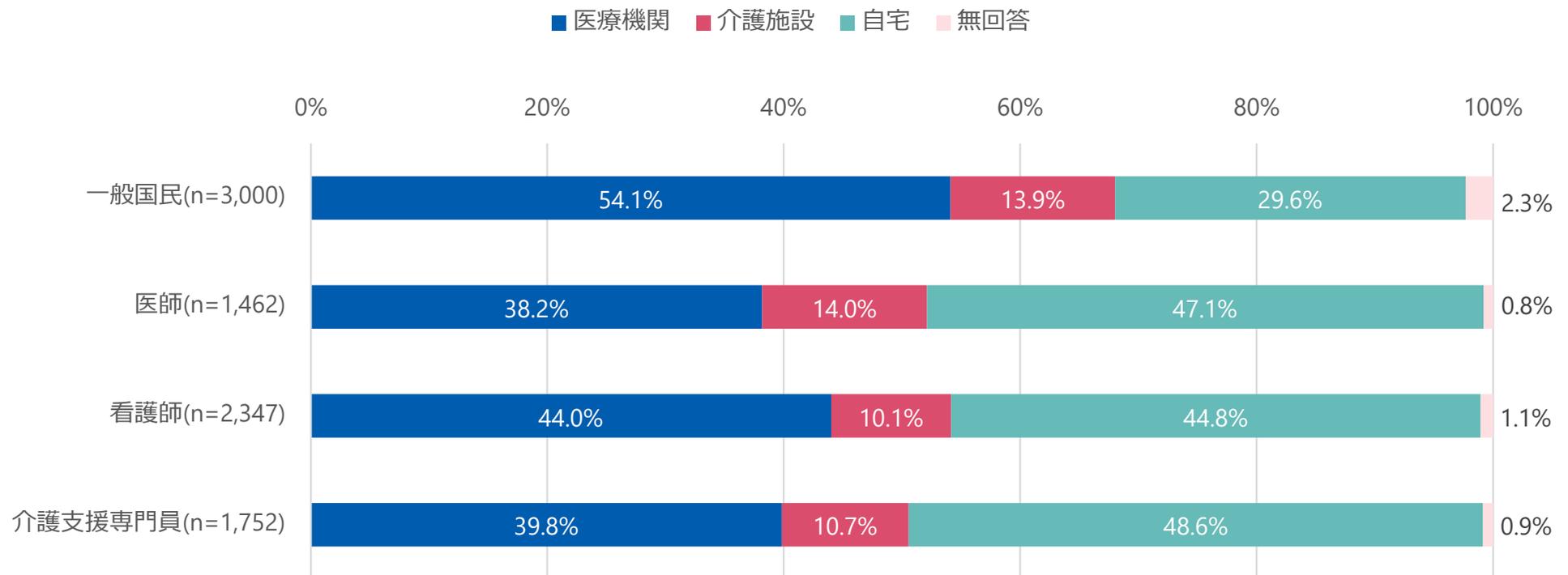
－あなたの病状－

慢性の重い心臓病と診断され、状態は悪化し、痛みはなく、呼吸が苦しいといった状態です。

今は食事や着替え、トイレなど身の回りのことに手助けが必要です。

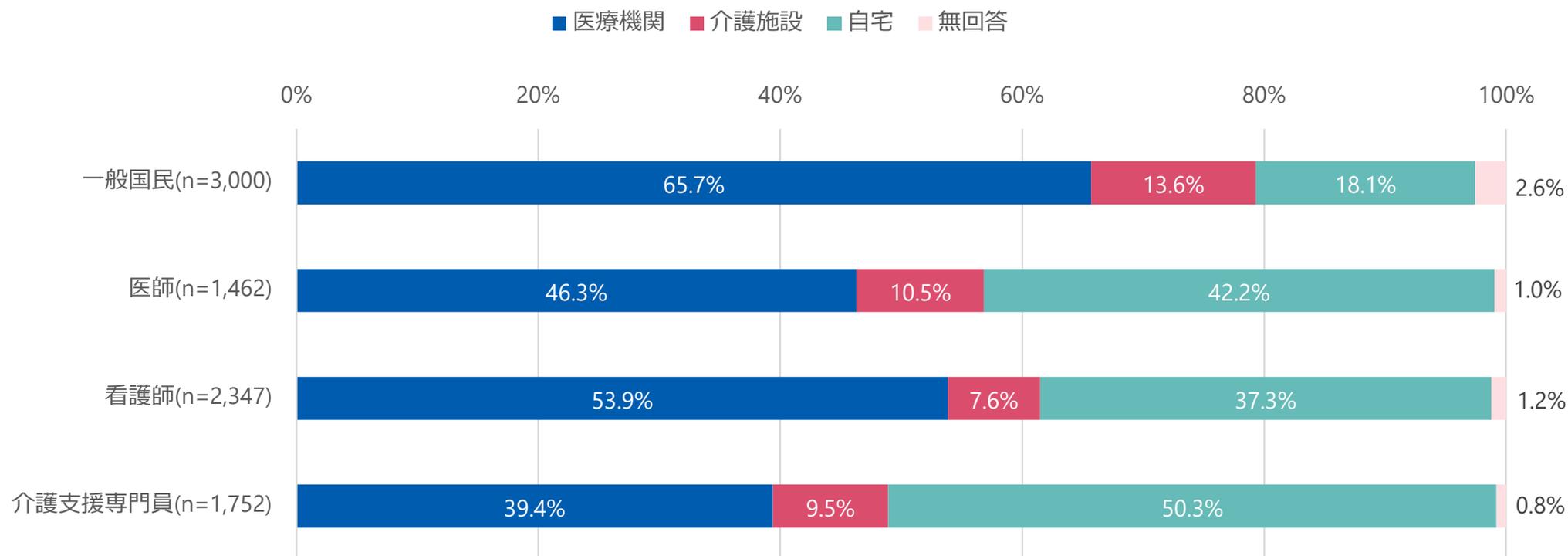
意識や判断力は健康な時と同様に保たれています。

問17-1：最期をどこで迎えたいですか。（○は1つ）



様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

問17-2：それまでの医療・ケアはどこで受けてたいですか。（○は1つ）



様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

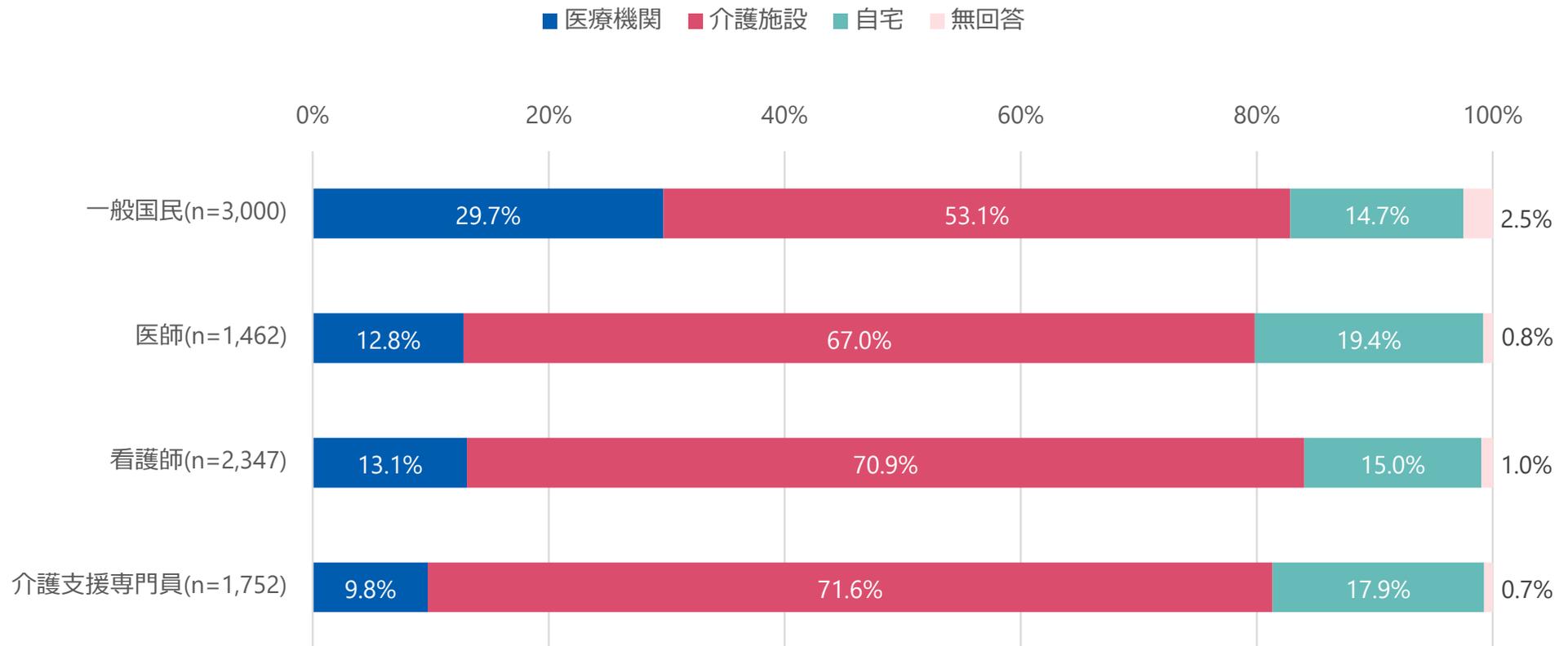
問18：もしあなたが以下のような病状になった場合、どのような医療・ケアを希望しますか。

－あなたの病状－

認知症と診断され、状態は悪化し、自分の居場所や家族の顔が分からない状態です。

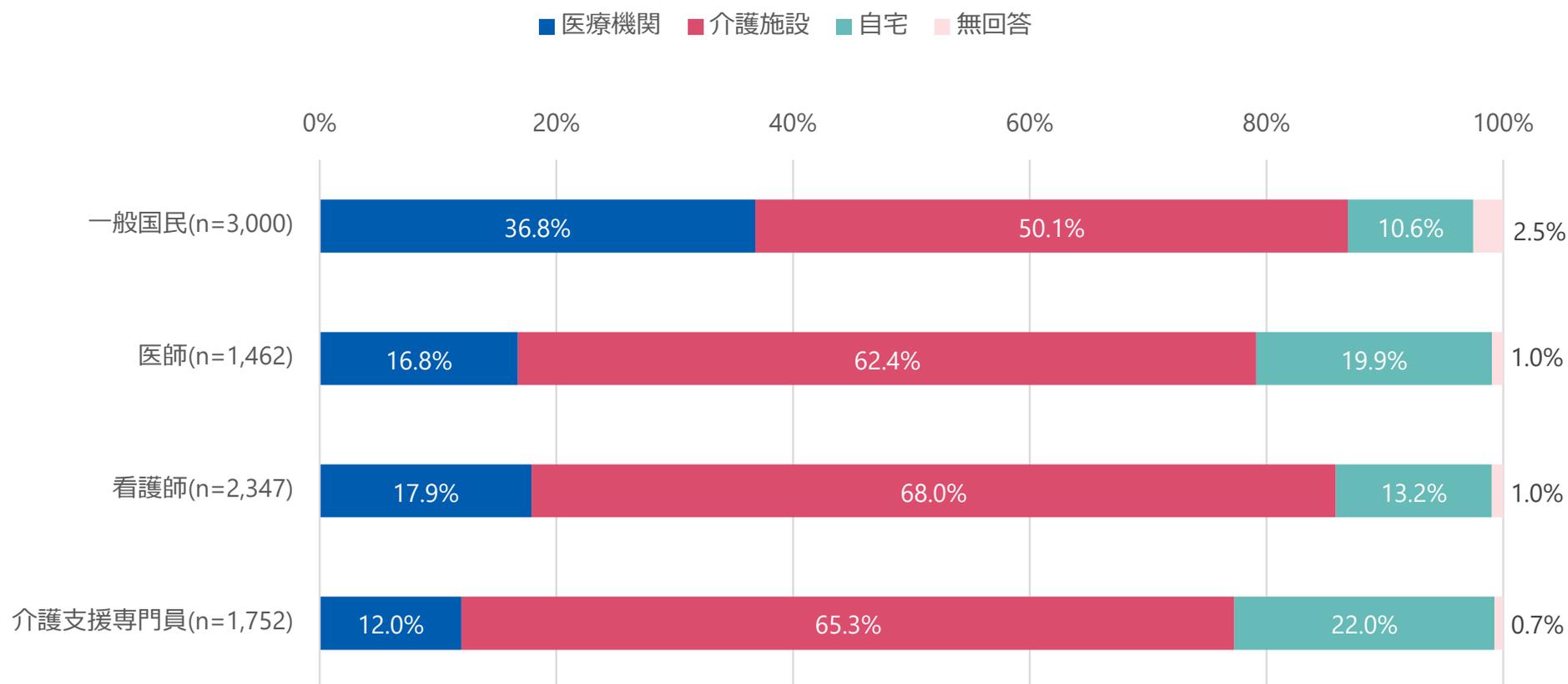
今は、食事や着替え、トイレなど身の回りのことに手助けが必要です。

問18－1：最期をどこで迎えたいですか。（○は1つ）



様々な人生の最終段階の状況において過ごす場所や治療方針等に関する希望について

問18-2：それまでの医療・ケアはどこで受けてたいですか。（○は1つ）

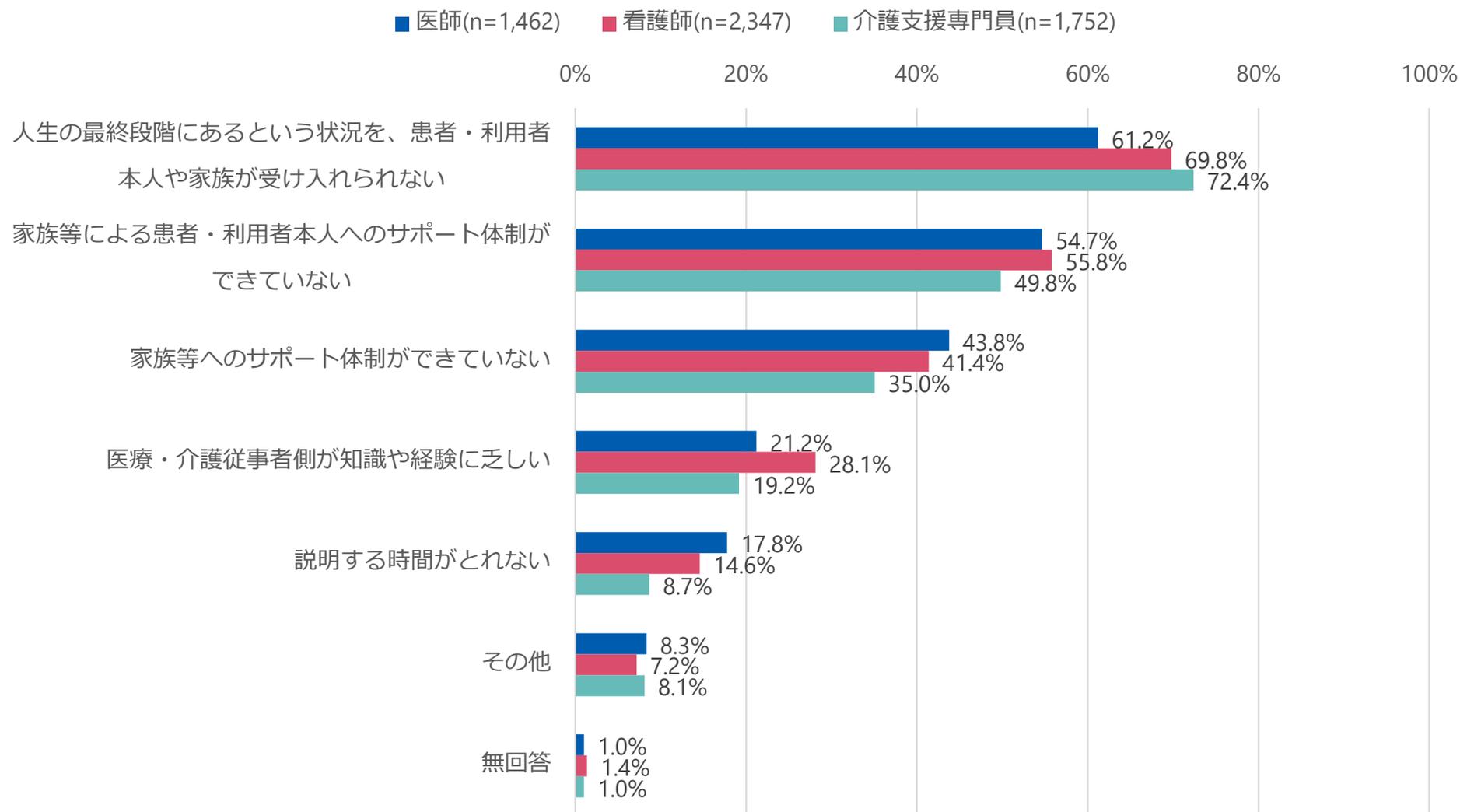


医師、看護師、介護支援専門員票の結果

医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

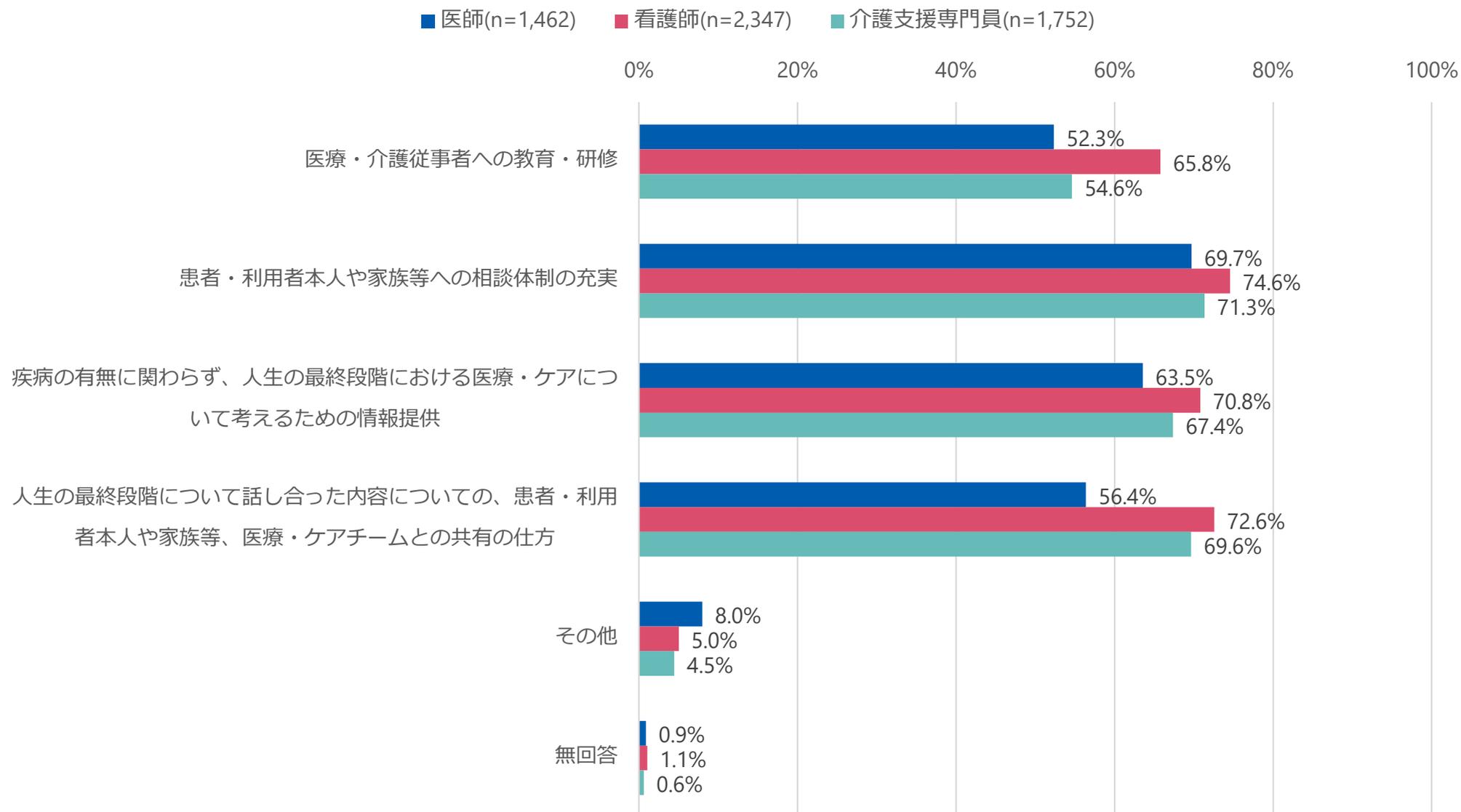
問19：あなたが、担当する患者・利用者本人に対し、人生の最終段階における医療・ケアについて話し合うにあたり、難しいと感じることは何ですか。（複数回答可）

※ 「家族等」の中には、家族以外でも、自分が信頼して自分の医療・ケアに関する方針を決めてほしいと思う人（友人、知人）を含みます。



医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

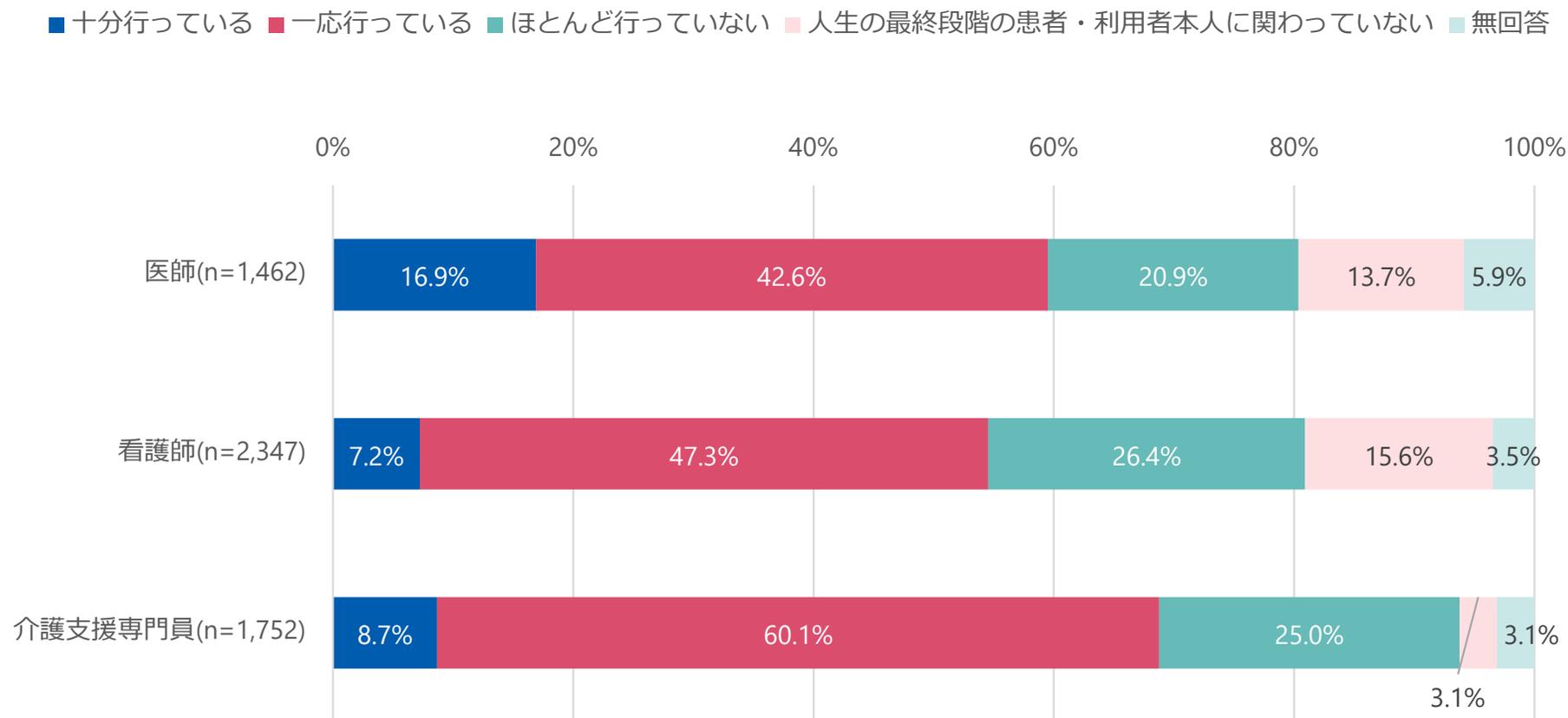
問20：医療・ケアを受ける患者・利用者本人の意向を尊重した人生の最終段階における医療・ケアの充実のために、何が重要だと思いますか。（複数回答可）



医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

問21：あなたは、担当する患者・利用者本人と人生の最終段階の医療・ケアについて、十分な話し合いを行っていると思いますか。（○は1つ）

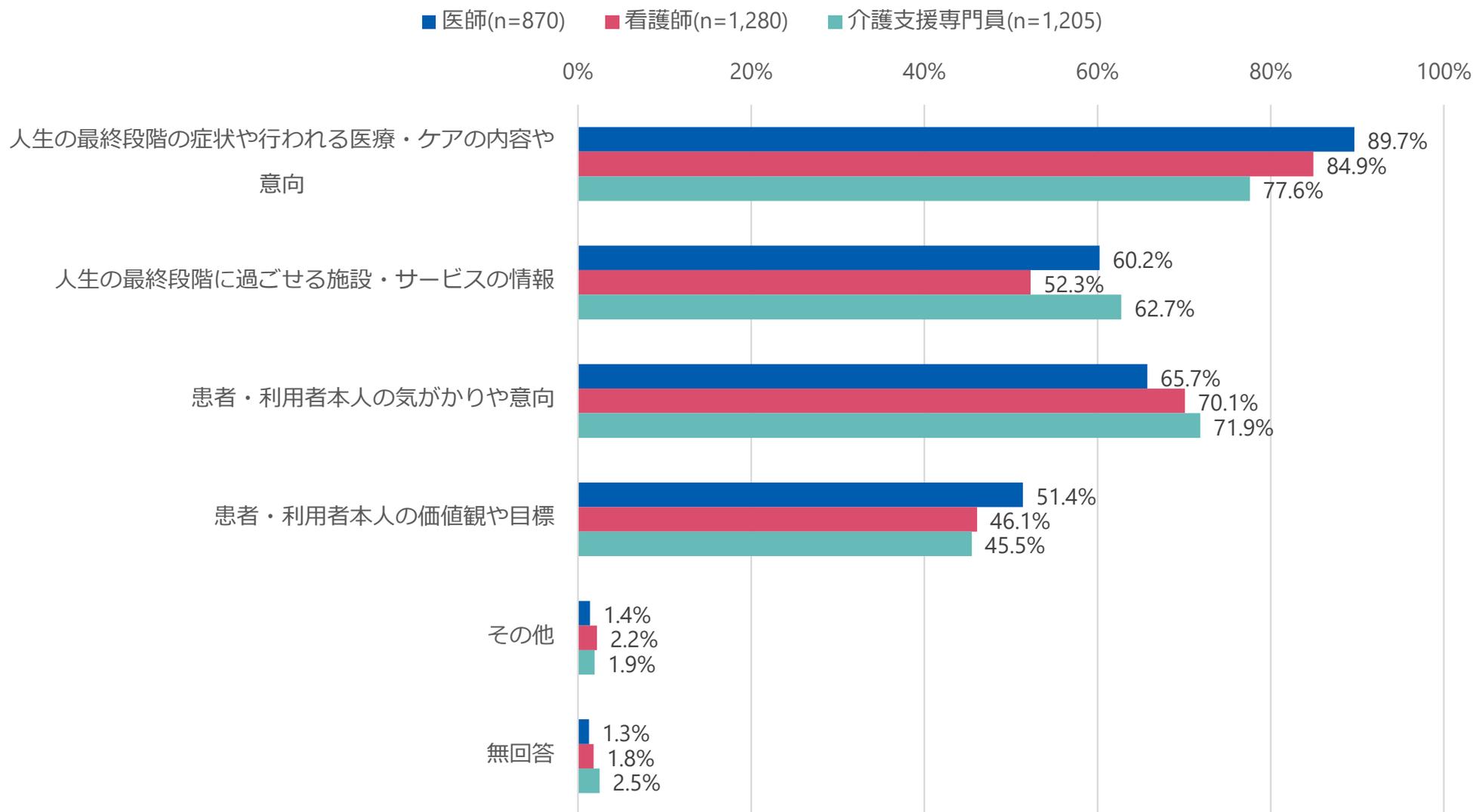
※ 患者・利用者本人の意思が確認できない場合は、患者・利用者本人の意思に基づいて家族等と十分な話し合いを行っていると思いますか。



医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

(問21で「1. 十分行っている」「2. 一応行っている」と回答した方)

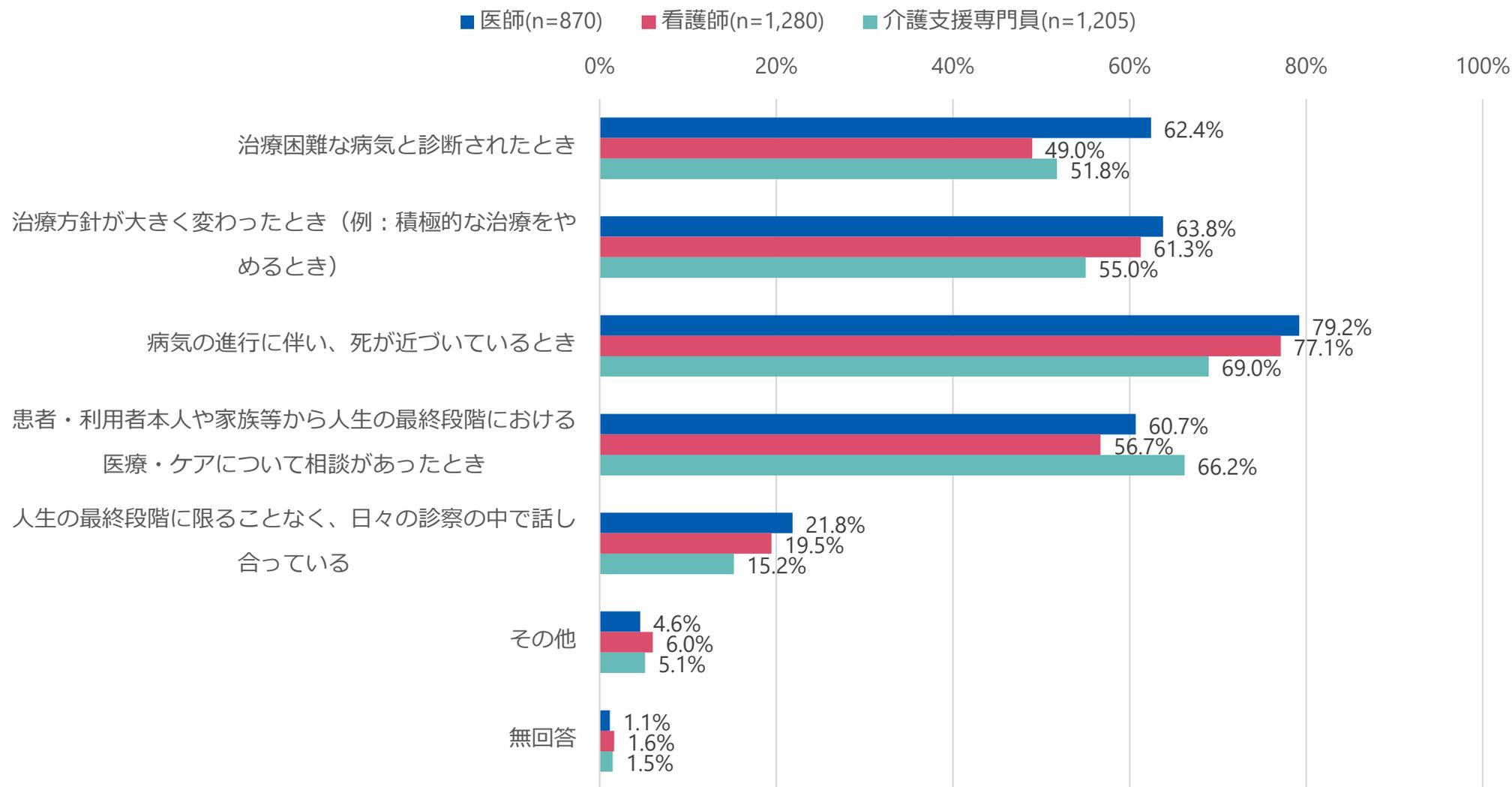
問21-1: どのような内容を話し合っていますか。(複数回答可)



医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

(問21で「1. 十分行っている」「2. 一応行っている」と回答した方)

問21-2: あなたは患者・利用者本人やその家族等と人生の最終段階の医療・ケアについての話し合いをいつ行っていますか。(複数回答可)

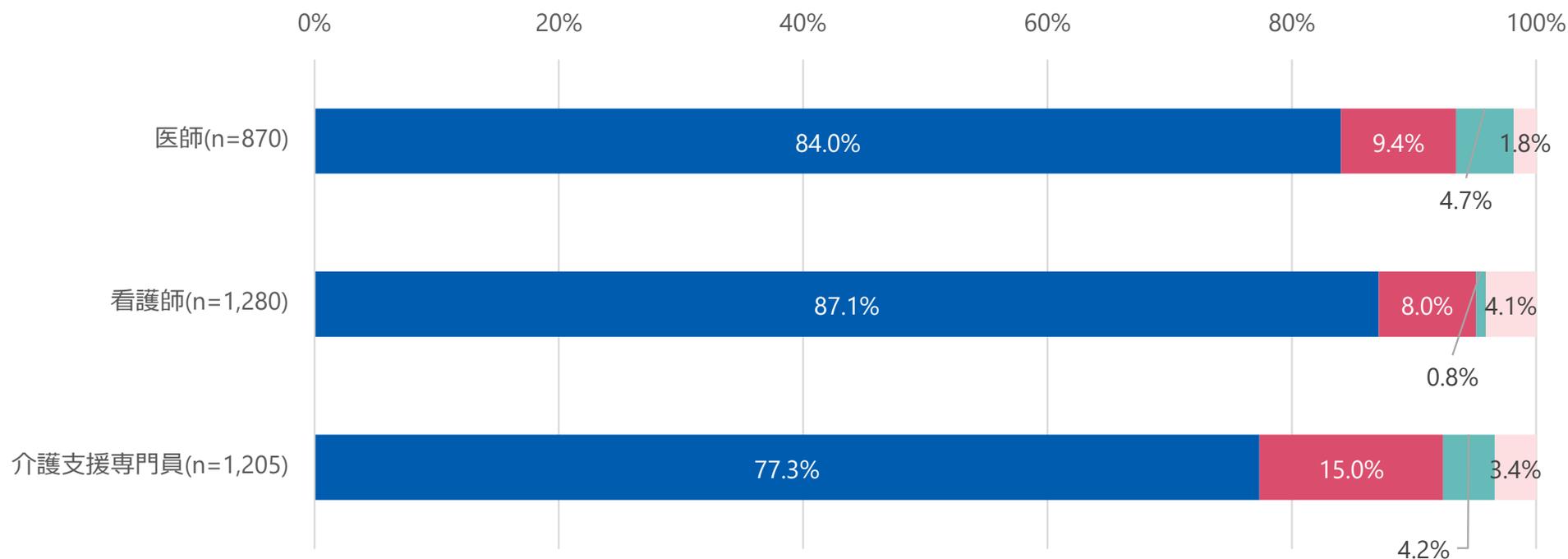


医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

(問21で「1. 十分行っている」「2. 一応行っている」と回答した方)

問21-3: あなたは、担当する患者・利用者本人の人生の最終段階の医療・ケアについて、患者・利用者本人（もしくは家族等）と話し合った内容を、医療・ケアチームに情報共有していますか。(〇は1つ)

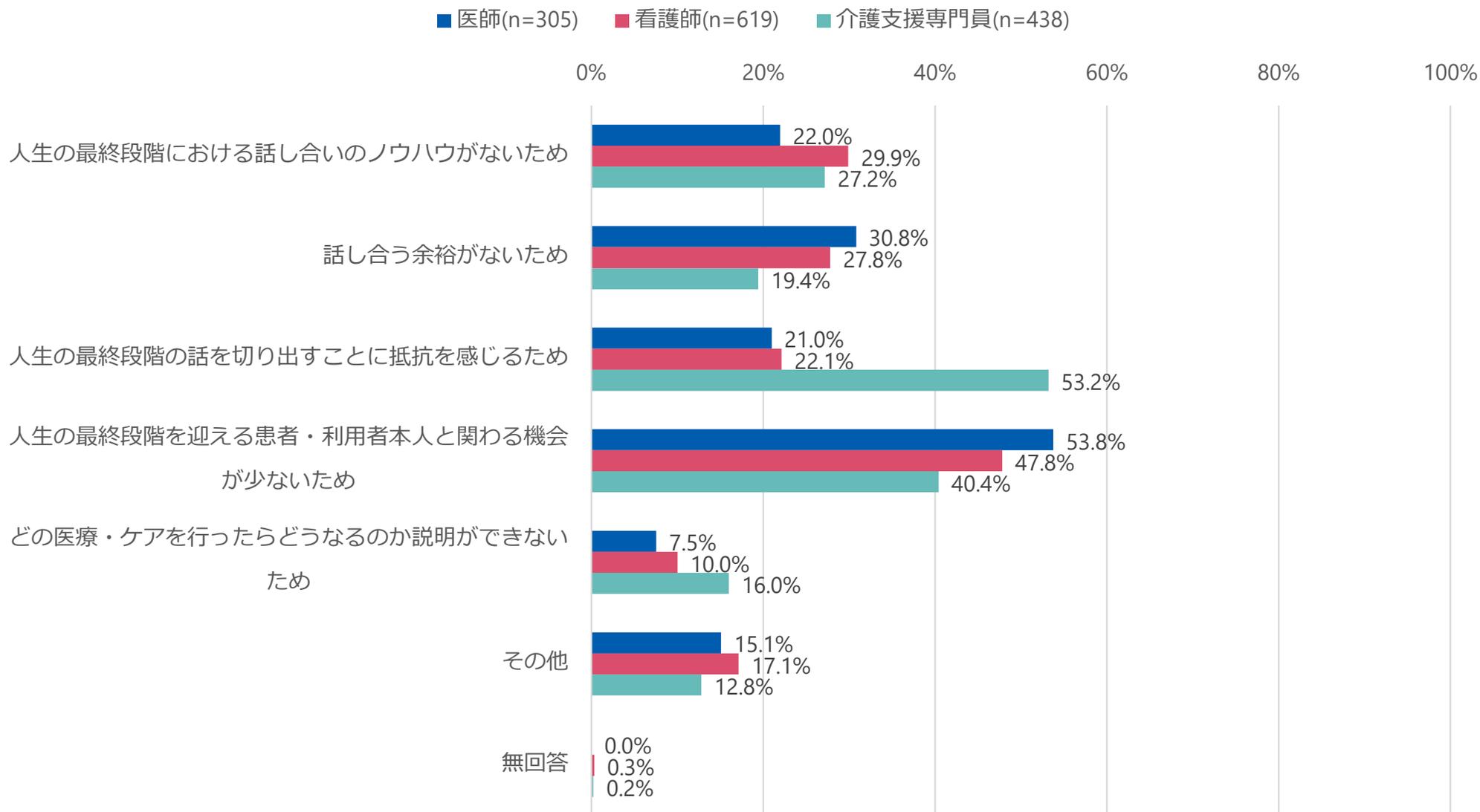
■ 記録に残して共有している ■ 記録には残していないが、日々のミーティング等で共有している ■ 特に共有していない ■ 無回答



医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

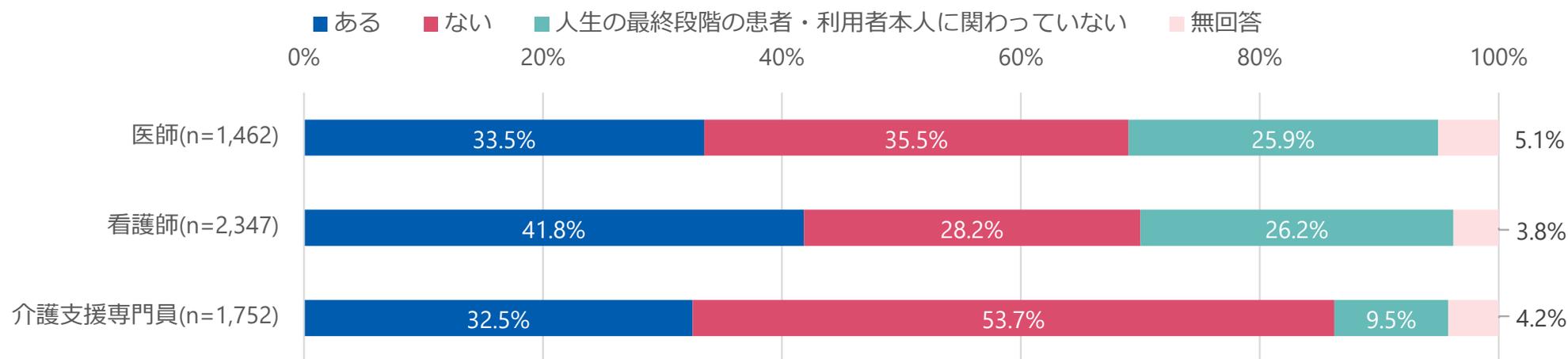
(問21で「3. ほとんど行っていない」と回答した方)

問21-4：ほとんど行っていない理由は何ですか。(複数回答可)



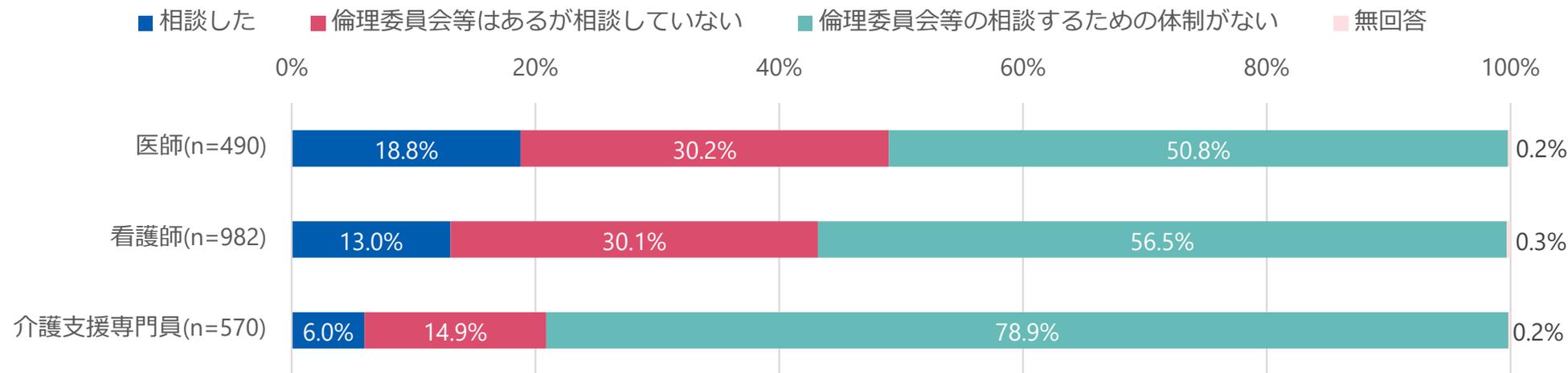
医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

問22：人生の最終段階における医療・ケアの方針について、医療・ケアチームの中で意見の相違を感じることはありますか。（○は1つ）



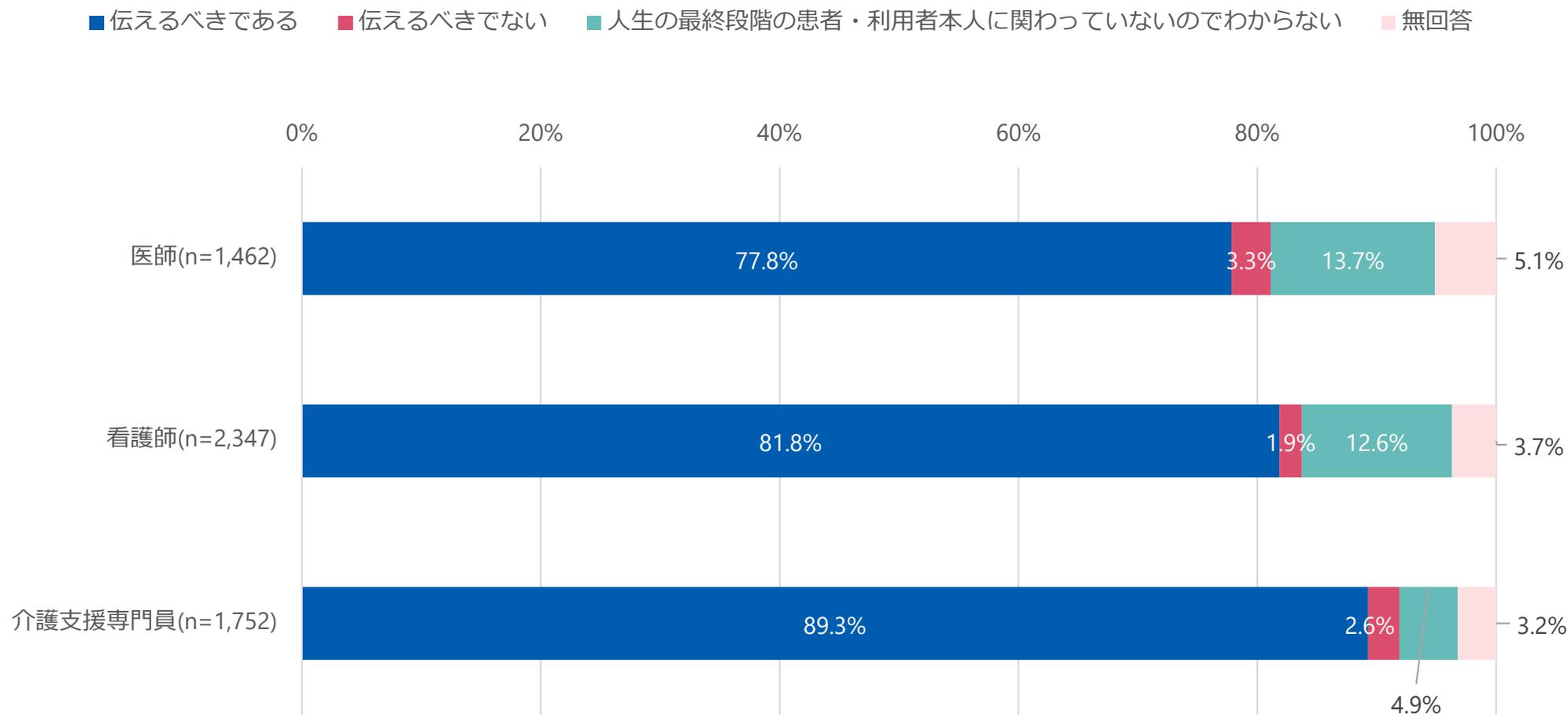
（問22で「1. ある」と回答した方）

問22-1：倫理委員会等（医療従事者等が助言を求めることができる複数の専門家からなるチーム等）に相談しましたか。（○は1つ）



医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

問23：あなたは患者・利用者本人が医療・ケアの選択について意思決定できなくなった場合に備えて、どのような医療・ケアを受けたいかあるいは受けたくないか、代わりに誰に意思決定してもらいたいのか、あらかじめ記載する書面（事前指示書）を用いる方法があることを伝えるべきだと思いますか。（〇は1つ）



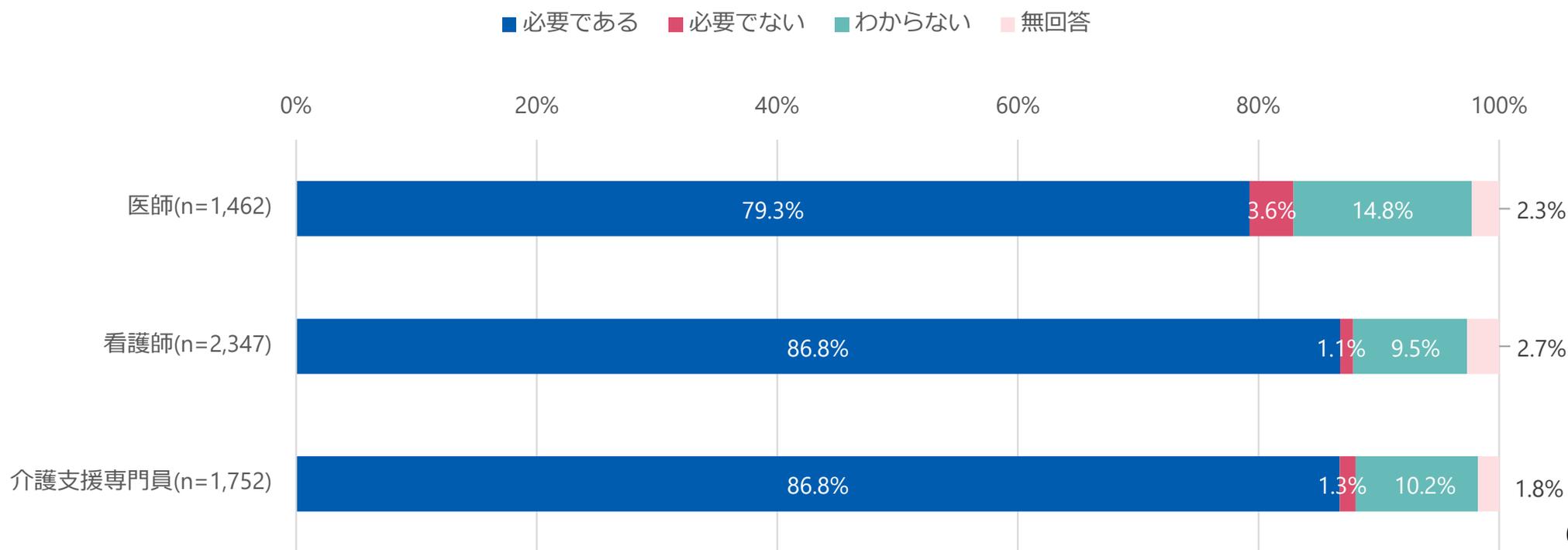
医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

人生会議（アドバンス・ケア・プランニング＜ACP＞）の解説

もしものときのために、本人が望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のことである。本人の同意のもと、話し合いの結果が記述され、定期的に見直され、医療・ケアチームの間で共有されることが望ましい。ACPの話し合いには次のような内容が含まれる。

- ・ 本人の気がかりや意向
- ・ 本人の価値観や目標
- ・ 病状や予後の理解
- ・ 医療やケアに関する意向や選好、その提供体制 等

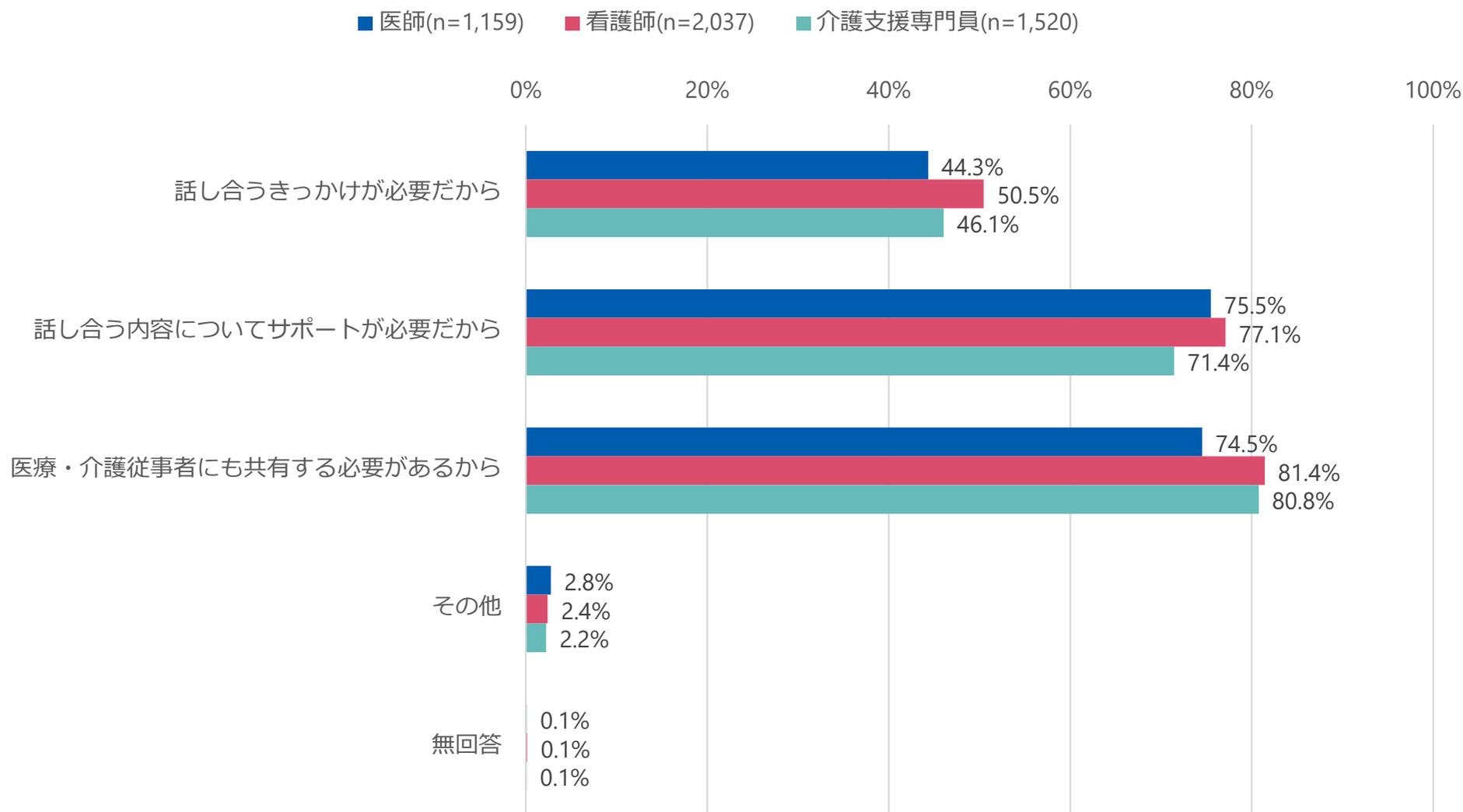
問24：あなたは、上記解説の人生会議（アドバンス・ケア・プランニング＜ACP＞）に医療・介護従事者が介入することについてどう思いますか。（○は1つ）



医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

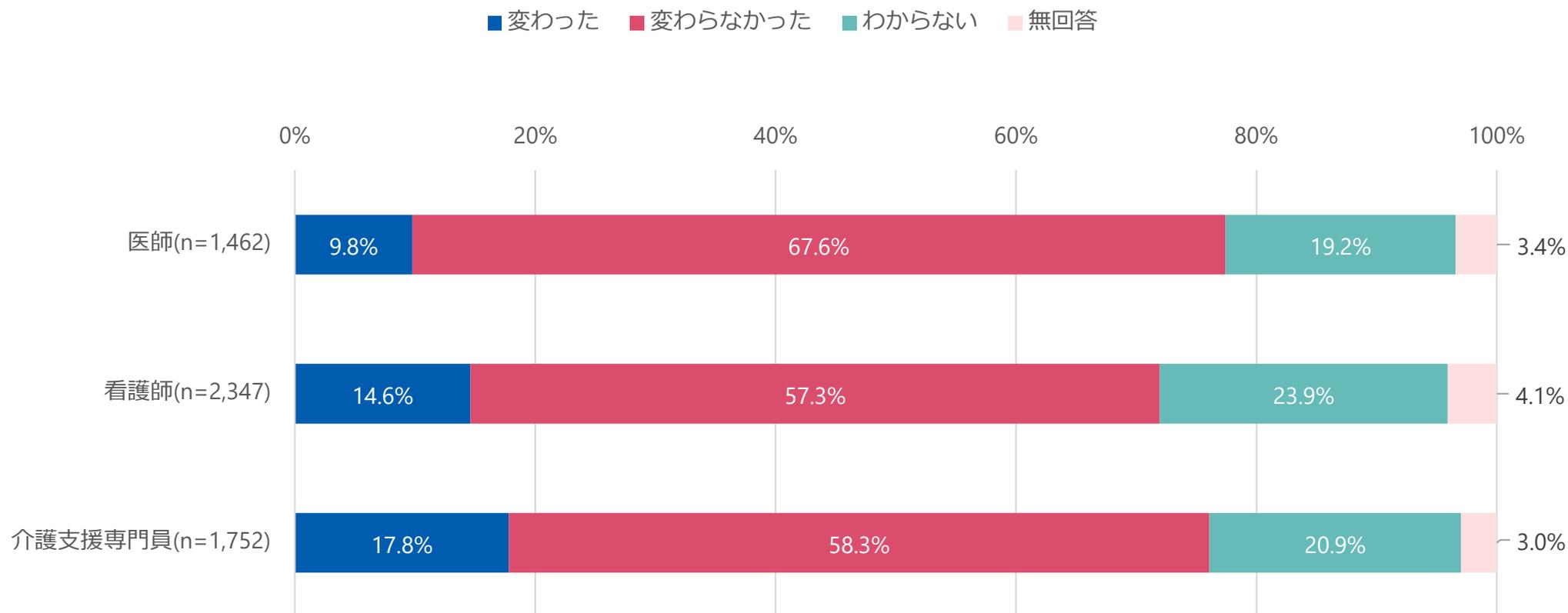
(問24で「1. 必要である」と回答した方)

問24-1：医療・介護従事者の介入が必要な理由についてどう考えますか。(複数回答可)



医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

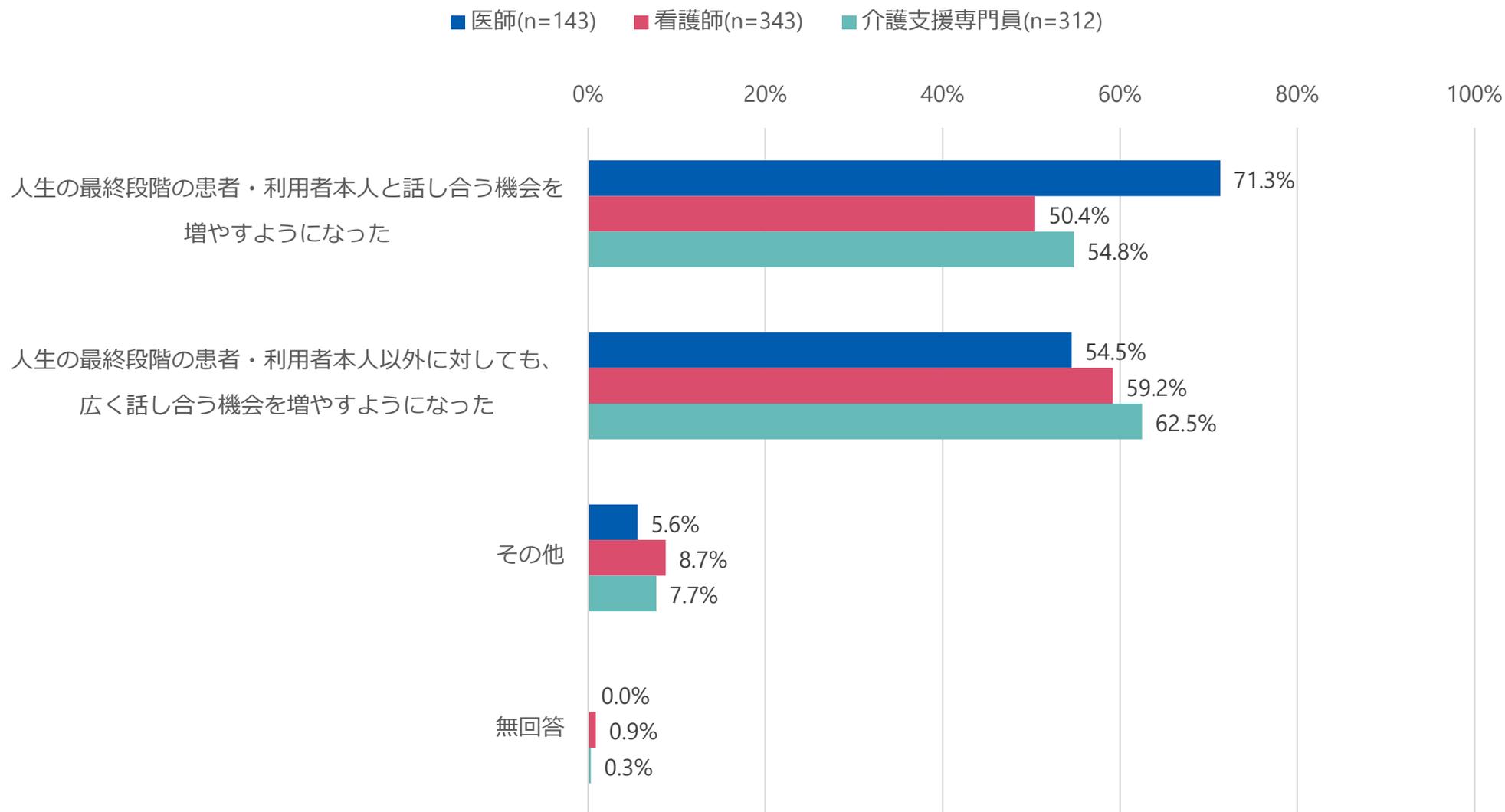
問25：今般の新型コロナウイルス感染症の拡大により、人生会議に医療・介護従事者が介入することについて考え方が変化しましたか。（○は1つ）



医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

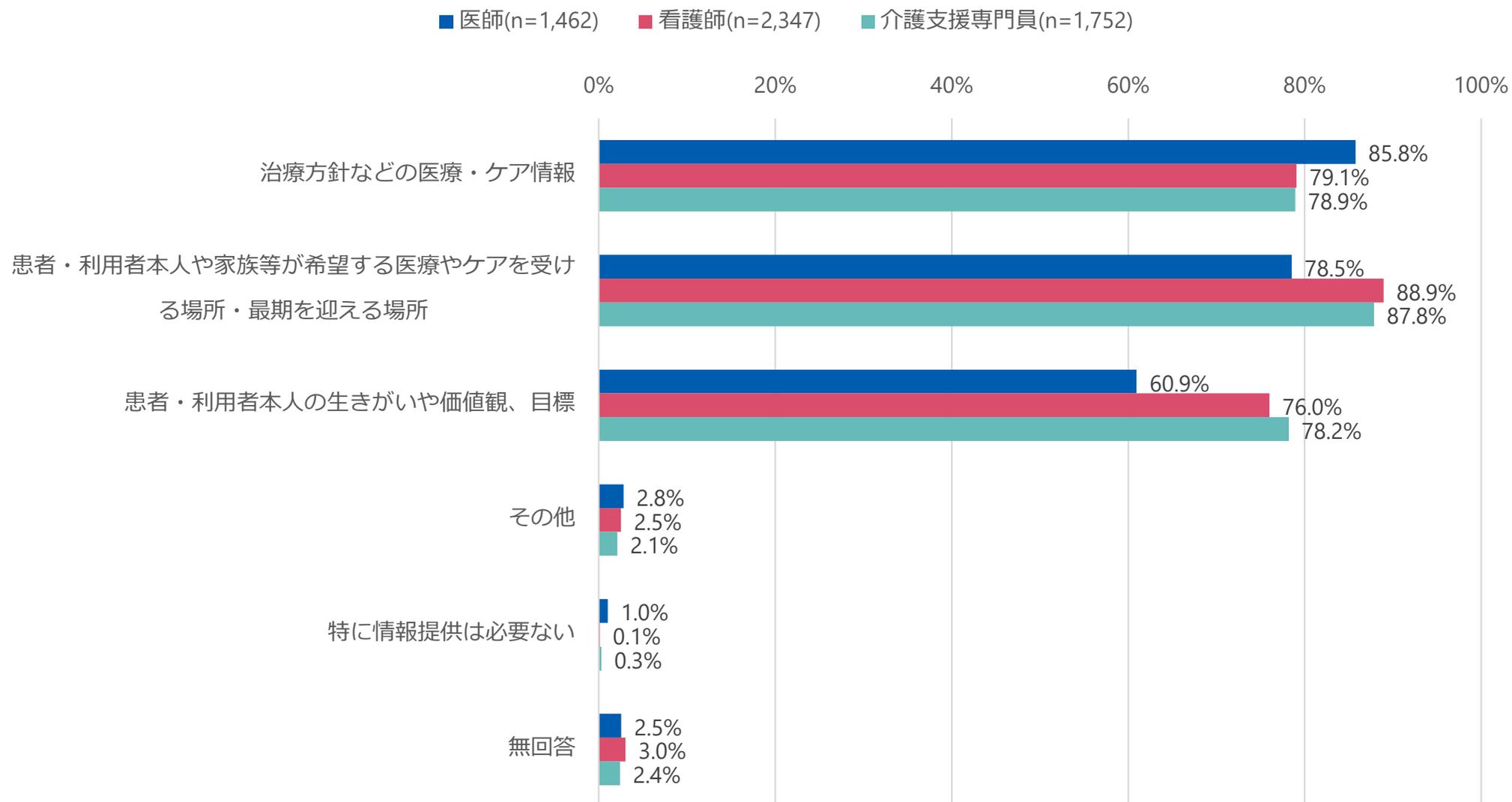
(問25で「1. 変わった」と回答した方)

問25-1：医療・介護従事者の介入がどのように変わりましたか。(複数回答可)



医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

問26：あなたは人生の最終段階における患者・利用者本人の医療・ケアについて、退院先へどのような情報を引き継ぐべきと考えますか。（複数回答可）



医療・介護従事者としての人生の最終段階における医療・ケアについて

問27：あなたは、人生の最終段階の定義や、延命治療の不開始、中止等を行う場合の判断基準について、どう考えますか。（〇は1つ）

- 詳細な基準を示すべきである
- 大まかな基準を作り、それにそった詳細な方針は、医師又は医療・ケアチームが患者・利用者本人や家族等と十分に検討して決定すればよい
- 一律な基準は必要なく、医師又は医療・ケアチームが患者・利用者本人や家族等と十分に検討して方針を決定すればよい
- その他（具体的に）
- わからない
- 無回答

